宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第117集

小屋原遺跡Ⅱ

令和７年３月

宇　都　宮　市

序

小屋原遺跡は、宇都宮市の東側を流れる鬼怒川の支流である江川沿いの台地上に立地し、周辺には大関台遺跡や瑞穂野団地遺跡など多くの遺跡が確認されており，それらの遺跡と本遺跡を合わせると、古墳時代後期から平安時代にかけての古代の大規模な集落が本地域に所在していたことがわかります。

本遺跡からは竪穴住居跡88軒，掘立柱建物跡35棟等が確認され，平成10年度調査区南側部分の遺構と遺物について報告書『小屋原遺跡Ⅰ』に掲載し昨年度刊行いたしました。本報告書では残りの調査区北側部分の遺構と遺物について報告するものです。

今回の報告書では、「財部」の文字が書かれた墨書土器や鉄製の鎌や刀子など遺跡の性格を示すような資料を掲載しており、本市における古代史の一端を解明する上で参考となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、ご尽力を賜りました栃木県教育委員会及び栃木県埋蔵文化財センター並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和7年3月14日

宇都宮市

市長　佐藤栄一

例　言

1　本報告書は、栃木県宇都宮市西刑部町 2180 他に所在する小屋原遺跡の発掘調査報告書である。本遺跡は国道 121 号線（瑞穂野バイパス）建設に伴う大関台遺跡（平成 13 年 3 月栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団）を挟んで南地区と北地区に分かれるが、本書はこのうちの北地区について報告するものである。なお、南地区については昨年度報告（宇都宮市教育委員会・令和６年『小屋原遺跡Ⅰ』）済みである。

2　本調査は、宇都宮市道 4114 号線（宇都宮市総合運動公園導入路）整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施したものである。

3　調査は平成 10 年７月から平成 12 年３月まで２次に渡って実施し、調査総面積は 25,000㎡である。なお各次の調査期間及び調査面積は以下のとおりである。

調査次数	対象地区	調査期間	調査面積
第１次調査	道路本体部	平成10年７月31日～平成11年３月31日	5,500㎡
第２次調査	進入道路北部	平成11年４月１日～平成12年３月31日	19,500㎡

4　発掘調査における測量及び写真撮影等は、京極隆利がこれにあたった。また報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、永岡亜紀・森千鶴子の協力を得て、田續麻友子・梁木誠がこれにあった。

5　本書の編集・執筆は、小曽戸祥彦との協議を踏まえ、梁木と田續がこれにあたった。

6　本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市で保管している。

7　発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員　塙　静夫
〃　大金宣亮
〃　橋本澄朗

〔事務局〕

〈発掘調査時〉

教育長　伊藤文雄
教育次長　須田彰市
文化課長　桜井敬朔
文化課長補佐　西田秀雄
文化財保護係長　手塚英男
文化財保護係　梁木　誠・小松俊雄・大塚雅之・栗原武夫・富川　努・神野安伸
増山孝之・今平利幸・京極隆利・清水正幸・高野欽哉・吉澤宣行

〈報告書作成時〉

市　長　佐藤栄一

文化都市推進課長　　吉澤正浩
文化都市推進課副主幹　　今平利幸
文化財保存活用グループ係長　星野治彦
文化財保存活用グループ　　水沼祐貴・小曽戸祥彦・岡本和也・松本尚樹・土田創太・青砥　匠・石塚佳織・斎藤美南海・小池千夏・高栖良子・梁木　誠（会職）・田續麻友子（会職）・永岡亜紀（会職）・森千鶴子（会職）・神野安伸（会職）

〔発掘調査補助員〕
阿久津キヨ　朝日義雄　荒井シゲ　石川泰子　稲尾茂　入江晴江　印出井和江　上野武留
宇賀神昇　大島栄子　大登綾　大沼康雄　岡田健男　笠井悦子　菊池貞夫　菊池幸子
菊池久男　栗原久美　坂村親彦　坂寄修二　佐々木睦弥　佐藤博　篠崎安子　篠崎善記
鈴木智子　関口典子　高橋節子　滝上二郎　田崎幸子　田崎望　田崎八重子　玉木里子
富田定治　富田宗郷　野口栄子　樋山ナミ子　平出宣幸　福田昭三　三村貞夫　矢古宇治雄
山田佐久二　山本令子　山室勝嗣　吉沢歳子　吉田ヒサ子　吉原啓夫　渡辺邦四郎

8　発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会（現：栃木県文化振興課）の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。（敬称略、順不同）栃木県立博物館、栃木県埋蔵文化財センター

凡　例

1　挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60、遺物は1/4もしくは1/2で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
2　断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
3　遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：ＬＲ、ロームブロック：ＬＢ、焼土：ＳＹ、焼土粒：ＳＹＲ、焼土ブロック：ＳＹＢ、鹿沼パミス：ＫＰ、今市パミス：ＩＰ、七本桜パミス：ＳＰ、炭化物：Ｃ、炭化物粒：ＣＲ、カクラン：Ｋ
4　遺構においては次の略号を使用した。
竪穴住居跡：SI、掘立柱建物跡：SB、井戸：SE、溝状遺構：SD、土坑：SK

目　次

挿図目次

表目次

図版目次

Ⅲ　遺構と遺物（北地区）

今回小屋原遺跡においては、第１次～２次合わせて25,000㎡（東西最大幅約260ｍ・南北長約370ｍ）が発掘調査の対象となった。地形的には北から南へなだらかに下る（標高差2.5ｍ）低平な台地上で、東側は南流する江川に面した緩やかな傾斜地となっている。調査前の土地利用は大部分が畑地又は水田で、一部に果樹園や雑木林がみられた。発掘調査の結果、竪穴住居跡88軒（南地区41軒・北地区47軒）、掘立柱建物跡35棟（南地区16棟・北地区19棟）、井戸20基（南地区13基・北地区７基）、溝状遺構55条（南地区38条・北地区17条）、土坑23基（南地区３基・北地区20基）等、多数の遺構が確認された。遺構の分布は調査区のほぼ全域に渡っているが、特に江川に面した台地東側縁辺部は密度が濃く、重複も多く見られた。

ここでは、栃木県教育委員会が調査した瑞穂野バイパス部分（大関台遺跡）以北の北地区で確認された遺構と遺物について報告する。

１　竪穴住居跡

ＳＩ１５（第５図、第88図）

概要：北東隅にカマドを有する小規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－６°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、周囲には大小の竪穴住居跡が密集する。　**規模**：南北2.58ｍ×東西3.09ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45ｍである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、下層にはロームブロックの混入が見られた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド前面は良く踏み固められている。　**カマド**：北東コーナー部に位置し、煙道は壁コーナーを30㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約1.0ｍ、幅約0.8ｍである。燃焼部は長さ約45㎝、深さ15㎝程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点のみで、カマド近くの床面直上からである。

ＳＩ１６（第４図、第89図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－12°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東端部で、大関台遺跡調査区から10ｍ程の距離である。　**規模**：南北4.95ｍ×東西5.24ｍのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.46ｍである。　**覆土**：５層程度に分層されたが、全体にロームブロックの混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。　**床面**：ほぼ平坦とみられるが、中央部が大きく攪乱を受けている。　**柱穴**：Ｐ１～Ｐ３（直径32～41㎝、深さ26～30㎝）が主柱穴とみられるが、対応する北西柱穴が確認されていない。　**入口ピット**：南壁ほぼ中央部で壁から45㎝程の位置で確認されたＰ４（直径28㎝・深さ９㎝）が入口ピットとみられる。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を55㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、遺存状況は不明瞭である。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏２点であり、いずれも床面直上からの出土である。

ＳＩ１７（第２図、第90図）

概要：東壁にカマドを有するやや小型の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－10°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東端部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。　**規模**：南北3.74ｍ×東西3.98ｍの長

方形で、確認面から床面までの深さは0.40 mである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、下層にはロームブロックの混入が見られた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。　**柱穴**：Ｐ１（直径41㎝・深さ23㎝）は柱穴とみられるが、対応する他の柱穴は確認されない。　**入口ピット**：南壁ほぼ中央で確認されたＰ２（直径33㎝・深さ23㎝）・Ｐ１（直径23㎝・深さ14㎝）が入口ピットとみられる。　**貯蔵穴**：南西コーナーで確認された一辺65㎝程の方形土坑で、深さは21㎝である。　**カマド**：東壁の南寄りに位置し、煙道は壁を60㎝程凸型に掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、遺存状態は不明瞭である。燃焼部は長さ約45㎝、深さ5㎝程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点と同甕１点である。土師器甕２はカマド袖部に倒立して置かれたものである。

ＳＩ１８（第３図、第91図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－９°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東端部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。　**規模**：南北3.72 m × 東西4.6 mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.12 mと浅めである。　**覆土**：自然堆積で３層に分層され、全体に小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ３（直径26～30㎝・深さ33～51㎝）とみられるが、対応する南東の柱穴は攪乱で失われている。　**入口ピット**：西壁沿いやや南寄りで確認されたＰ５～Ｐ７（直径31～35㎝・深さ26～32㎝）は、位置的に入口ピットとみられる。　**貯蔵穴**：南西コーナーで確認された一辺65㎝程の方形土坑で、深さは21㎝である。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を35㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、遺存状態は不明瞭である。燃焼部は長さ約45㎝、深さ5㎝程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点、同甑１点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ２０（第６図、第92図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SB02に切られる。主軸方位はＮ－23°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、周囲には竪穴住居跡が密集する。　**規模**：南北5.15 m × 東西5.36 mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.25 mである。　**覆土**：自然堆積で７層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。　**柱穴**：Ｐ１～Ｐ３（直径34～45㎝・深さ26～38㎝）が主柱穴とみられるが、対応する南東の柱穴は確認されない。Ｐ４～Ｐ６（直径30～35㎝・深さ９～18㎝）はいずれも浅く小規模な穴である。　**貯蔵穴**：北東コーナーで確認された77㎝×48㎝の長方形土坑で、深さは34㎝である。　**カマド**：北壁の中央やや西寄りに位置し、煙道は壁を35㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約75㎝、幅約90㎝である。燃焼部は長さ約55㎝、深さ15㎝程度の浅い掘り込みである。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏３点、同甕１点、須恵器坏１点、同高台付坏１点及び同蓋１点である。土師器坏３、同甕４及び須恵器高台付坏６は床面直上からの出土である。

ＳＩ２１（第７図、第93図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－18°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、周囲には大型の竪穴住居跡が並ぶ。　**規模**：南北4.43 m × 東西4.37 mのほ

ぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.36ｍである。　**覆土**：埋土は８層に分層されたが、全体に小ロームブロックの混入がみられ、人為的に埋め戻された可能性もみられる。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径21～32㎝、深さ25～48㎝）の４本で、柱間間隔は東西･南北とも2.45ｍ前後の正方形に配されている。**入口ピット**：南壁ほぼ中央から約15㎝の距離に位置し、口径が34㎝×21㎝の長方形で、深さは41㎝を測る。　**貯蔵穴**：カマドすぐ脇の北東コーナー部に位置し、南北71㎝・東西76㎝の不整な長方形で、深さは43㎝である。　**壁溝**：確認された壁溝は幅22～35㎝・深さ５～10㎝の幅の広いもので、北東の貯蔵穴部分を除きほぼ全周していたものとみられる。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を50㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約48㎝、幅105㎝である。燃焼部は長さ約55㎝、深さ10㎝程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**:図示し得たのは土師器坏４点、同甕４点、同甑１点、土製支脚１点及び弥生土器片１点で、土師器坏１・３、同甕６及び土製支脚は床面直上からの出土である。なお弥生土器11は覆土中に混入していたものである。

ＳＩ２２（第８・９図、第94・95・143・144図）

概要：北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－２°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、周囲には大型の竪穴住居跡が並ぶ。　**規模**：南北7.21ｍ×東西7.03ｍのほぼ正方形で、確認面から床面までは0.72ｍとかなり深めである。　**覆土**：自然堆積で11層に分層され、全体に焼土粒の混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺と中央部は良く踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径72～88㎝、深さ89～115㎝）の４本で、いずれも大型で深い。柱間間隔は南北が3.5ｍ前後、東西が3.2ｍ前後で、やや南北に長い配置である。なお４本とも断面から直径20㎝前後の柱痕跡を確認することができている。　**入口ピット**：南壁ほぼ中央から約50㎝の距離で確認されたＰ１・Ｐ２が入口ピットとみられる。口径は異なるが、深さはいずれも20㎝前後で、位置的に２つセットで使用されたものとみられる。　**貯蔵穴**：南西コーナーで確認された長方形土坑で、南北1.04ｍ、東西1.24ｍ、深さ38㎝である。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を1.35ｍ程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが遺存状況は不明確である。煙道の掘り込み等から推定して奥行き約75㎝、幅約110㎝程であったものとみられる。燃焼部は長さ約95㎝、深さ15㎝程度の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。なお、東壁の南東コーナー寄りに壁を抉ったカマドを設けたような跡がみられるが、付近に焼土や粘土は確認されていない。　**出土遺物**：出土遺物は非常に多く、図示し得たものだけでも土師器坏４点、同甕６点、同台付甕１点、須恵器坏12点、同高台付坏３点、同高台付盤１点、同蓋１点、同高坏１点、同平瓶１点、同甕２点、灰釉陶器長頸壷１点、平瓦片１点及び鉄製品６点（刀子、釘等）を数える。なお床面直上からの出土は少なく、大半が覆土中層から下層にかけてのものである。

ＳＩ２３（第10・１１・12図、第96図）

概要：ほぼ北半分がSI24に切られる中規模の竪穴住居跡であり、主軸方位はＮ－１°－Ｅである。**位置**：北地区の南東部で、周囲には大型の竪穴住居跡が並ぶ。　**規模**：南北推定3.7ｍ×東西4.78ｍの長方形で、確認面から床面までは0.32ｍである。　**覆土**：自然堆積で数層に分層さるとみられ、下層にはロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦である。　**柱穴**：残された床面内からはＰ１～Ｐ３（直径30～36㎝・深さ28～42㎝）の３つのピットが確認されているが、いずれも壁に近く配置的に主柱穴とは考えにくい。　**入口ピット**：Ｐ１～Ｐ３のいずれ

かが入口ピットである可能性は考えられる。　**カマド**：SI24に切られたことにより不明であるが、存在したとすれば北壁の可能性が高いものと思われる。　**出土遺物**:図示し得たのは土師器坏２点、同甕１点、須恵器坏１点、同高台付坏１点、同高坏１点、同鉢１点及び朱書のある須恵器片である。朱書のある須恵器片５は高台付盤の底部と思われ、外面に「□部」と朱書されている。

ＳＩ２４（第10・11・12図、第98・143・144図）

概要：北壁にカマドを有する大型の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－２°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、周囲には大型の竪穴住居跡が並ぶ。　**規模**：南北8.43ｍ×東西7.76ｍのほぼ長方形で、確認面から床面までは0.54ｍと深めである。　**覆土**：自然堆積で14層に分層され、全体に焼土粒の混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド周辺と中央部は良く踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径78～94㎝、深さ62～83㎝）の４本で、いずれも大型で深い。柱間間隔は南北が4.2ｍ前後、東西が4.0ｍ前後で、やや南北に長い配置である。一方Ｐ５～Ｐ８（直径47～56㎝、深さ33～67㎝）も一回り小さい主柱穴の一組であり、柱間間隔は南北が3.7ｍ前後、東西が3.5ｍ前後で、やはり南北に長い配置である。重複関係は不明確であるが、恐らく拡張に伴ってＰ５～Ｐ８からＰ１～Ｐ４へ付け替えられたものと考えられる。Ｐ９・Ｐ10(直径25～30㎝、深さ45～46㎝）はカマドに伴う壁柱穴とみられる。Ｐ11・Ｐ12（直径25㎝前後、深さ36～49㎝）もほぼ同間隔（２ｍ弱）であり、主柱穴Ｐ５～Ｐ８段階のカマドに伴う壁柱穴と覆われる。なお南壁のＰ15～Ｐ17（直径25㎝前後、深さ12～29㎝）も壁柱穴とみられるが、全体には確認されていない。　**入口ピット**：南壁ほぼ中央から約70㎝の距離で確認されたＰ13（平面42×32cm、深さ47㎝)・Ｐ14（平面38×30cm、深さ46㎝）が入口ピットとみられる。二つはいずれも平面長方形で、間隔は約60㎝。恐らくセットで使用されたものとみられる。　**貯蔵穴**:南西コーナーで確認されたやや浅い方形土坑で、一辺約90㎝、深さ21㎝である。　**カマド**:北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を60㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが遺存状況は不明確である。燃焼部の掘り込み等から推定して奥行き約80㎝、幅約120㎝程であったものとみられる。燃焼部は長さ約110㎝、深さ20㎝程度の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**:出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器坏１点、同甕１点、須恵器坏９点、同高台付坏２点、同椀１点、同高台付盤３点、同蓋７点、同高坏２点、同甕１点及び鉄製品８点（鎌、刀子、鉄斧、釘等）である。床面直上からの出土は少なく、大半が覆土中層から下層にかけてのものである。なお墨書土器が３点（７は「財」か、11は「財部」か、13は「財部」)、朱書土器が１点（24の「財部」）みられ、いずれも財部に関わるものである。

ＳＩ２５（第14図、第99・143・144図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－１°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、周囲には大型の竪穴住居跡が並ぶ。　**規模**：南北5.03ｍ×東西5.84ｍの長方形で、確認面から床面までは0.53ｍと深めである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、全体に焼土粒の混入がみられた。　**床面**：ロームブロックを主体とした貼り床でほぼ平坦に仕上げられ、中央部からカマド周辺はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴は東西軸線上に置かれたＰ１・Ｐ２（直径34～38㎝、深さ56～67㎝）の２本で、柱間間隔は1.35ｍである。　**入口ピット**：南壁ほぼ中央から約30㎝の距離で確認されたＰ３（直径45㎝、深さ39㎝）が入口ピットとみられる。　**カマド**：カマドは二か所で確認されている。カマド１は北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を65㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが遺存状況は不明確で、燃焼部は長さ75㎝・深さ25㎝ほどの掘り込みである。カマド２は北東コー

ナー部に位置し、煙道は壁30㎝ほど掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが遺存状況は不明確で、燃焼部は長さ85㎝・深さ10㎝ほどの浅い掘り込みである。　**出土遺物**:出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器坏４点、同皿１点、同高台付埦１点、墨書土器片１点、同甕６点、須恵器坏７点、同高台付坏１点、同蓋４点、同長頸壷１点、同甕１点、平瓦片１点及び鉄製品７点（鉄鏃、刀子、釘、鉄滓等）である。床面直上からの出土は少なく、大半が覆土中層から下層にかけてのものである。なお墨書土器が２点（３は「糸□」、７は「財」か）みられる。

ＳＩ３０（第13図、第97図）

概要:北壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－14°－Ｗである。　**位置**:北地区の南東端部で、南壁は大関台遺跡調査区にほぼ接している。　**規模**：南北約3.22ｍ×東西4.73ｍの長方形で、確認面から床面までは0.67ｍと深めである。　**覆土**：６層に分層されるが、全体にロームブロックの混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が強い。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：床面内からは確認されていない。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道の壁への切込は約20㎝と浅い。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ55㎝・深さ10㎝ほどの掘り込みである。**出土遺物**:図示し得たのは土師器坏２点、同甕１点、須恵器坏１点、同高台付坏１点、同蓋１点で、土師器甕３は床面直上からの出土である。土師器坏２は底部片で、外面に墨書（「財部山家」か）がみられる。

ＳＩ３９（第15図、第100図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－３°－Ｅである。　**位置**：北地区のほぼ中央部で、大関台遺跡調査区からは約30ｍ北に位置する。　**規模**：南北約3.98ｍ×東西4.56ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.23ｍである。南東及び南西の角は、隅丸の形状である。　**覆土**:自然堆積で６層に分層され、下層には焼土・炭化物等の混入がみられた。**床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径39～55㎝、深さ54～61㎝）の４本である。柱間間隔は南北が2.4ｍ前後、東西が2.25ｍ前後で、竪穴とは違いやや南北に長い配置である。　**入口ピット**：南壁沿いのほぼ中ほどから確認されたＰ５（直径30㎝、深さ24㎝）で、カマドの真向かいに位置する。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道の壁への切込は約65㎝で、やや凸形を呈する。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約80㎝・深さ10㎝ほどの掘り込みである。　**出土遺物**：出土遺物は比較的多く、図示し得たのは土師器坏９点、同手捏ね土器１点、同甕３点、同台付甕１点、須恵器坏３点、同高台付坏１点、同蓋１点及び鉄鏃１点である。土師器坏４～７等、床面直上から出土したものも多くみられる。

ＳＩ４０（第16図、第101図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－10°－Ｗである。　**位置**：北地区のほぼ中央部で、大関台遺跡調査区からは約40ｍ北に位置する。　**規模**：南北約5.30ｍ×東西4.93ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.16ｍである。北東の角は、隅丸の形状である。　**覆土**：自然堆積で８層に分層された。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径42～51㎝、深さ71～105㎝）の４本である。柱間間隔は南北が3.4ｍ前後、東西が2.3ｍ前後で、竪穴と同じく南北に長い配置

であるが、北側のＰ１・Ｐ２はかなり壁に寄っている。　**入口ピット**：南壁沿いのほぼ中ほどから確認されたＰ５（直径34㎝、深さ32㎝）で、壁から約40㎝に位置する。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を約60㎝掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、奥行き約50㎝、幅約125㎝である。燃焼部は長さ約70㎝・深さ20㎝ほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏３点、灰釉陶器長頸壷片１点及び刀子片１点である。

ＳＩ５４（第17・18図、第103・141・143・144図）

概要：北壁にカマドを有するやや大型な竪穴住居跡で、カマド前面をSE12に切られている。主軸方位はＮ－３°－Ｗである。　**位置**：北地区のほぼ中央部で、大関台遺跡調査区からは北に約40ｍの地点に位置する。　**規模**：南北6.57ｍ×東西推定7.19ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.18ｍとやや浅めである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、全体に焼土粒の混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径48～55cm・深さ55～92cm）の４本で、柱間間隔は南北3.25ｍ前後、東西3.85前後の長方形に配されている。Ｐ５・Ｐ６（直径40～45㎝・深さ61～65㎝）は規模的に南辺Ｐ３・Ｐ４の付け替えとみられる。なおＰ10・Ｐ11（直径24～28㎝・深さ27～36㎝）は位置的にカマド１に伴う柱穴と思われる。　**壁溝**：確認されたのは西壁下のみで、大きさは幅20㎝前後・深さ約15㎝である。　**カマド**：北壁の東寄りに二つのカマドがみられる。カマド１は壁を約20㎝掘り込んだ煙道を有し、袖部は灰褐色粘土を主体に幅115㎝・奥行80㎝ほどの大きさに造られている。燃焼部は長さ95㎝・深さ20㎝ほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。カマド２は壁を110㎝ほど掘り込んだ長めの煙道部が残るが、袖部や燃焼部は不明瞭である。遺存状況等からカマド２からカマド１への付け替えとみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕１点、須恵器坏４点、石製紡錘車１点及び鉄製品８点（鉄鏃、刀子、鉄斧、釘、耳環、鉄滓等）で、床面直上から出土したものが多くみられる。

ＳＩ５５（第19図、第102図）

概要：北半部が調査区外となる中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－２°－Ｗである。　**位置**：北地区のほぼ中央部で、SI40・54等の北側に隣接する。　**規模**：南北2.5ｍ以上×東西5.06ｍの方形で、確認面から床面までの深さは0.21ｍである。　**覆土**：自然堆積で10層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が多くみられた。　**床面**：ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子はみられない。　**柱穴**：調査範囲内には確認されていない。　**カマド**：調査範囲内には確認されていない。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏片１点のみであり、覆土中からの出土である。

ＳＩ５９（第21図、第104・143図）

概要：西半分が調査区外となっているが、北壁にカマドを有するやや小型な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－14°－Ｗである。　**位置**：北地区の中央北端部で、大関台遺跡調査区の北方約100ｍに位置する。　**規模**：南北3.65ｍ×東西2.4ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.37ｍである。　**覆土**：自然堆積で７層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：床面中央東寄りに位置するＰ１（直径42㎝・深さ73㎝）は、東西２本主柱の一本と考えられる。東寄りコーナー部から確認されたＰ２・Ｐ３（直径30～38㎝・深さ25～34㎝）はいずれも浅いものであり、支柱

的なものとみられる。　**壁溝**：確認された壁溝は幅15～20㎝・深さ10㎝前後で、東壁から南壁にかけて巡らされている。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置するものとみられ、煙道は壁を95㎝ほど大きく掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、推定で幅約1m・奥行0.6mである。燃焼部は長さ110㎝・深さ15㎝ほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏1点、同甕2点、同甑1点、須恵器坏1点、同高台付坏1点、同高坏1点及び刀子片3点（同一個体とみられる）である。

ＳＩ６０（第23図、第105・142図）

概要：北壁にカマドを有する中規模な竪穴住居跡で、北西隅をSB18に切られている。主軸方位はN－22°－Wである。　**位置**：北地区の中央北端部で、大関台遺跡調査区の北方約100mに位置する。　**規模**：南北4.37m×東西4.71mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.29mである。　**覆土**：自然堆積で6層に分層され、中層には焼土粒の混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径39～44cm・深さ64～78cm）の4本で、柱間間隔は南北1.95m前後、東西2.2前後で、竪穴と同じ長方形に配されている。　**貯蔵穴**：北東コーナー付近に位置し、南北55㎝×東西62㎝の不正方形で、深さは30㎝である。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を35㎝ほど掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたもので、幅約1m・奥行0.9mである。燃焼部は長さ70㎝・深さ15㎝ほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏4点、同埦1点、同鉢1点、同甕2点、須恵器坏1点、同甕1点及び砥石1点であり、ほとんどが覆土中層～下層の出土である。

ＳＩ６１（第22図、第106・143図）

概要：北壁部が調査区外となるやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN－1°－Wである。　**位置**：北地区の中央部で、最も北端に位置する。　**規模**：南北3.2m以上×東西3.74mの方形で、確認面から床面までの深さは0.21mである。　**覆土**：自然堆積で5層に分層され、中層には焼土粒の混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認された柱穴はＰ１（直径23㎝・深さ27㎝）とＰ２（直径25㎝・深さ63㎝）の2本だけであり、位置的に主柱穴かどうかは不明である。　**カマド**：北壁にカマドが敷設されている可能性は考えられる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕1点、須恵器坏3点及び釘1点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ６２（第24図、第108・144図）

概要：北壁にカマドを有する中規模な竪穴住居跡で、北辺部がSB20を切っている。主軸方位はN－8°－Wである。　**位置**：北地区の中央北端部で、大関台遺跡調査区の北方約100mに位置する。　**規模**：南北4.57m×東西5.19mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.36mである。　**覆土**：自然堆積で10数層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されない。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を60㎝ほど大きく掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ75㎝・深さ20㎝ほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕4点、須恵器坏4点、同蓋1点、同鉢1点及び釘1点であり、ほとんどが覆土中からの出土である。

ＳＩ６３（第20図、第107図）

概要：北壁にカマドを有するやや小型な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－３°－Ｗである。　**位置**：北地区の中央北端部で、大関台遺跡調査区の北方約100ｍに位置する。　**規模**：南北3.04ｍ×東西4.30ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.24ｍである。　**覆土**：自然堆積で９層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されない。　**入口ピット**：南壁のほぼ中央から確認されたＰ１（直径24㎝・深さ12㎝）は、位置的に入口にかかわるピットとみられる。　**カマド**：北壁の中央やや東寄りに位置し、煙道は壁を70㎝ほど大きく掘り込んで造られている。袖部は黄褐色粘土を主体に造られたもので、幅約135㎝・奥行約45㎝である。燃焼部は長さ85㎝・深さ15㎝ほどの掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点、須恵器坏１点、同高台付坏２点、土製紡錘車１点及び刀子片１点である。なお土師器坏１の底部外面には「後部」の墨書がみられる。

ＳＩ６５（第25図、第109図）

概要：北辺部が調査区外となる中規模な竪穴住居跡で、SB29を切っている。主軸方位はＮ－６°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東端部で、大関台遺跡調査区の北方約100ｍに位置する。　**規模**：南北3.6ｍ以上×東西4.43ｍの方形で、確認面から床面までの深さは0.38ｍである。　**覆土**：自然堆積で７層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されない。　**カマド**：調査範囲内では確認されず。南北断面Ｂ－Ｂ′の北寄りの層に焼土粒の混入がみられることから、調査区外の北壁に敷設されている可能性が高いと思われる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏２点、同甕１点、須恵器坏３点、同高台付坏２点、同蓋３点、同甕２点及び刀子１点である。なお須恵器坏片８には体部外面に墨書（判読不明）がみられる。

ＳＩ６６（第27・28図、第110・143・144図）

概要：北壁にカマドを有する中規模な竪穴住居跡で、SB29及びSD41に切られている。主軸方位はＮ－17°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東端部で、大関台遺跡調査区の北方約100ｍに位置する。　**規模**：南北5.74ｍ×東西5.78ｍのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.54ｍと深めである。　**覆土**：15～16層に細かく分層されるが、全体にロームブロック、小ロームブロックの混入が多く、人為的埋没の可能性も考えられる。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径33～37㎝・深さ45～64㎝）の４本で、柱間間隔は南北2.65ｍ前後、東西3.45ｍ前後の長方形に配されている。なおＰ５～Ｐ７（直径25～40㎝・深さ45～60㎝）はＰ３と組んで建て替え前の４本主柱であったものと思われる。　**壁溝**：確認された壁溝は幅10～20㎝・深さ５～10㎝で、各壁とも断続的に残されている。　**間仕切り溝**：確認された間仕切り溝は幅10～14㎝・深さ５㎝前後で、西壁とＰ１・Ｐ３を繋ぐように配されている。　**入口ピット**：南壁の中央やや西寄りのＰ８（長さ約60㎝×幅約35㎝・深さ20～30㎝の溝状）は位置的に入口に関わるピットとみられる。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を65㎝ほど掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、奥行き55㎝、推定幅約1.3ｍである。燃焼部は長さ95㎝、深さ15㎝程の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：出土遺物は非常に多く、図示し得たものだけでも土師器坏12点、同椀２点、手捏ね土器３点、同甕８点、同塩壷３点、土製支脚１点及び鉄製品２点（釘、鋏等）を数え、床面直上からのものも多くみられる。

ＳＩ６７（第26図、第111・144図）

概要：北壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－４°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東端部で、東側は江川低地に面する。　**規模**：南北3.49ｍ×東西4.48ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.36ｍである。　**覆土**：自然堆積で12層に分層され、全体に小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されない。　**入口ピット**：南壁中央やや東寄りから確認されたＰ１（直径26㎝・深さ15㎝）は、位置的に入口にかかわるピットとみられる。　**カマド**：北壁の東寄りに位置し、煙道は壁を75㎝ほど大きく掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅約1.1ｍ、奥行き58㎝である。燃焼部は長さ73㎝、深さ10㎝程の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たものは土師器坏１点、同甕１点、須恵器坏１点、同蓋３点、同甕１点及び釘１点である。なお須恵器坏３の底部外面には朱書「□（酒ヵ）」、須恵器蓋４の内面には墨書「□（木と十の合字ヵ）」がそれぞれみられる。

ＳＩ６８（第29図、第112・143図）

概要：北壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－23°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東端部で、大関台遺跡調査区の北方約90ｍに位置する。　**規模**：南北3.75ｍ×東西4.18ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.63ｍと深めである。　**覆土**：自然堆積で18層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部とカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径32～42㎝・深さ36～61㎝）の４本で、柱間間隔は南北約2.1ｍ、東西約2.45ｍの長方形に配されている。　**壁溝**：確認された壁溝は幅10～18㎝・深さ10㎝前後で、南壁の一部を除き全周している。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を55㎝ほど掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅1.05ｍ、奥行き56㎝である。燃焼部は長さ約50㎝、深さ10㎝程の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏４点、同甕５点、塩壷１点及び刀子１点である。なお土師器甕６はカマドの煙道部分に使用されていたものである。

ＳＩ６９（第30図、第113図）

概要：北東部が調査区外となる竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－９°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東端部で、東側は江川低地に面している。　**規模**：南北3.5ｍ以上×東西2.7ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.21ｍである。　**覆土**：自然堆積で６層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部付近はよく踏み固められている。　**柱穴**：南東コーナー付近から確認されたＰ１（直径31㎝・深さ46㎝）は主柱穴の１本とみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点、同高坏１点の２点のみである。なお土師器高坏２の坏部外面には墨書「一」がみられる。

ＳＩ７０（第31図、第114図）

概要：北東部が調査区外となる竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－４°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東端部で、東側は江川低地に面している。　**規模**：南北2.1ｍ以上×東西2.6ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.24ｍである。　**覆土**：自然堆積で８層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：壁付近にはやや凹凸がみられ、内部もあまり踏み固められた様子がみられない。　**柱穴**：調査範囲内には確認されない。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏１点、同高台付坏１点の２点で、いずれも床面直上からの出土である。

ＳＩ７１（第32図、第115・142・143図）

概要：東壁部が調査区外となる小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－12°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東端部で、東側は江川の低地に面する。　**規模**：南北3.24ｍ×東西3.2ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.22ｍである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子は認められない。なお、中央部やや東寄りには直径１ｍ弱・深さ25㎝前後の不整形土坑が確認されている。　**柱穴**：北西コーナー付近のＰ１（直径44㎝・深さ37㎝）が確認された唯一の柱穴である。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏２点、同甕１点、鎌１点及び砥石１点である。なお土師器坏２の体部外面に小さな墨書（判読不明）がみられる。

ＳＩ７２（第33図、第116図）

概要：北壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－５°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北方約70ｍに位置する。　**規模**：南北3.94ｍ×東西3.18ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.20ｍである。　**覆土**：自然堆積で12層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されない。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置するが、煙道部は攪乱を受け不明である。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅約1.4ｍ、奥行き40㎝前後である。燃焼部は長さ約60㎝、深さ10㎝程の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕１点、同鉢１点、須恵器坏４点、同甕１点である。なお須恵器坏３の底部外面には刻書「□□（万呂ヵ）」がみられる。

ＳＩ７３（第34図、第117図）

概要：東壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、SB28に切られている。主軸方位はＮ－５°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北方約70ｍに位置する。　**規模**：南北4.03ｍ×東西4.71ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.12ｍと浅めである。　**覆土**：自然堆積で７層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部からカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径27～31㎝・深さ30～56㎝）の４本で、柱間間隔は南北約1.8ｍ、東西2.2ｍ前後で長方形に配されている。なおこれら主柱穴の配置は、竪穴平面に対してやや東寄りである。　**カマド**：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を15㎝ほど浅く掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたものとみられるが、SB28の柱穴に切られて不明瞭である。燃焼部は長さ約75㎝、深さ10㎝程の浅い掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏４点、同甑１点で、いずれも床面直上からの出土である。

ＳＩ７４（第35図、第118図）

概要：東壁側が大きく攪乱された中規模の竪穴住居跡である。主軸方位はＮ－５°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東端部で、東側は江川の低地に面する。　**規模**：南北4.76ｍ×東西4.83ｍのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.27ｍである。　**覆土**：自然堆積で９層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径39～43㎝・深さ41～94㎝）の４本で、柱間間隔2.9ｍ前後でほぼ正方形に配されている。　**カマド**：北壁には確認されなかったが、大きく攪乱を受けた東壁に存在した可能性が考えられる。

出土遺物：図示し得たのは土師器坏６点、同埦１点、同鉢１点、手捏ね土器１点、同甕１点、須恵器坏１点、同瑳１点及び釘１点であり、ほとんどが床面直上からの出土である。なお土師器坏６の体部外面には墨書「生田」がみられる。

ＳＩ７５（第36・37図、第119・120・143・144図）

概要：北壁にカマドを有するやや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－２°－Ｅである。　**位置**：北地区の東端部で、大関台遺跡調査区の北方約50ｍに位置する。　**規模**：南北7.14ｍ×東西6.85ｍのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.33ｍである。　**覆土**：自然堆積で９層に分層され、全体に炭化物や焼土粒の混入が多くみられた。下層には炭化材等の出土もあったことから、焼失家屋の可能性が高いものとみられる。　**床面**：ほぼ平坦な貼り床で、中央部はよく踏み固められている。この貼り床をはがしたところ、建て替え前の主柱穴（Ｐ５～Ｐ８）とともに凹凸のある堀方が確認されている。　**柱穴**：建て替え後の主柱穴はＰ１～Ｐ４（直径55～67㎝・深さ42～75㎝）の４本で、柱間間隔は南北3.3ｍ前後、東西約4.0ｍの長方形に配されている。また建て替え前の主柱穴はＰ５～Ｐ８（直径41～64㎝・深さ60～72㎝）の４本で、柱間間隔は南北2.65ｍ前後、東西3.3ｍ前後であり、Ｐ１～Ｐ４のすっぽり内側に配されている。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を約80㎝大きく掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅約1.5ｍ・奥行0.6ｍである。燃焼部は長さ65㎝・深さ約20㎝の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。なお、両袖外側の壁際から確認されたＰ９・Ｐ10（直径28～30㎝・深さ35～41㎝）は、カマド部分の上屋に関わる柱穴とみられる。　**出土遺物**：出土遺物は極めて多く、図示し得たものだけでも土師器坏２点、同甕１点、須恵器坏13点、同高台付坏６点、同高台付盤６点、同蓋７点、同高坏４点、同捏鉢１点、同鉢１点、同長頸壷１点、同甕１点及び鉄製品３点（鉄鏃、釘等）を数える。出土位置はカマド周辺を中心に全体的に広がっており、床面直上からの出土も多くみられる。墨書土器も多く、土師器坏１の底部外面には墨書「阿法」が、同坏２の体部外面には墨書「□（満ヵ）□（部ヵ）□」が、須恵器高台付坏17の底部外面には墨書「物、□（財ヵ）部、一」が、須恵器蓋32の内面には「□□（万呂ヵ）」がそれぞれみられる。なお須恵器高台付坏18の底部外面には朱墨痕が、同21・22の底部外面には墨痕がそれぞれみられ、転用硯として使用されたものと思われる。

ＳＩ８１（第38図、第121図）

概要：北壁にカマドを有する小規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－13°－Ｗである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約80ｍに位置する。　**規模**：南北3.02ｍ×東西3.77ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.24ｍである。　**覆土**：自然堆積で６層に分層され、下層にはローム粒の混入が多くみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：床面内からは確認されていない。　**カマド**：北壁のやや西よりに位置し、煙道は壁を55㎝程掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたものとみられるが形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約60㎝・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕２点、同高坏１点、須恵器坏２点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ８２（第39図、第122図）

概要：北壁と東壁にカマドを有する小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－１°－Ｗである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約80ｍに位置する。　**規模**：南北2.96ｍ×東西3.64

mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.15 mと浅めである。　**覆土**：自然堆積で４層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：床面内からは確認されていない。　**カマド**：カマド１は北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を35㎝程掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたものとみられるが形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約60㎝・深さ10㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。カマド２は東壁のかなり北寄りに位置し、煙道は壁を約70㎝大きく掘り込んで造られている。袖部及び燃焼部は不明瞭であり、カマド１以前に使用されたものとみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕２点、須恵器坏１点で、土師器甕２点はカマド１内からの出土である。

ＳＩ８３（第40図、第123図）

概要：東壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－１°－Ｅである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約70 mに位置する。　**規模**：南北3.57 m×東西4.28 mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.29 mである。　**覆土**：自然堆積で４層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：床面内からは確認されていない。　**カマド**：東壁のかなり南寄りに位置し、煙道は壁を60㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたもので、幅約１m・奥行0.6 mほどである。燃焼部は長さ約60㎝・深さ25㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点、同甕２点、同坏２点、同蓋１点、同甕１点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ８４（第41図、第124図）

概要：北壁にカマドを有するやや小規模な竪穴住居跡で、中央東半部に大きな攪乱がみられる。主軸方位はＮ－14°－Ｅである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約60 mに位置する。　**規模**：南北3.30 m×東西4.25 mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.31 mである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：床面内からは確認されていない。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を45㎝程掘り込んで造られている。袖部は半壊しているが、灰褐色粘土を主体に造られたもので、推定で幅約1.2 m・奥行0.5 mほどである。燃焼部は長さ約65㎝・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏１点、同甑１点及び丸瓦片１点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ８５（第43図、第125図）

概要：南東部が調査区外となるが、北壁にカマドを有するやや大型の竪穴住居跡で、SI91に切られている。主軸方位はＮ－５°－Ｗである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約60 mに位置する。　**規模**：南北4.8 m以上×東西4.7 m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.29 mである。　**覆土**：自然堆積で７層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、カマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されたのは北西コーナー付近のＰ１（直径41㎝・深さ62㎝）だけである。おそらく４本主柱の一本とみられる。　**カマド**：北壁の中ほどに位置するとみられ、煙道は壁を45㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約75㎝・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕２点、

須恵器坏２点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ８６（第44図、第127・128・129図）

概要：南西コーナー部が調査区外となるが、北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－10°－Ｗである。　**位置**：北地区のやや東寄りで、大関台遺跡調査区の北方約30ｍに位置する。　**規模**：南北4.34ｍ×東西4.8ｍ以上の長方形で、確認面から床面までの深さは0.46ｍと深めである。　**覆土**：自然堆積で７層に分層され、全体に焼土粒や炭化物の混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：主柱穴はＰ１～Ｐ４の４本（直径43～46cm・深さ37～48cm）で、柱間間隔は南北約1.9ｍ・東西2.3ｍ前後の長方形に配されている。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を70㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約65㎝・深さ20㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：出土遺物は多く、図示し得たものだけでも土師器坏７点、同埦１点、同甕11点、須恵器坏５点、同高台付坏２点、同蓋２点、同甕２点、軒丸瓦１点、丸瓦２点、カマド補強石材３点、砥石１点及び鉄製品３点（刀子、鋏等）を数える。北東コーナー付近の須恵器甕30・男瓦32・33等が床面直上で、他はほとんどが覆土中からの出土である。なお須恵器坏24の体部内面には墨書「□（一ヵ）」が、また男瓦33の凸面広端部寄りには刻書「雀マ弟和木」がそれぞれみられる。

ＳＩ８７（第42図、第126図）

概要：北半部が調査区外となる竪穴住居跡で、南辺部はSD55に切られている。主軸方位はＮ－２°－Ｗ程とみられる。　**位置**：北地区の東寄りで、大関台遺跡調査区の北方約40ｍに位置する。　**規模**：南北2.2ｍ以上×東西3.8ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.3ｍである。　**覆土**：自然堆積で５層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：確認された範囲ではほぼ平坦である。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器坏１点、同蓋１点のみで、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ８８（第45図、第130・142図）

概要：東壁にカマドを有するやや小規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－７°－Ｅである。　**位置**：北地区の東寄りで、大関台遺跡調査区の北方約10ｍに位置する。　**規模**：南北3.09ｍ×東西4.48ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.35ｍである。　**覆土**：自然堆積で10層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されていない。　**カマド**：東壁のかなり南寄りに位置し、煙道は壁を60㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約75㎝・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器埦１点、同甕１点、須恵器坏１点、同高台付坏１点、同甑１点及び砥石１点で、須恵器坏３はカマド近く床面直上からの出土である。

ＳＩ８９（第46図、第131図）

概要：北壁にカマドを有するやや小規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－10°－Ｗである。　**位置**：北地区の東端で、大関台遺跡調査区の北方約10ｍに位置する。　**規模**：南北3.31ｍ×東西4.36ｍの長方形で、確認面から床面までの深さは0.41ｍとやや深めである。　**覆土**：自然堆積で６層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部および

カマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されていない。　**カマド**：北壁のやや東寄りに位置し、煙道は壁を25㎝程掘り込んで造られている。袖部は褐色粘土を主体に造られたもので、幅約95㎝・奥行50㎝ほどである。燃焼部は長さ約65㎝・深さ10㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏1点、同埦1点、同甕6点、須恵器坏1点、同蓋2点及び同甕2点である。土師器甕3と須恵器坏9だけが床面直上で、他は覆土中からの出土である。

ＳＩ９０（第48図）

概要：北壁にカマドを有するやや大型の竪穴住居跡とみられるが、南西部は調査区外となっている。主軸方位はＮ－１°－Ｗである。　**位置**：北地区の東端で、大関台遺跡調査区にほぼ接している。**規模**：南北5.0ｍ以上×東西4.0ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.65ｍと深めである。　**覆土**：自然堆積で6層に分層され、下層には焼土粒や小ロームブロックの混入がみられた。**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：東壁側で確認されたＰ１～Ｐ４（直径42～44㎝・深さ42～45㎝）はいずれもしっかりとした柱穴であるが、位置的に主柱穴とみられるのはＰ１・Ｐ２で、柱間間隔は2.3ｍである。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置するとみられ、煙道は壁を50㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約75㎝・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：なし。

ＳＩ９１（第43図）

概要：北西コーナー部のみが確認された竪穴住居跡で、SI85を切っている。主軸方位はＮ－12°－Ｅである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約60ｍに位置する。　**規模**：南北2.5ｍ以上×東西1.0ｍ以上の方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.34ｍである。**覆土**：自然堆積で3層に分層され、下層にはロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦である。　**出土遺物**：なし。

ＳＩ９２（第47図、第132図）

概要：北壁にカマドを有するやや小型の竪穴住居跡で、南西側は調査区外となっている。主軸方位はＮ－21°－Ｗである。　**位置**：北地区のやや西部寄りで、大関台遺跡調査区の北方約20ｍに位置する。　**規模**：南北3.62ｍ×東西3.75ｍ以上の長方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.24ｍである。　**覆土**：自然堆積で4層に分層され、下層には小ロームブロックの混入がみられた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部およびカマド前面はよく踏み固められている。　**柱穴**：確認されていない。　**貯蔵穴**：北東コーナーに位置し、直径65㎝・深さ31㎝の不整円形土坑状を呈している。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置するとみられ、煙道は壁を大きく80㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ約60㎝・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕2点、須恵器高台付坏1点で、いずれも覆土中の出土である。

ＳＩ９３（第49図、第133図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡とみられるが、南西側の大半が調査区外となっている。主軸方位はＮ－１°－Ｅである。　**位置**：北地区のやや西寄りで、大関台遺跡調査区の北辺に隣接する。　規模：南北1.2ｍ以上×東西4.0ｍ以上の方形とみられ、確認面から床面まで

の深さは0.37 mである。　**覆土**：自然堆積とみられる。　**床面**：ほぼ平坦とみられる。　**貯蔵穴**：北東コーナーに位置し、南北55㎝・東西81㎝の長方形で、深さは33㎝である。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置するとみられ、煙道は壁を50㎝程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体に造られたものとみられるが、形状は不明瞭である。燃焼部は長さ35㎝以上・深さ15㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**:図示し得たのは土師器坏２点、同埦２点で、いずれも覆土上層からの出土である。

ＳＩ９４（第50図、第134図）

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡とみられるが、南西側の大半が調査区外となっている。主軸方位はＮ－21°－Ｅである。　**位置**：北地区のやや西寄りで、大関台遺跡調査区の北方約５ｍに位置する。　**規模**：南北1.0 ｍ以上×東西2.6 ｍ以上の方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.29 ｍである。　**覆土**：自然堆積とみられる。　**床面**：ほぼ平坦とみられる。　**カマド**：北壁のほぼ中央に位置するとみられ、煙道は壁を60㎝程掘り込んで造られている。袖部は土師器甕等の土器を芯として灰褐色粘土を主体に造られたものとみられる。燃焼部は長さ85㎝・深さ10㎝程の掘り込みで、底面は赤く硬化していた。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕２点、須恵器鉢１点、平瓦１点であり、いずれもカマドの構築材として使用されていたものとみられる。

ＳＩ９５（第51図、第135図）

概要：東側半分以上が調査区外となる中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はＮ－29°－Ｗである。位置：北地区のやや西寄りで、大関台遺跡調査区の北方約10 ｍに位置する。　**規模**：南北4.83 ｍ×東西2.8 ｍ以上の方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.32 ｍである。　**覆土**：自然堆積とみられる。　**床面**：ほぼ平坦とみられる。　**柱穴**：調査範囲内からはＰ１・Ｐ２の２本（直径44～46㎝・深さ35～42㎝）が確認されており、主柱穴の可能性が高い。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点、同埦１点、同甕２点であり、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＩ９６（第52図、第136図）

概要：北側のほぼ半分が調査区外となるやや大型の竪穴住居跡で、SB35に切られている。主軸方位はＮ－８°－Ｗである。　**位置**：北地区のやや西寄りで、大関台遺跡調査区の北方約20 ｍに位置する。　**規模**：南北4.8 ｍ以上×東西5.5 ｍ以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.47 ｍと深めである。　**覆土**：自然堆積で６層に分層され、下層には小ロームブロックの混入が多く見られた。　**床面**：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。　**柱穴**：確認されたのはＰ１（直径40㎝・深さ58㎝）のみであるが、主柱穴の１本とみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏３点、同埦１点、手捏ね土器１点、同台付甕１点、同甕１点、須恵器坏１点、同蓋１点で、いずれも覆土中からの出土である。

２　掘立柱建物跡

ＳＢ０２（第53図）

概要：南西部が調査区外となるが、桁行４間×梁行３間の側柱式の南北棟建物とみられ、主軸方位はＮ－３°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、大関台遺跡調査区の北約30 ｍに位置している。ＳＩ20を切り、SB03に切られている。　**規模・柱間寸法**：桁行総長は東側柱列で7.75 ｍ、

柱間寸法は北から 2.05 ＋ 2.00 ＋ 1.50 ＋ 2.20 mである。梁行総長は北妻柱列で 5.65 m、柱間寸法は東から 2.15 ＋ 1.35 ＋ 2.15 mである。面積は推定で 43.8㎡である。　**掘方**：平面形は一辺 0.60 ～ 1.05 mの隅丸方形もしくは長方形で、確認面からの深さは 0.25 ～ 0.45 mである。大部分が柱痕跡を残しており、柱の太さは直径 20㎝前後である。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ０３（第 53 図）

概要：南西部が調査区外となるが、桁行２間以上 × 梁行２間の側柱式の東西棟建物とみられ、主軸方位はＮ－１°－Ｗである。　**位置**：北地区の南東部で、大関台遺跡調査区の北約 30 mに位置している。ＳＩ 20 及び SB02 を切っている。　**規模・柱間寸法**：桁行確認長は北側柱列で 4.75 m、柱間寸法は東からから 1.90 ＋ 2.85 mである。梁行総長は東妻柱列で 5.35 m、柱間寸法は北から 2.65 ＋ 2.70 mである。面積は推定で 25.4㎡以上である。　**掘方**：平面形は一辺 0.75 ～ 0.95 mの隅丸方形もしくは長方形で、確認面からの深さは 0.33 ～ 0.45 mである。大部分が柱痕跡を残しており、柱の太さは直径 20㎝前後である。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ０５（第 54 図）

概要：東西方向３間分の柱穴列であり、掘立柱塀跡の可能性が高い。主軸方位はＮ－88°－Ｗである。**位置**：不明。　**規模・柱間寸法**：柱穴列の総長は 6.15 m、柱間寸法は東からから 2.05 ＋ 1.80 ＋ 2.30 mである。　**掘方**：平面形は直径 0.35 ～ 0.45 mの円形で、確認面からの深さは 0.11 ～ 0.26 である。Ｐ４のみが柱痕跡を残しており、柱の太さは直径 15㎝前後である。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ０６（第 55 図）

概要：東西方向１間以上の柱穴列であり、掘立柱建物跡の可能性が高い。主軸方位はＮ－ 87° －Ｗである。　**位置**：不明。　**規模・柱間寸法**：柱間寸法は 2.70 mである。　**掘方**：平面形は一辺 0.55 ～ 0.85 mの隅丸長方形で、確認面からの深さは 0.25 ～ 0.32 mである。Ｐ２は柱痕跡を残しており、柱の太さは直径 20㎝弱である。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ１４（第 56 図）

概要：東西２間 × 南北２間の総柱式建物で、主軸方位はＮ－ 11° －Ｗである。　**位置**：北地区の中央部で、大関台遺跡調査区の北約 50 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：東西長は 3.35 mで、の柱間寸法は南側柱列が 1.65 m等間、北側柱列が東から 1.50 ＋ 1.85 mである。南北長は 3.40 mで、柱間寸法は、東側柱列が 1.70 m等間、西側柱列が南から 1.65 ＋ 1.75 mである。面積は 11.39㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.31 ～ 0.42 mの円形で、確認面からの深さは 0.12 ～ 0.43 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ１８（第 57 図）

概要：桁行３間 × 梁行２間の側柱式の南北棟建物で、SI60 を切っている。主軸方位はＮ－４°－Ｗである。　**位置**：北地区の最北端部で、大関台遺跡調査区の北約 100 mの地点に位置する。**規模・柱間寸法**：桁行総長は 6.25 mで、柱間寸法は東・西側柱列とも北から 2.25 ＋ 2.00 ＋ 2.00 mである。梁行総長は 4.50 mで、柱間寸法は南・北妻側列とも 2.25 m等間である。面積は 28.12㎡である。　**掘方**：平面形は一辺 0.65 ～ 1.05 mの隅丸方形もしくは長方形で、確認面からの深さは 0.34 ～ 0.65 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ１９（第 58 図）

概要:桁行２間×梁行１間の側柱式の東西棟建物とみられ、主軸方位はＮ－５°－Ｗである。　**位置**:北地区の北端部で、大関台遺跡調査区の北約 100 mの地点に位置する。　**規模**・柱間寸法：桁行総長は 5.10 mで、柱間寸法は北側柱列で東から 2.60 ＋ 2.50 mである。なお南側柱列は中間柱が確認されていない。梁行の柱間寸法は東妻側で 3.00 m、西妻側で 2.65 mである。面積は 14.28 ㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.25 ～ 0.38 mの円形で、確認面からの深さは 0.10 ～ 0.28 mである。いくつか柱痕跡が残されており、推定される柱の太さは直径 10 ～ 10 数㎝である。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２０（第 60 図）

概要：桁行４間×梁行２間の側柱式の東西棟建物で、SI62 に切られている。主軸方位はＮ－４°－Ｗである。　**位置**：北地区の北端部で、大関台遺跡調査区の北約 100 mの地点に位置する。**規模・柱間寸法**：桁行総長は 9.10 mで、柱間寸法は北側柱列が東から 2.50 ＋ 2.05 ＋ 2.05 ＋ 2.30 m、南側柱列が東から 2.65 ＋ 2.10 ＋ 2.05 ＋ 2.55 mである。梁行総長は 5.20 mで、柱間寸法は東妻柱列が南から 2.65 ＋ 2.55 m、西妻柱列が南から 2.50 ＋ 2.70 mである。面積は 47.32㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.36 ～ 0.52 mの円形で、確認面からの深さは 0.43 ～ 0.84 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２１（第 59 図）

概要：東西１間×南北１間の建物で、主軸方位はＮ－３°－Ｗである。　**位置**：北地区の最北端部に位置している。　**規模**・柱間寸法：東西の柱間寸法は、南側で 4.32 m、北側で 3.95 m。南北の柱間寸法は東側・西側とも 4.15 mである。面積は 17.43㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.35 ～ 0.43 mの円形で、確認面からの深さは 0.25 ～ 0.33 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２２（第 61 図、第 137 図）

概要：桁行３間×梁行２間の側柱式の南北棟建物で、主軸方位はＮ－１°－Ｗである。　**位置**：北地区の最北端部で、大関台遺跡調査区の北約 110 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：桁行総長は 7.35 mで、柱間寸法は東側柱列が南から 2.60 ＋ 2.30 ＋ 2.40 m、西側柱列が南から 2.60 ＋ 2.30 ＋ 2.50 mである。梁行総長は 4.50 mで、柱間寸法は南妻柱列が東から 2.10 ＋ 2.35 m、北妻柱列が東から 2.35 ＋ 2.20 mである。面積は 33.07㎡である。　**掘方**：平面形は一辺 0.36 ～ 0.55 mの隅丸方形もしくは長方形で、確認面からの深さは 0.26 ～ 0.53 mである。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器坏１点で、柱穴内埋土中からの出土である。

ＳＢ２３（第 62・63 図）

概要:東西２間×南北２間の側柱式建物で、SB24 を切っている。主軸方位はＮ－４°－Ｗである。**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北約 90 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：東西長は 4.70 mで、柱間寸法は南側柱列が東から 2.45 ＋ 2.05 m、北側柱列が東から 2.95 ＋ x mである。南北長は 5.05 mで、柱間寸法は東側柱列が南から 2.30 ＋ 2.80 m、西側柱列が南から 2.80 ＋ x mである。面積は推定で 23.73㎡である。　**掘方**:平面形は直径 0.36 ～ 0.45 mの円形で、確認面からの深さは 0.12 ～ 0.37 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２４（第 62・63 図）

概要：桁行２間×梁行２間の総柱式の東西棟建物で、SB23 に切られている。主軸方位はＮ－５°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北約 90 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：桁行総長は 4.35 mで、柱間寸法は南側柱列が東から 2.15 ＋ 2.10 m、中央側柱列が東から 2.25 ＋ 2.10 m、北柱穴列が東から 2.35 ＋ 2.20 mである。梁行総長は 3.85 mで、柱間寸法は東妻柱列が南から 1.85 ＋ 1.95 m、中央妻柱列が南から 1.90 ＋ 1.95 m、西妻柱列が 1.95 m等間である。面積は推定で 16.74㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.41 ～ 0.60 mの円形で、確認面からの深さは 0.20 ～ 0.62 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２５（第 65・66 図、第 137 図）

概要：北東の一部が調査区外となるが、東西２間×南北２間の側柱式建物とみられ、主軸方位はＮ－２°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北約 80 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：東西長は 4.00 mで、柱間寸法は 2.00 m等間である。南北長は 3.75 mで、柱間寸法は１・80 m等間である。面積は推定で 15.00㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.54 ～ 0.60 mの円形で、確認面からの深さは 0.21 ～ 0.62 mである。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器高台付坏１点、同蓋１点で、いずれも柱穴内埋土中からの出土である。

ＳＢ２６（第 65・66 図）

概要：桁行２間×梁行１間の南北棟建物で、主軸方位はＮ－５°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北約 80 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：桁行総長は 3.40 mで、柱間寸法は東側柱列が南から 1.85 ＋ 1.65 m、西側柱列が南から 1.50 ＋ 1.75 mである。梁行は南妻側が 1.80 m、北妻側が 1.95 mである。面積は 6.46㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.36 ～ 0.48 mの円形で、確認面からの深さは 0.14 ～ 0.35 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２７（第 64 図）

概要：桁行２間×梁行１間の東西棟建物で、主軸方位はＮ－ 22°－Ｗである。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北約 100 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：桁行総長は 2.55 mで、柱間寸法は南側柱列が 1.30 m等間、北側柱列が東から 1.15 ＋ 1.30 mである。梁行は東妻側が 2.00 m、西妻側が 2.15 mである。面積は 5.48㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.36 ～ 0.42 mの円形で、確認面からの深さは 0.41 ～ 0.54 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２８（第 67 図）

概要：東西２間×南北２間の側柱式建物で、SI73 を切っている。主軸方位はＮ－４°－Ｅである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北約 70 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：東西長は 3.95 mで、柱間寸法は南側柱列が東から 1.90 ＋ 2.05 m、北側柱列が東から 1.70 ＋ 2.25 mである。南北長は 4.00 mで、柱間寸法は東側柱列、西側柱列とも 2.00 m等間である。面積は 15.80㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.45 ～ 0.63 mの円形で、確認面からの深さは 0.28 ～ 0.71 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ２９（第 68・69 図）

概要：桁行５間×梁行３間の側柱式の南北棟建物で、SI65・66 と重複している。主軸方位はＮ－７°－Ｅである。なお、北妻側柱列は SI65 との重複で不明確であり、桁行は北方調査区外へ５間

以上に延びている可能性もある。　**位置**：北地区の最北部で、大関台遺跡調査区の北約 110 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：桁行総長（5間分）は 10.05 mで、柱間寸法は東側柱列が南から 2.05 ＋ 1.90 ＋ 2.00 ＋ 2.10 ＋ 1.90 m、西側柱列が南から 2.15 ＋ 1.95 ＋ 1.90 ＋ 1，95 ＋ 2.10 mである。梁行総長は 4.75 mで、南妻側の柱間寸法は東から 1.90 ＋ 0.90 ＋ 1.95 mである。面積は 47.73㎡（5間分）である。　**掘方**：平面形は直径 0.29 ～ 0.43 mの円形で、確認面からの深さは 0.32 ～ 0.58 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ３０（第 70 図）

概要：東西２間 × 南北２間の総柱式建物で、主軸方位はＮ－０°－Ｗである。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北約 90 mの地点に位置する。　**規模・柱間寸法**：東西長は 4.90 mで、柱間寸法は南側柱列が東から 2.50 ＋ 2.35 m、北側柱列 2.45 m等間である。南北長は 4.85 mで、柱間寸法は東側柱列が南から 1.55 ＋ 3.30 m、西側柱列が南から 2.20 ＋ 2.65 mである。面積は 23.76㎡である。　**掘方**：平面形は直径 0.26 ～ 0.38 mの円形で、確認面からの深さは 0.21 ～ 0.65 mである。　**出土遺物**：なし。

ＳＢ３５（第 71 図）

概要：南北２間 × 東西１間以上の側柱式建物とみられ、主軸方位はＮ－５°－Ｗである。　**位置**：北地区のほぼ中央部で、SB92・96 と重複する。　**規模・柱間寸法**：東西の柱間寸法は 3.05 m。南北長は 5.90 mで、柱間寸法は北から 2.80 ＋ 3.10 mである。　**掘方**：平面形は直径 0.25 ～ 0.38 mの円形で、確認面からの深さは 0.35 ～ 0.53 mである。　**出土遺物**：なし。

３　井戸跡

ＳＥ１２（第 17 図）

概要：円形で素掘りの井戸。SI54 を切っている。　**位置**：北地区のほぼ中央で、大関台遺跡調査区の北方約 50 mに位置する。　**形態・規模**：開口部は直径 1.88 mの円形で、少しずつ窄みながら直径 0.94 mの円形の底面に至る。確認面からの深さは 3.04 mである。　**覆土**：自然堆積で、上層には炭化物の混入が多くみられる。　**出土遺物**：なし。

ＳＥ１３（第 72 図、第 138 図）

概要：円形で大型な素掘りの井戸。　**位置**：北地区のほぼ中央で、大関台遺跡調査区の北方約 50 mに位置する。　**形態・規模**：開口部は直径 1.45 mの円形で、下部でややオーバーハングしながら直径 0.98 mの円形の底面に至る。確認面からの深さは 2.59 mである。　**覆土**：自然堆積と思われるが、詳細不明。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器蓋２点であり、須恵器蓋１は底面直上からの出土である。

ＳＥ１４（第 73 図、第 138 図）

概要：開口部が有段の井戸。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約 100 mに位置する。**形態・規模**：開口部は南北 1.77 m・東西 1.72 m・深さ 0.65 mの方形竪穴状を呈し、ほぼ中央に円形の井戸穴が穿たれたものである。井戸穴は上面が直径 1.16 m、底面が直径 0.74 m。壁はほぼ垂直で、確認面からの深さは 2.69 mである。覆土の状況から開口部の方形竪穴は、井戸枠を敷

設するための堀方とみられる。　**覆土**：全体は自然堆積であるが、開口部の１・２層は井戸枠の裏込めが残ったものとみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器高台付坏２点で、いずれも覆土中からの出土である。

ＳＥ１５（第57図）

概要：円形で素掘りの井戸。SB18と重複している。　**位置**：北地区の北端部で、大関台遺跡調査区の北方約110 mに位置する。　**形態・規模**：開口部は直径1.55 mの円形で、壁はわずかに窄みながら東西1.05 m × 南北0.88 mの楕円形の底面に至る。確認面からの深さは2.44 mである。**覆土**：自然堆積で、全体にロームブロックの混入が多くみられる。　**出土遺物**：なし。

ＳＥ１６（第74図）

概要：円形で素掘りの井戸。SD40と重複している。　**位置**：北地区の北部で、大関台遺跡調査区の北方約100 mに位置する。　**形態・規模**：開口部は直径1.51 mの円形で、壁はロート状に窄みながら約２mの深さで直径0.65 mの円形となり底部に至っている。底面は未確認であるが、深さは2.45 m以上である。　**覆土**：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入が多くみられる。**出土遺物**：なし。

ＳＥ１９（第75図、第138図）

概要：開口部が有段の大型な井戸。SI83に近接している。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北方約80 mに位置する。　**形態・規模**：開口部は直径2.16 m・深さ0.15 mほどの浅い皿状の円形土坑で、この中央部に井戸穴が穿たれたもの。井戸穴は上面が1.02 mの円形で、徐々に窄まりながら直径0.54 mの円形の底面に至っている。確認面からの深さは3.06 mである。**覆土**：自然堆積で、中層にはロームブロックの混入が多くみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは須恵器甕１点のみである。

ＳＥ２０（第76図、第138図）

概要：開口部が有段の大型な井戸。SI83に近接している。　**位置**：北地区の北東部で、大関台遺跡調査区の北方約80 mに位置する。　**形態・規模**：開口部は一辺2.55 m前後・深さ0.48 mの隅丸方形竪穴状を呈し、ほぼ中央に円形の井戸穴が穿たれたものである。井戸穴は上面が直径1.53 mで、徐々に窄まりながら直径0.61 mの底面に至っている。確認面からの深さは3.14 mである。覆土の状況から開口部の隅丸方形竪穴は井戸枠を敷設するための堀方とみられ、井戸穴上面縁部が土手上に10数㎝高く掘り残されているのもこの関係であろう。　**覆土**:全体は自然堆積であるが、開口部の５～９層は井戸枠の裏込めが残ったものとみられる。　**出土遺物**：図示し得たのは土師器甕２点、須恵器坏１点、同蓋１点及び同短頸壷１点である。

4　土坑（第77・78図、第139図）

北地区で確認された土坑は20基で、形状・規模等は一覧表のとおりである。分布は住居・建物群に付随して全体に広がるが、中心部のSI54南側には集中する部分もみられる。なおSK334は井戸跡の可能性が高いとみられる。

第1表　北地区土坑一覧

遺構名	平面形	規模（cm）			特記事項
		長軸	短軸	深さ	
SK91	不整円形	72	61	14	
SK95	不整円形	94	85	18	
SK285	長方形	225	93	15	
SK289	隅丸方形	143	124	58	埋土に多量のロームブロックを含む
SK286	長方形	160以上	110	30	
SK290	長方形か	160以上	120	15	
SK292	隅丸方形	92	88	14	
SK293	不整円形	83	81	8	
SK294	長方形	172	90	41	長辺両側に抉り込み土坑
SK297	不整円形	92	75	6	
SK298	不整円形	114	110	12	
SK299	不整円形	120	111	16	
SK307	円形	35	34	10	
SK312	円形	25	24	10	
SK313	円形	42	40	19	
SK323	楕円形	135	99	24	
SK326	長方形	151	70	12	長辺両側に抉り込み土坑
SK331	長方形	189	118	91	埋土に多量のロームブロックを含む
SK333	長方形	242	188	56	埋土に多量のロームブロックを含む
SK334	円形	104	102	211	井戸の可能性が高い

出土遺物：SK333からは土師器甕2点、同高坏1点、須恵器高台付坏1点、同蓋1点が出土している。またSK334からは土師器埦2点、同台付甕1点、同須恵器坏1点が出土している。

5　溝状遺構

ＳＤ０３（第79図）

位置：大関台遺跡調査区を挟んで確認された東西及び南北方向の溝で、大関台遺跡のSD183と繋がり方形区画を構成している。南地区側の本溝は約18ｍ南下した地点でほぼ直角に東へ曲がり、38ｍほどで調査区外へと消えている。また北地区では東西方向に走る本溝を約16ｍ確認している。残念ながら北西コーナー部は攪乱のため不明であったが、方形区画西辺の長さは150ｍ前後と推定される。なお重複するSI10・12はいずれも本溝に切られている。　**規模・形状**：北地区では、

いずれも確認面で上幅 300 ～ 355㎝、下幅 25 ～ 40㎝、深さ 125 ～ 146㎝。これに対し南地区では上幅 190 ～ 230㎝、下幅 25 ～ 30㎝、深さ 100 ～ 119㎝とやや規模が小さい。断面は箱薬研堀形で、底面まで 30㎝ほどの位置から傾斜が強くなっている。　**覆土**：自然堆積であり、下層には小ロームブロックが多く含まれる。　**出土遺物**：なし。

ＳＤ０５（第 79 図、第 140 図）

位置：南地区の南部で長さ８ｍほど確認された東西方向の溝で、大関台遺跡で確認された SD184 に繋がるとみられる。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅 55 ～ 75㎝、下幅 35 ～ 45㎝である。確認面からの深さは 35㎝前後で、断面はほぼ逆台形である。　**覆土**：自然堆積であり、下層にはロームブロックが多く含まれる。　**出土遺物**：土師器坏１点が出土している。

ＳＤ４０（第 80 図、第 140 図）

位置：北地区の北部に位置する東西方向の溝で、約 34 ｍ分を確認。SI62・63・66 等と重複する。**規模**・形状：いずれも確認面で上幅 55 ～ 120㎝、下幅 25 ～ 60㎝、深さ約 12 ～ 17㎝。　**覆土**：自然堆積である。　**出土遺物**：須恵器甕１点と平瓦片１点が出土している。

ＳＤ４１（第 81 図、第 140 図）

位置：北地区の北東部に位置する南北方向の溝で、約 12 ｍ分が確認され、さらに北の調査区外に伸びている。SI66 を切っている。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅 135 ～ 150㎝、下幅 35 ～ 40㎝、深さ約 55 ～ 61㎝で、断面は逆台形。　**覆土**：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。　**出土遺物**：土師器坏１点と須恵器坏２点が出土している。

ＳＤ４３（第 82 図、第 140 図）

位置:北地区の北東部に位置する南北方向の溝で、約 23 ｍ分を確認。SI68 を切っている。　**規模・形状**:いずれも確認面で上幅 65 ～ 110㎝、下幅 50 ～ 95㎝、深さ約 10㎝で、断面は皿状。　**覆土**:自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。　**出土遺物**：須恵器蓋１点と同高台付坏１点で、須恵器高台付坏８は底面からの出土である。

ＳＤ４４（第 83 図、第 142 図）

位置:北地区の北東部に位置する東西方向の溝で、約 15 ｍ分を確認。SI72 を切っている。　**規模・形状**:いずれも確認面で上幅 95 ～ 155㎝、下幅 60 ～ 110㎝、深さ 12 ～ 19㎝で、断面は逆台形。**覆土**：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。　**出土遺物**：砥石１点が出土している。

ＳＤ５２（第 84 図）

位置：北地区の北西部に位置する南北方向の溝で、約 11 ｍ分を確認。SD54 と重複する。　**規模・形状**:いずれも確認面で上幅 95 ～ 115㎝、下幅 35 ～ 40㎝、深さ 35㎝前後。　**覆土**:自然堆積である。**出土遺物**：なし。

ＳＤ５３（第 84 図）

位置：北地区の北西部に位置する南北方向の溝で、約 11.5 ｍ分を確認。SD52 とほぼ並行し、SD54 を切っている。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅 45 ～ 60㎝、下幅 15 ～ 20㎝、深さ

20㎝前後。　**覆土**：自然堆積である。　**出土遺物**：なし。

ＳＤ５４（第84図）

位置：北地区の北西部に位置する南北方向の溝で、約12ｍ分を確認。北部で東へ折れ曲がり、SD53に切られている。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅100～210㎝、下幅35～40㎝、深さ80～108㎝。　**覆土**：自然堆積である。　**出土遺物**：なし。

ＳＤ５５（第85図）

位置：北地区の西部に位置し、クランク状に折れ曲がる東西方向の溝で、約17ｍ分を確認。SI８７を切っている。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅120～160㎝、下幅30～50㎝、深さ27～35㎝。　**覆土**：自然堆積で、ロームブロックの混入がみられる。　**出土遺物**：なし。

ＳＤ５６（第85図）

位置:北地区の西部に位置する南北方向の溝で、約４ｍ分を確認。SD55に接続する。　**規模・形状**:いずれも確認面で上幅60㎝、下幅30㎝、深さ20㎝前後。　**覆土**：自然堆積である。　**出土遺物**：なし。

ＳＤ５７（第85図）

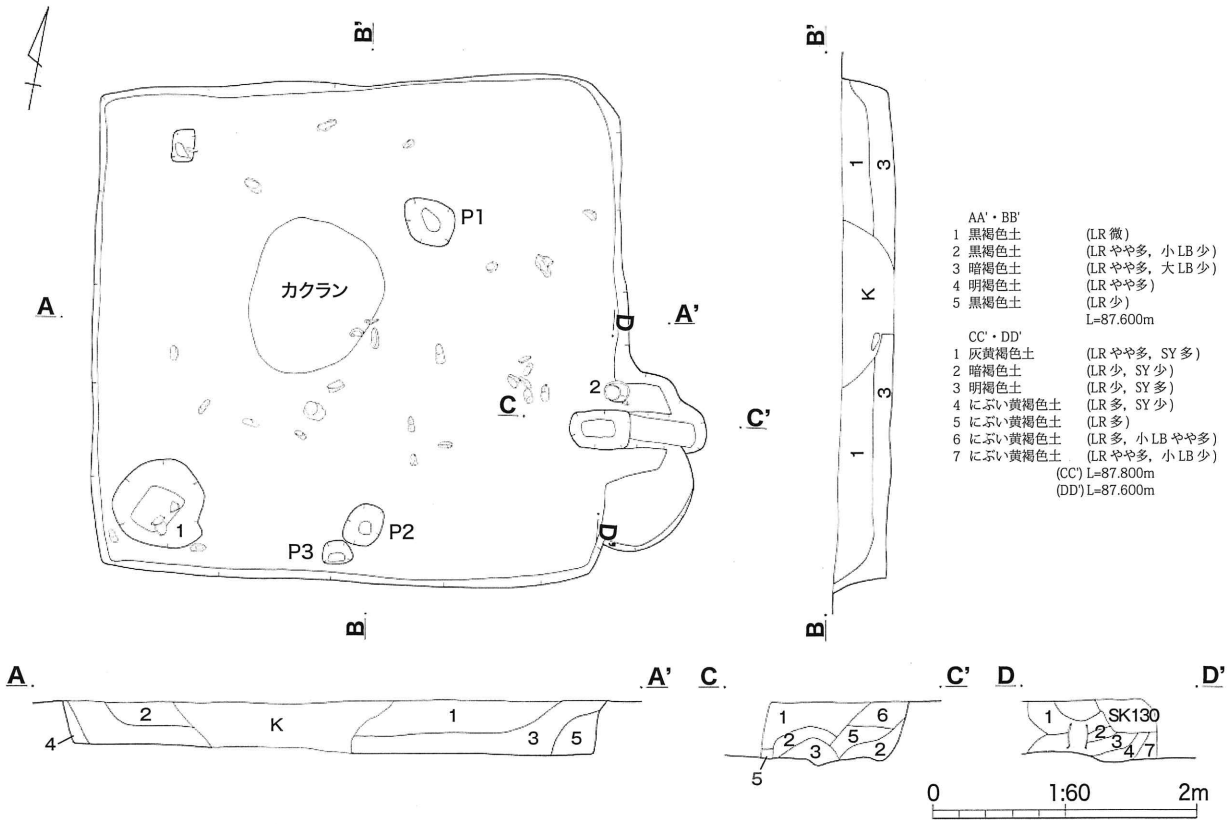
位置：北地区の西部に位置する東西方向の溝で、約17ｍ分を確認。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅85～160㎝、下幅25～40㎝、深さ25㎝前後。断面は逆台形。　**覆土**:自然堆積である。**出土遺物**：なし。

ＳＤ５８（第86図）

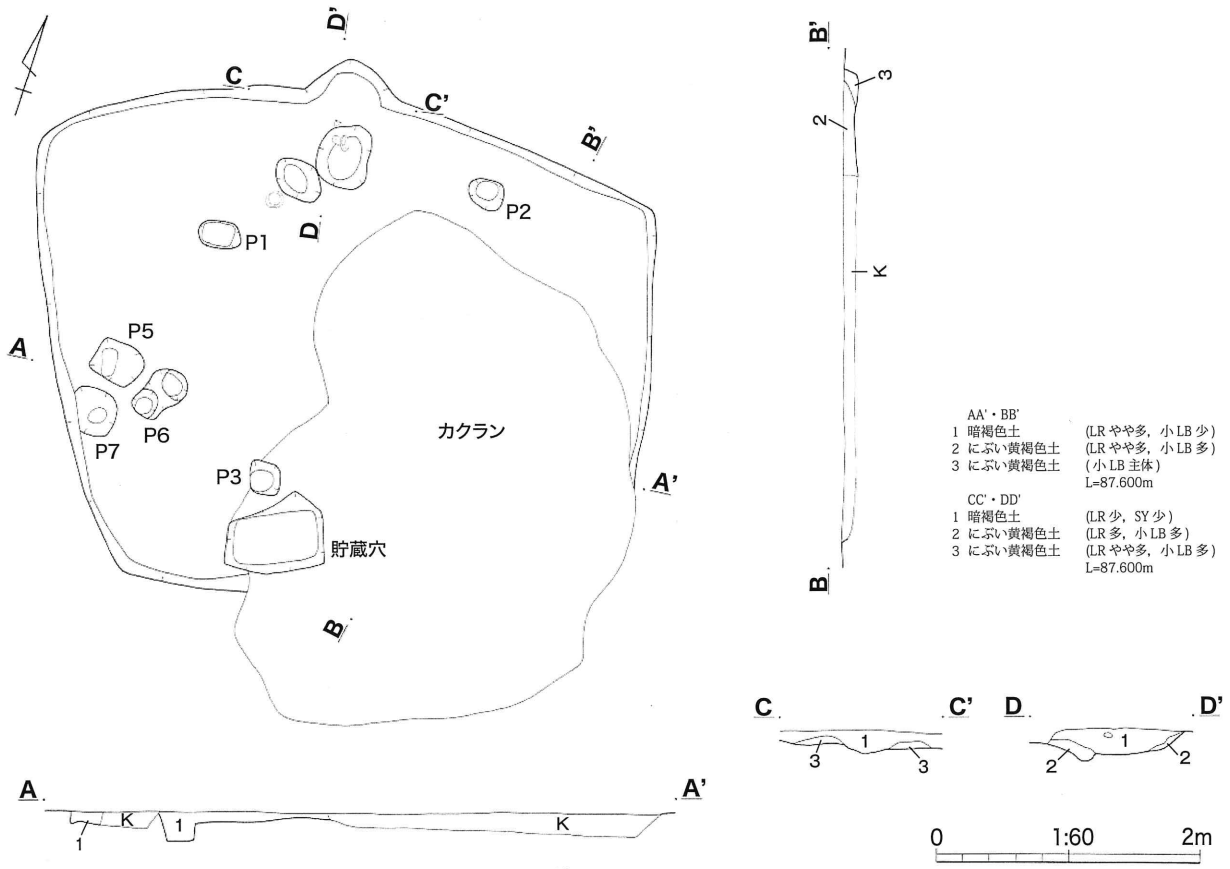
位置：北地区の西端部に位置する南北方向の溝で、約８ｍ分を確認。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅45～115㎝、下幅20～70㎝、深さ７～19㎝前後。断面はほぼ逆台形。　**覆土**：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。　**出土遺物**：なし。

ＳＤ５９（第87図）

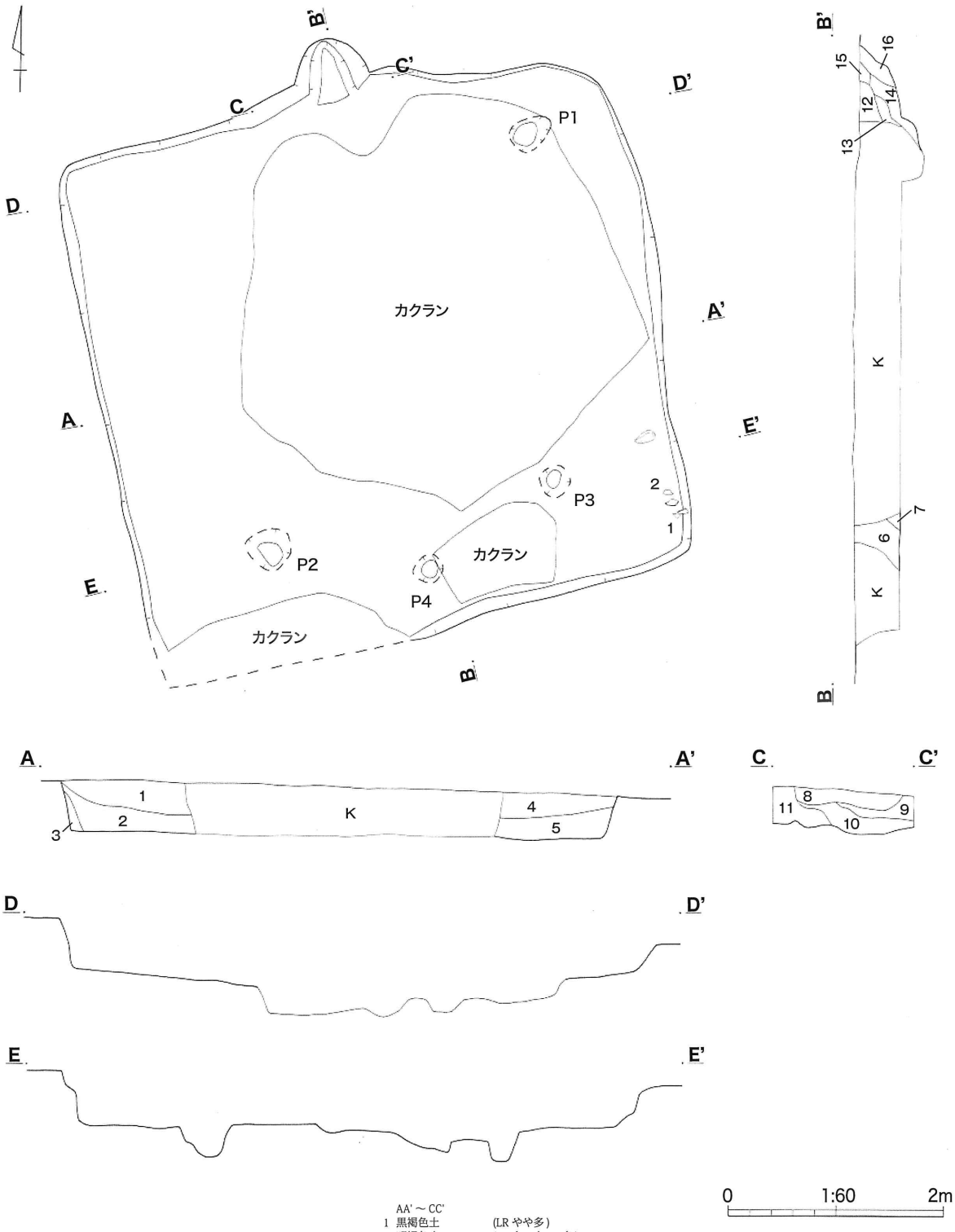
位置：北地区の西部に位置する南北方向の溝で、約11ｍ分を確認。規模的・方向的に大関台遺跡のSD85に繋がるものとみられる。　**規模・形状**：いずれも確認面で上幅180～230㎝、下幅30㎝前後、深さ95～115㎝。断面は箱薬研堀形で、底面まで30㎝ほどの位置から傾斜が強くなっている。　**覆土**：自然堆積で、下層にはロームブロックの混入がみられる。　**出土遺物**：なし。



第2図　SI17



第3図　SI18



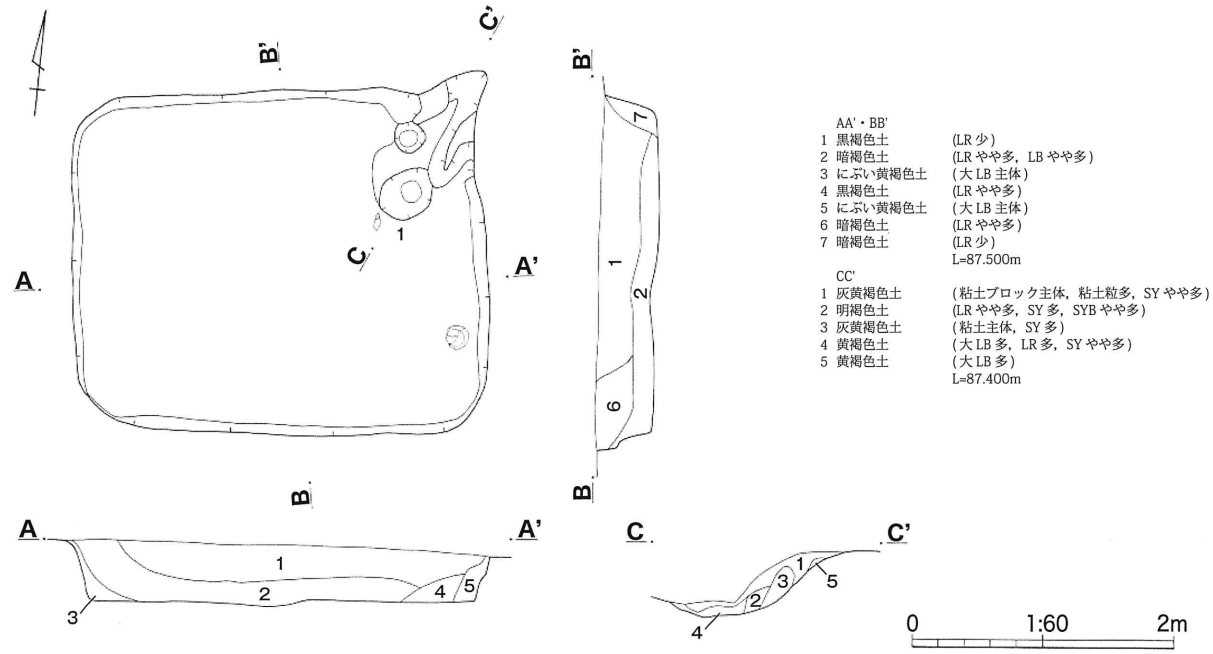
AA'～CC'

1	黒褐色土	(LR やや多)
2	明褐色土	(LR 多，大 LB 多)
3	暗褐色土	(LR やや多)
4	明褐色土	(LR 少，大 LB 多)
5	暗褐色土	(LR やや多，大 LB やや多)
6	暗褐色土	(LR 少，小 LB 少)
7	黄色土	(LB)
8	にぶい黄褐色土	(LR 極多)
9	暗褐色土	(LR やや多)
10	にぶい黄褐色土	(大 LB 主体，SY 少，粘土粒少)
11	にぶい黄褐色土	(大 LB 主体)
12	暗褐色土	(LR 少)
13	暗褐色土	(LR 少，粘土粒やや多)
14	暗褐色土	(LR 少，粘土粒少，SY 少)
15	黒褐色土	(LR 微)
16	暗褐色土	(LR 少，小 LB やや多，粘土粒少，SY 少)

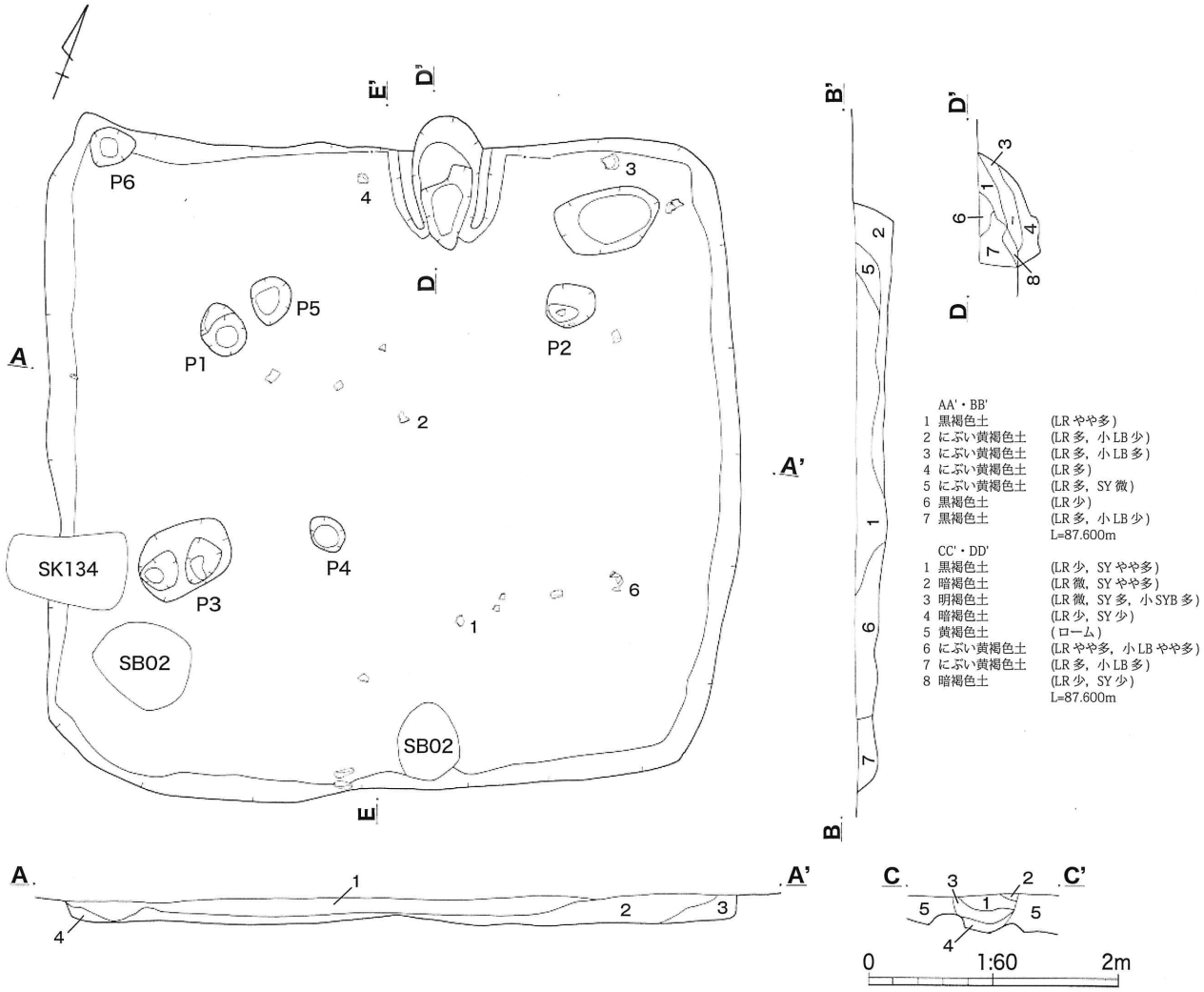
L=87.700m

DD'・EE'　L=87.600m

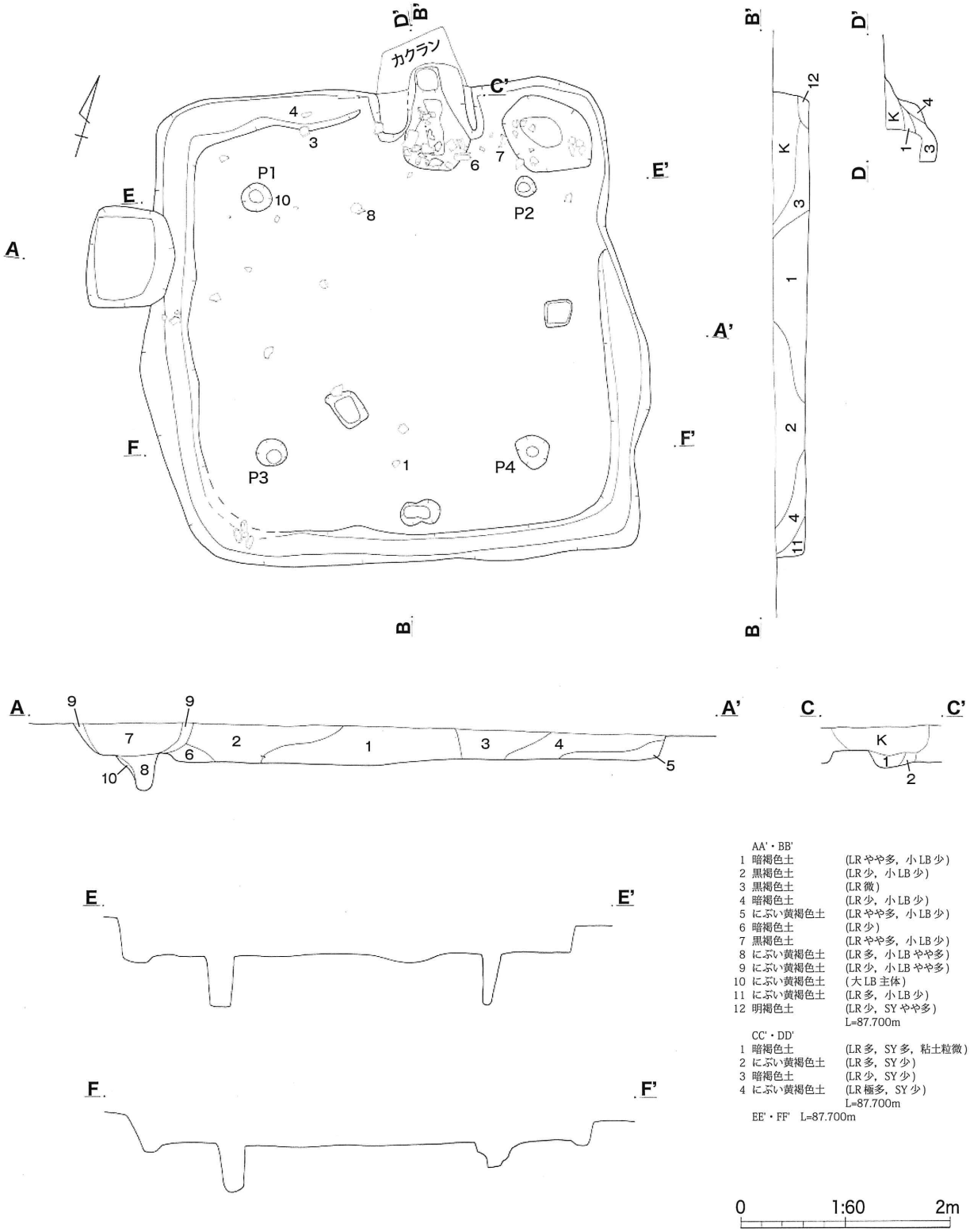
第4図　SI16



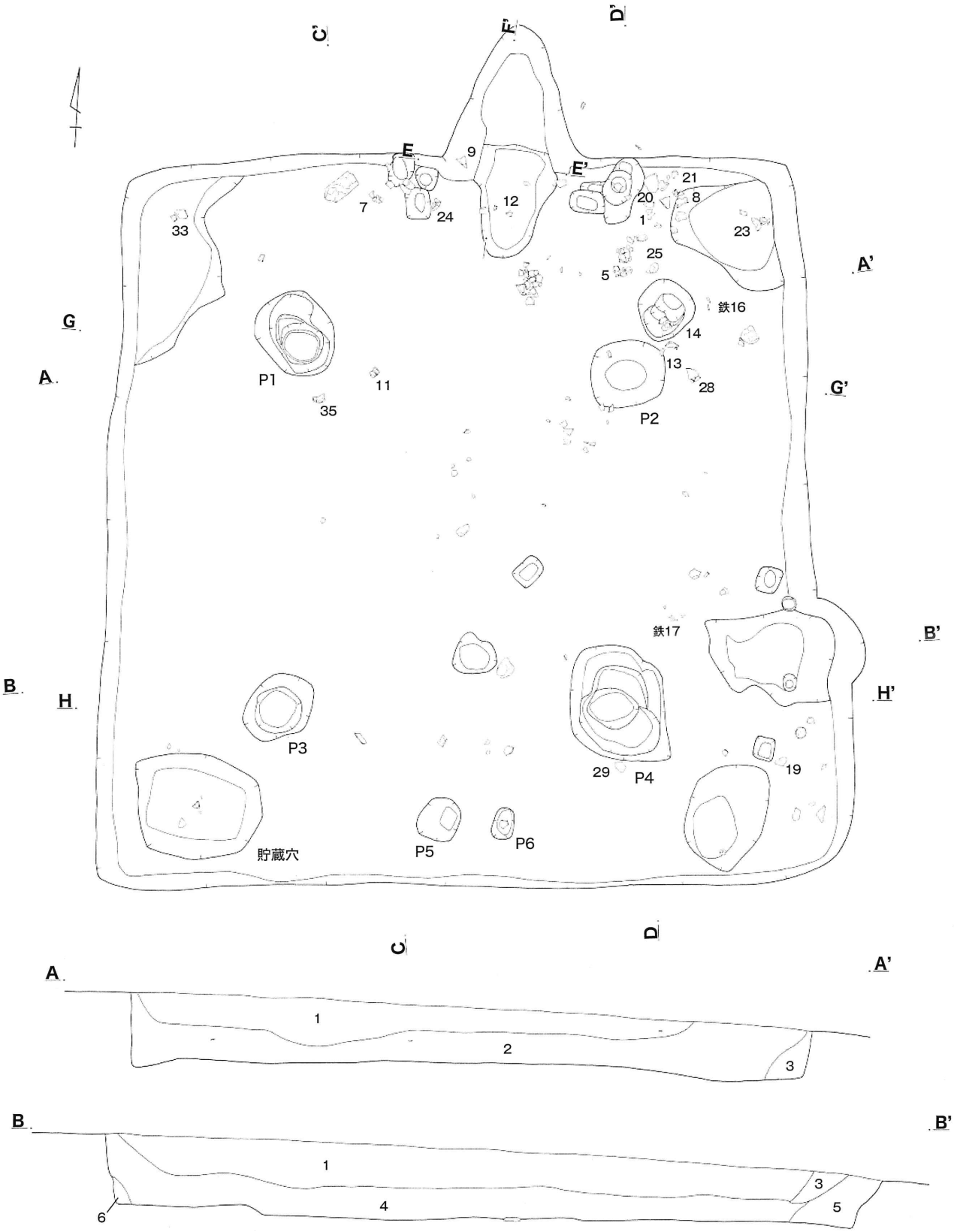
第5図　SI15



第6図　SI20


カクラン
P1
P2
P3
P4
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
AA'・BB'
1 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
2 黒褐色土 (LR少，小LB少)
3 黒褐色土 (LR微)
4 暗褐色土 (LR少，小LB少)
5 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LB少)
6 暗褐色土 (LR少)
7 黒褐色土 (LRやや多，小LB少)
8 にぶい黄褐色土 (LR多，小LBやや多)
9 にぶい黄褐色土 (LR少，小LBやや多)
10 にぶい黄褐色土 (大LB主体)
11 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
12 明褐色土 (LR少，SYやや多)
L=87.700m
CC'・DD'
1 暗褐色土 (LR多，SY多，粘土粒微)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，SY少)
3 暗褐色土 (LR少，SY少)
4 にぶい黄褐色土 (LR極多，SY少)
L=87.700m
EE'・FF' L=87.700m
0 1:60 2m

第7図 SI21



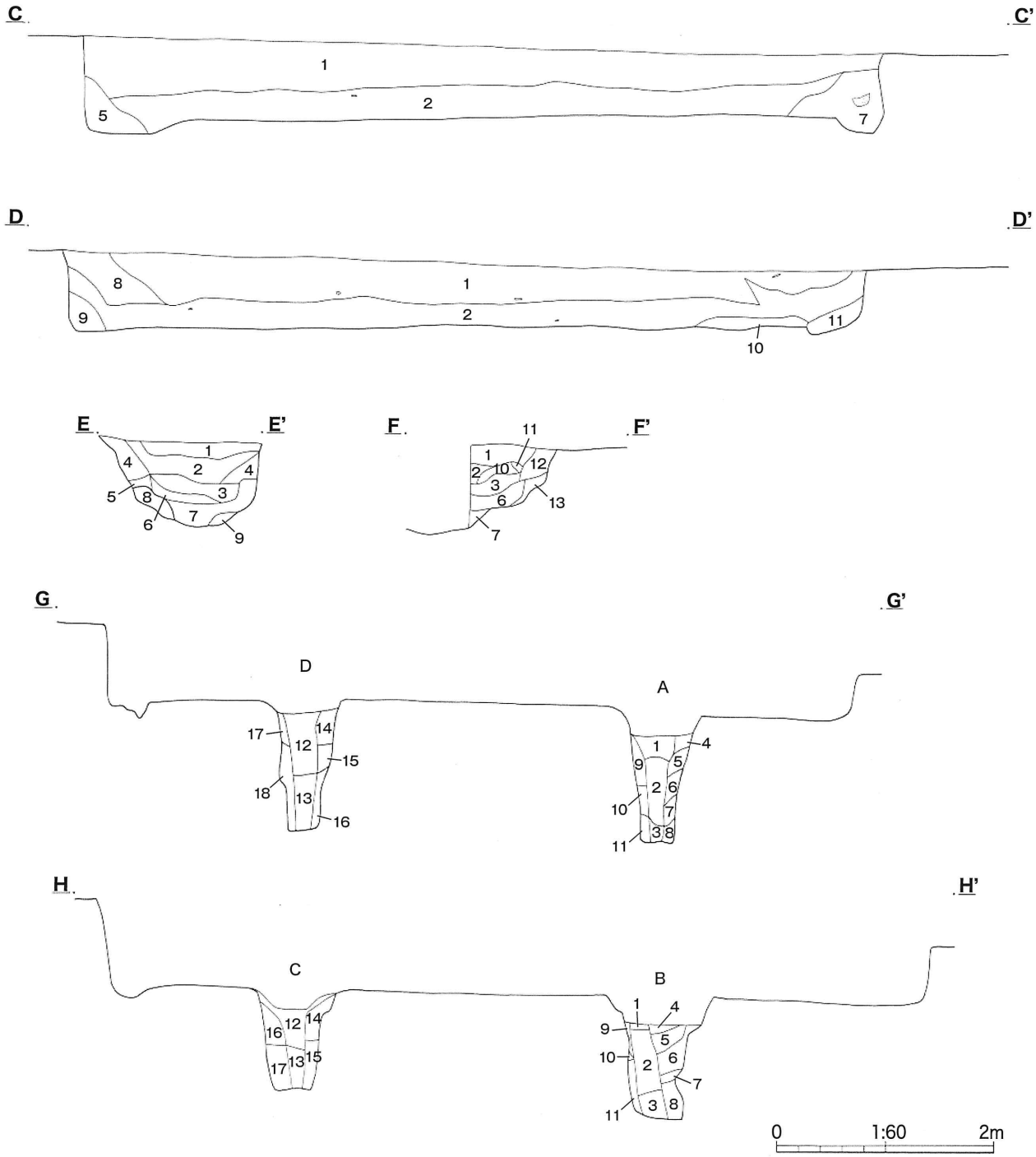
AA'～DD'

1 黒褐色土 (LR少，SY少)
2 暗褐色土 (LR少，SY少)
3 暗褐色土 (LR少，小LBやや多)
4 暗褐色土 (LR少，SY少，小LB少)
5 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
6 にぶい黄褐色土 (LRやや多，大LBやや多)
7 暗褐色土 (LR少，SYやや多，粘土粒少)
8 暗褐色土 (LR多，小LB少)
9 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
10 黒色土 (LR少，小LBやや多，SY微)
11 黒色土 (LR微，粘土粒微)

(AA'～CC') L=87.500m
(DD') L=87.570m

0 1:60 2m

第8図 SI22 (1)



EE'・FF'

1	黒褐色土	(LR少，SY少)
2	暗褐色土	(LR微，SY少)
3	赤褐色土	(LR微，SY多，小SYBやや多，粘土粒少)
4	暗褐色土	(LR微，STR微)
5	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB多)
6	赤褐色土	(SY多，小SYBやや多，粘土粒やや多，小粘土ブロック少)
7	灰褐色土	(SYやや多，粘土粒多)
8	黄褐色土	(ローム)
9	にぶい黄褐色土	(LR少，小LB多，SY少，粘土粒少)
10	暗褐色土	(LR少，SY少)
11	赤褐色土	(SYやや多)
12	赤褐色土	(SY極多)
13	明褐色土	(SYやや多)
		L=87.200m

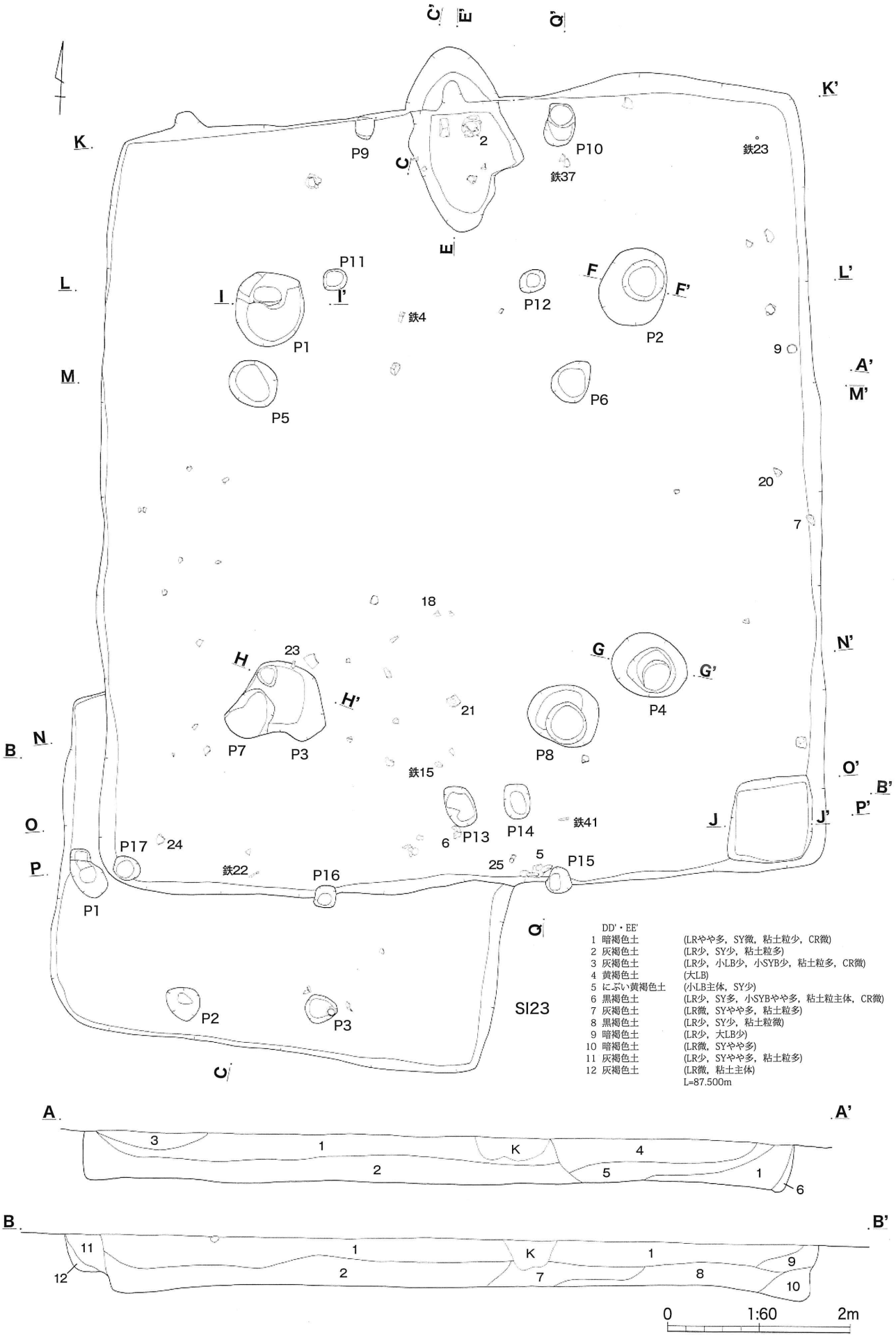
GG'

1	暗褐色土	(LR微，小LB少，SY微)
2	暗褐色土	(LRやや多，小LB少)
3	にぶい黄褐色土	(LR多)
4	にぶい黄褐色土	(LRやや多，小LBやや多，KP少)
5	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB多，KPやや多)
6	にぶい黄褐色土	(LRやや多，小LB少，KP少)
7	にぶい黄褐色土	(LR多，KP少)
8	黄褐色土	(KP主体)
9	にぶい黄褐色土	(LRやや多，小LBやや多，KPやや多)
10	暗褐色土	(LR少，KP少)
11	にぶい黄褐色土	(LRやや多，小LB少，KP少)
12	黒褐色土	(LR微，SY微)
13	黒褐色土	(LR微，KP少)
14	暗褐色土	(LR少，小LB少，SY微，KP微)
15	にぶい黄褐色土	(LR少，小LB少，KPやや多)
16	にぶい黄褐色土	(LR少，KPやや多)
17	暗褐色土	(LR微，SY微)
18	黒褐色土	(LR微，KP少)
		L=86.800m

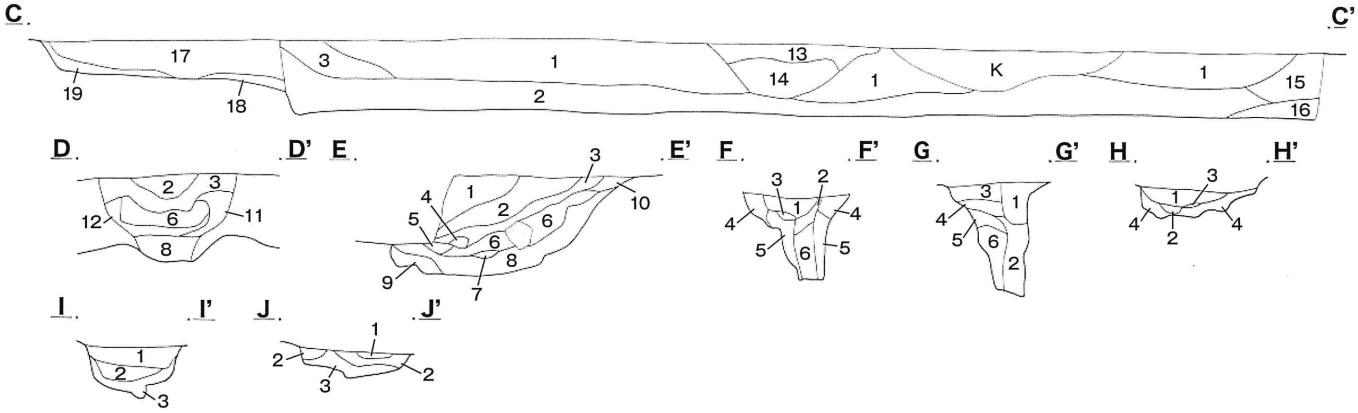
HH'

1	暗褐色土	(LR少，KP微)
2	にぶい黄褐色土	(LRやや多，小LBやや多，KP多)
3	黒褐色土	(LR少，KPやや多)
4	黒褐色土	(LR微，KP少)
5	暗褐色土	(LR少，KPやや多)
6	暗褐色土	(LR少，KP多)
7	にぶい黄褐色土	(LR少，KP極多)
8	黒褐色土	(LR少，KP多)
9	暗褐色土	(LR少，KP少)
10	にぶい黄褐色土	(KP多)
11	黄褐色土	(KP主体)
12	黒褐色土	(LRやや多，KP少)
13	にぶい黄褐色土	(LR多，KPやや多)
14	黄褐色土	(LR多，KP多)
15	にぶい黄褐色土	(LR多，KP多)
16	黄褐色土	(LR多，KP極多)
17	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB少，KPやや多)
		L=86.800m

第9図　SI22（2）



第10図　SI23・24（1）



AA'～CC'

1	暗褐色土	(LR少，小LB少)
2	暗褐色土	(LRやや多，小LB多)
3	黒褐色土	(LR少，小LB少)
4	暗褐色土	(LRやや多，小LB少，小SYBやや多)
5	にぶい黄褐色土	(LR多，小LBやや多，小SYBやや多)
6	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB少)
7	暗褐色土	(LR少，小LB少，小SYB少)
8	暗褐色土	(LR多，小LB多，SYB少)
9	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB少，小SYB少)
10	にぶい黄褐色土	(LR極多，小LBやや多)
11	黒褐色土	(LR少)
12	黒褐色土	(LR少，小LBやや多)
13	暗褐色土	(LR微)
14	黒褐色土	(LR微)
15	黒褐色土	(LR多，小LBやや多，SY少，粘土粒微)
16	灰褐色土	(LR少，小LB少，SY微，大粘土ブロック多)
17	黒褐色土	(LR微，小LB少)
18	黒褐色土	(LR多，小LB多)
19	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB多，大LB多)

L=87.600m

FF'

1	暗褐色土	(LR少，SY微)
2	にぶい黄褐色土	(LR極多，小LB少)
3	黄褐色土	(大LB主体)
4	にぶい黄褐色土	(LR極多)
5	にぶい黄褐色土	(LR極多，小LB多)
6	黒褐色土	(LR少，小LB少)

L=87.100m

GG'

1	暗褐色土	(LR少，SY微，小LB少)
2	黄褐色土	(小LB主体)
3	にぶい黄褐色土	(LR多，SY微)
4	暗褐色土	(LR微，SY微)
5	黒褐色土	(LR少，小LB少)
6	にぶい黄褐色土	(LR極多，小LB多)

L=87.100m

HH'

1	暗褐色土	(LRやや多，小LB少)
2	にぶい黄褐色土	(LR多)
3	暗褐色土	(LR少)
4	黄褐色土	(大LB主体)

L=87.100m

II'

1	にぶい黄褐色土	(LR多，大LB少)
2	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB少)
3	黄褐色土	(LR極多，小LB多)

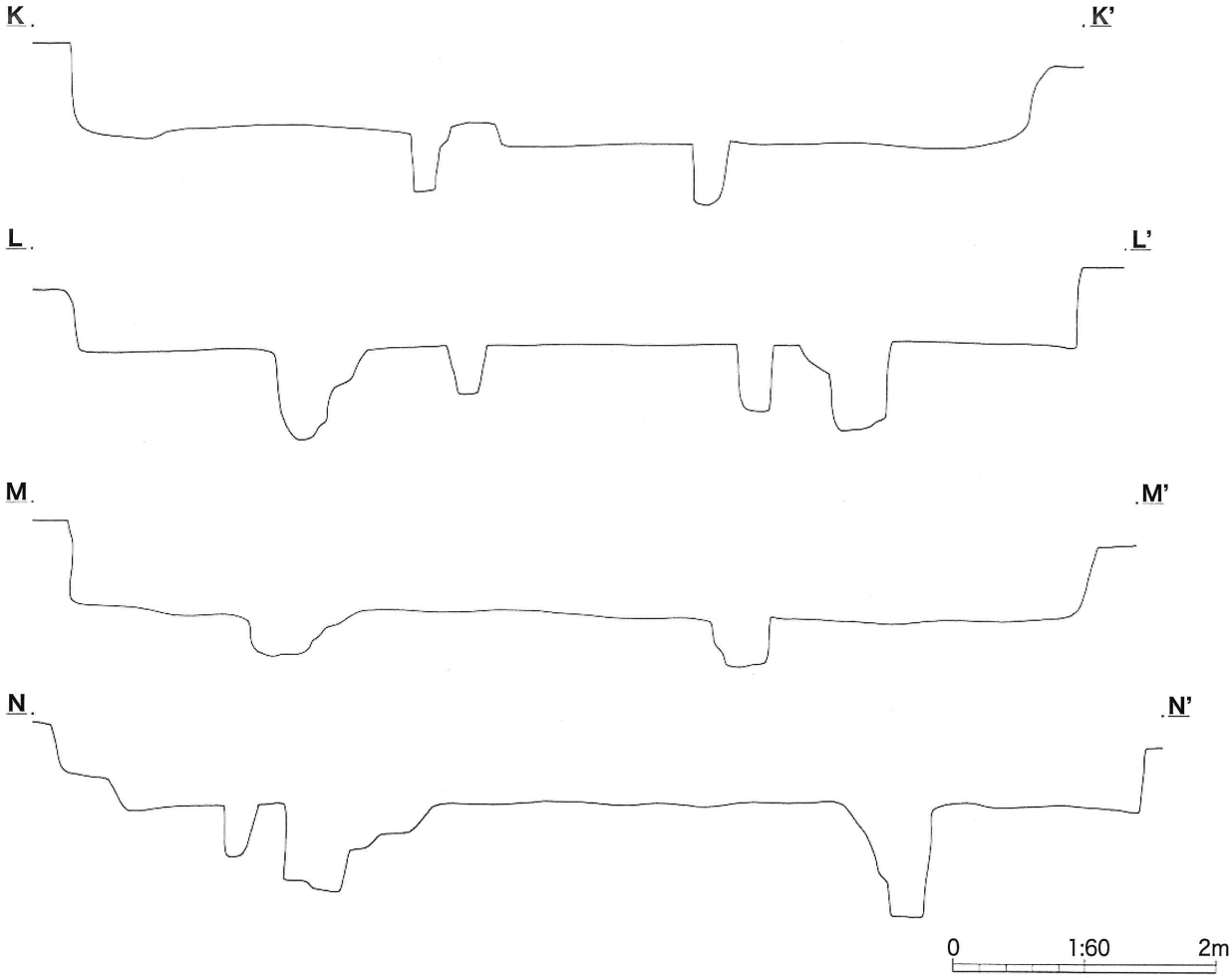
L=87.100m

JJ'

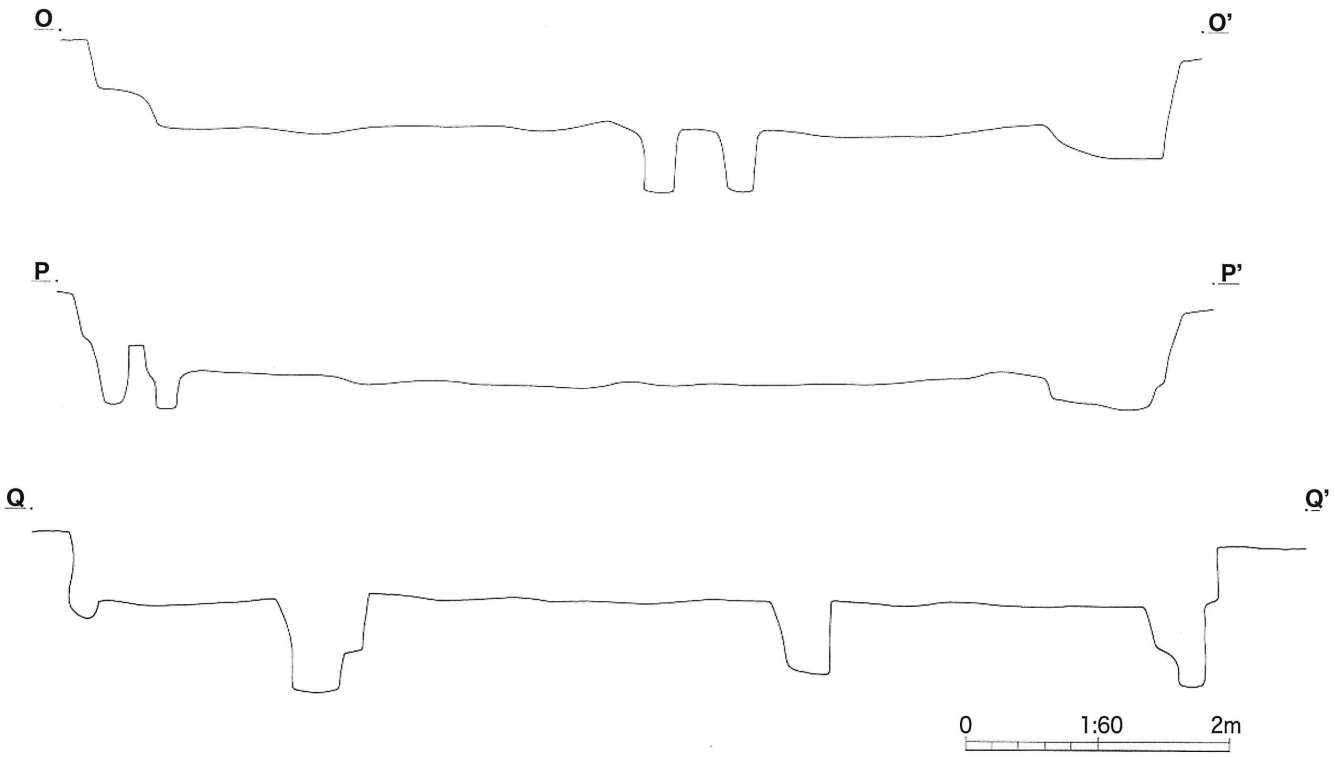
1	暗褐色土	(LRやや多)
2	にぶい黄褐色土	(LR極多，小LB多)
3	黄褐色土	(大LB主体)

L=87.100m

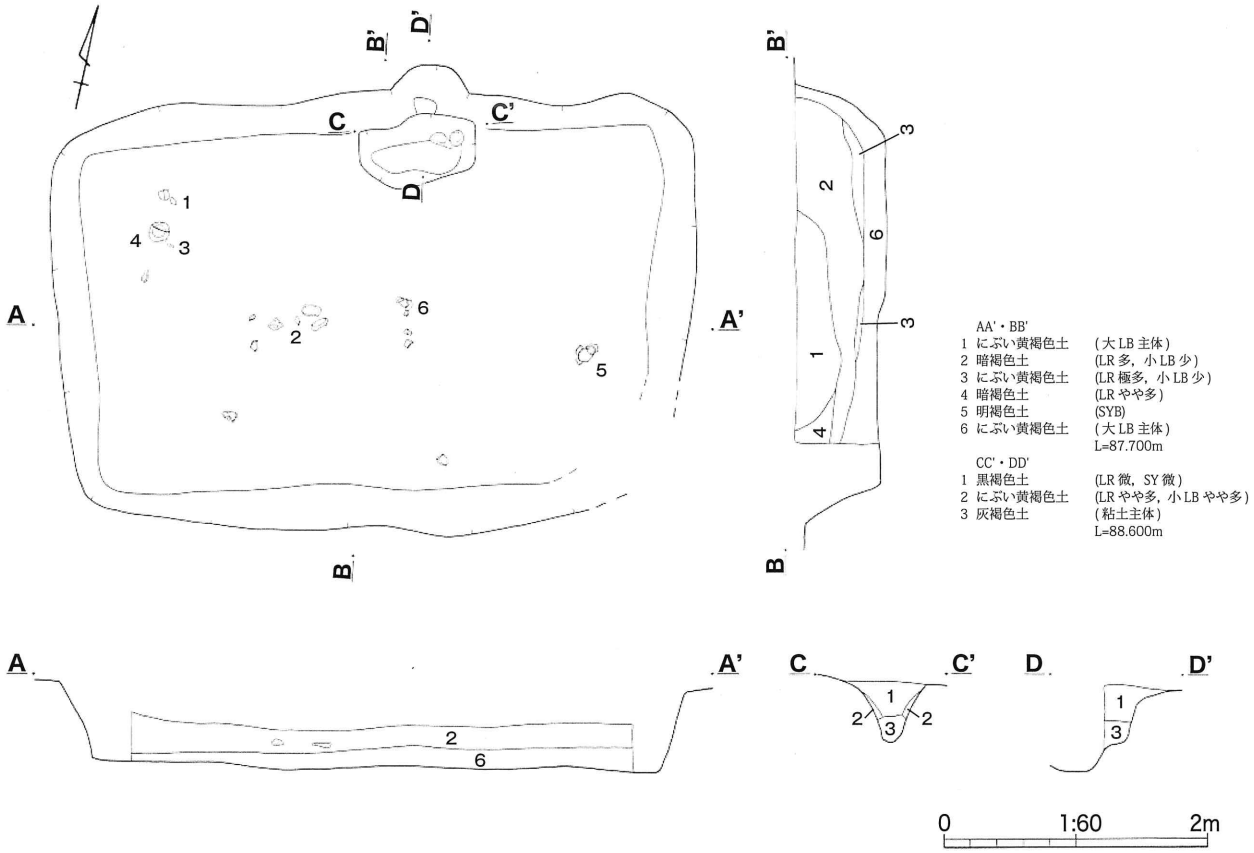
KK'～QQ'　L=87.600m



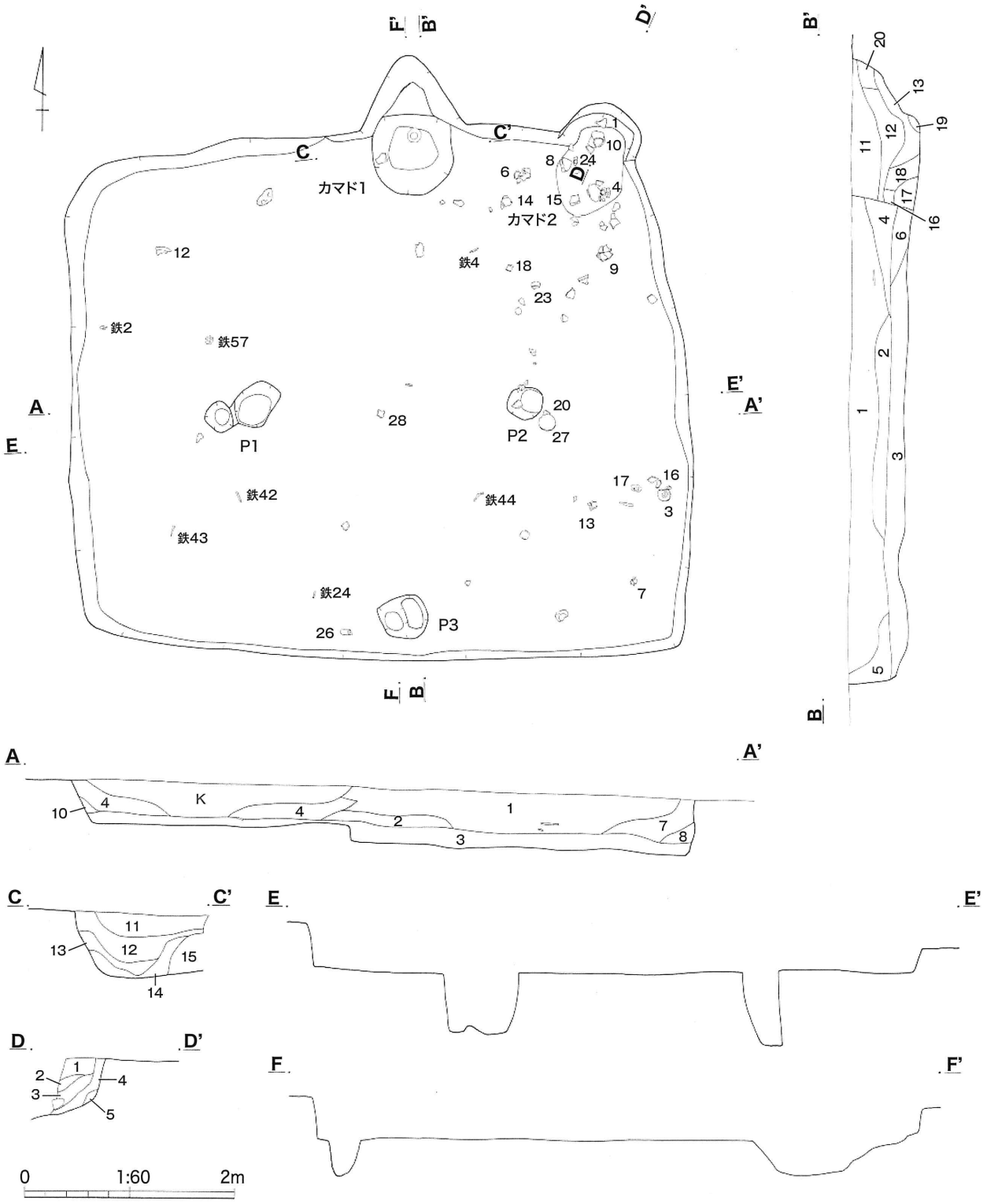
第11図　SI23・24（2）



第12図　SI23・24（3）



第13図　SI30



AA'～CC'

1	黒褐色土	(LR少，SY少)
2	黒褐色土	(LR微，SY少)
3	黒褐色土	(LRやや多，大LB多，SY少，貼り床)
4	灰褐色土	(LR少，SYやや多)
5	黒褐色土	(LRやや多，小LB少)
6	明褐色土	(LR多，SY多，粘土粒やや多)
7	暗褐色土	(LR少，SY微)
8	暗褐色土	(LR少，大LB少)
9	黒褐色土	(LR微)
10	黒褐色土	(LR微，小LB少)
11	暗褐色土	(LR少，SYやや多)
12	赤褐色土	(SY極多，粘土粒少)
13	黒褐色土	(SY少)
14	黒褐色土	(LR少，小LB少，SY少，粘土粒少)
15	黒褐色土	(LR微，小LB少，SY微)
16	黒褐色土	(SY少)
17	赤褐色土	(LR少，小LB少，SY多)
18	赤褐色土	(LR少，SY極多)
19	黒褐色土	(LR少，SY少)
20	黒褐色土	(LR少，SYやや多，SYB多)

(AA'・BB') L=87.400m
(CC') L=87.150m

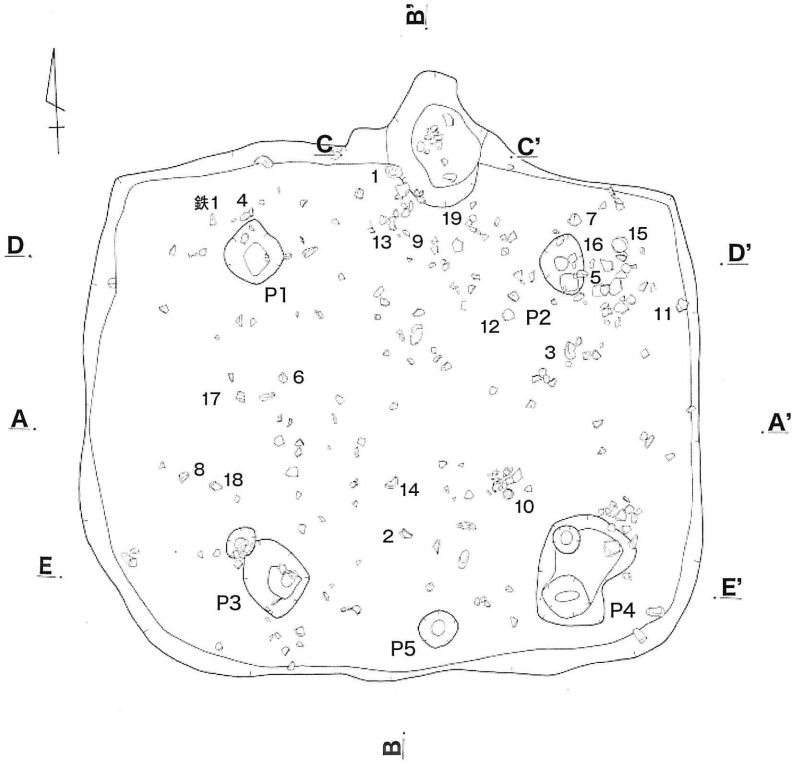
DD'

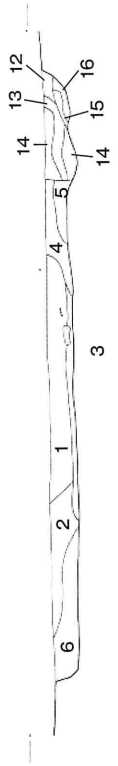
1	黒褐色土	(LR少，SY少)
2	黒褐色土	(LR少，SYやや多)
3	赤褐色土	(LRやや多，SY多，SYB多，粘土粒少)
4	黒褐色土	(LR少，SY少)
5	黒褐色土	(LR微，SY微)

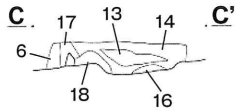
L=87.100m

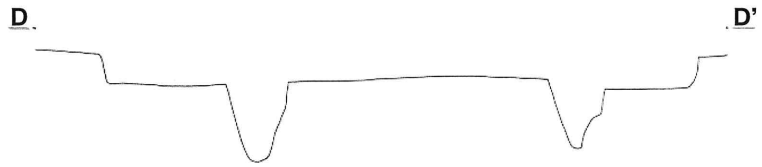
EE'・FF' L=87.400m

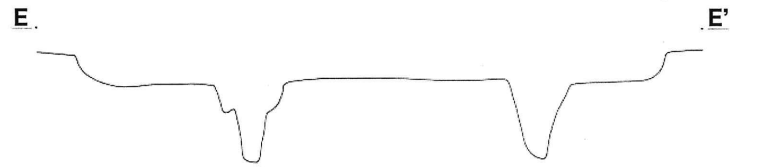
第14図　SI25











0 1:60 2m

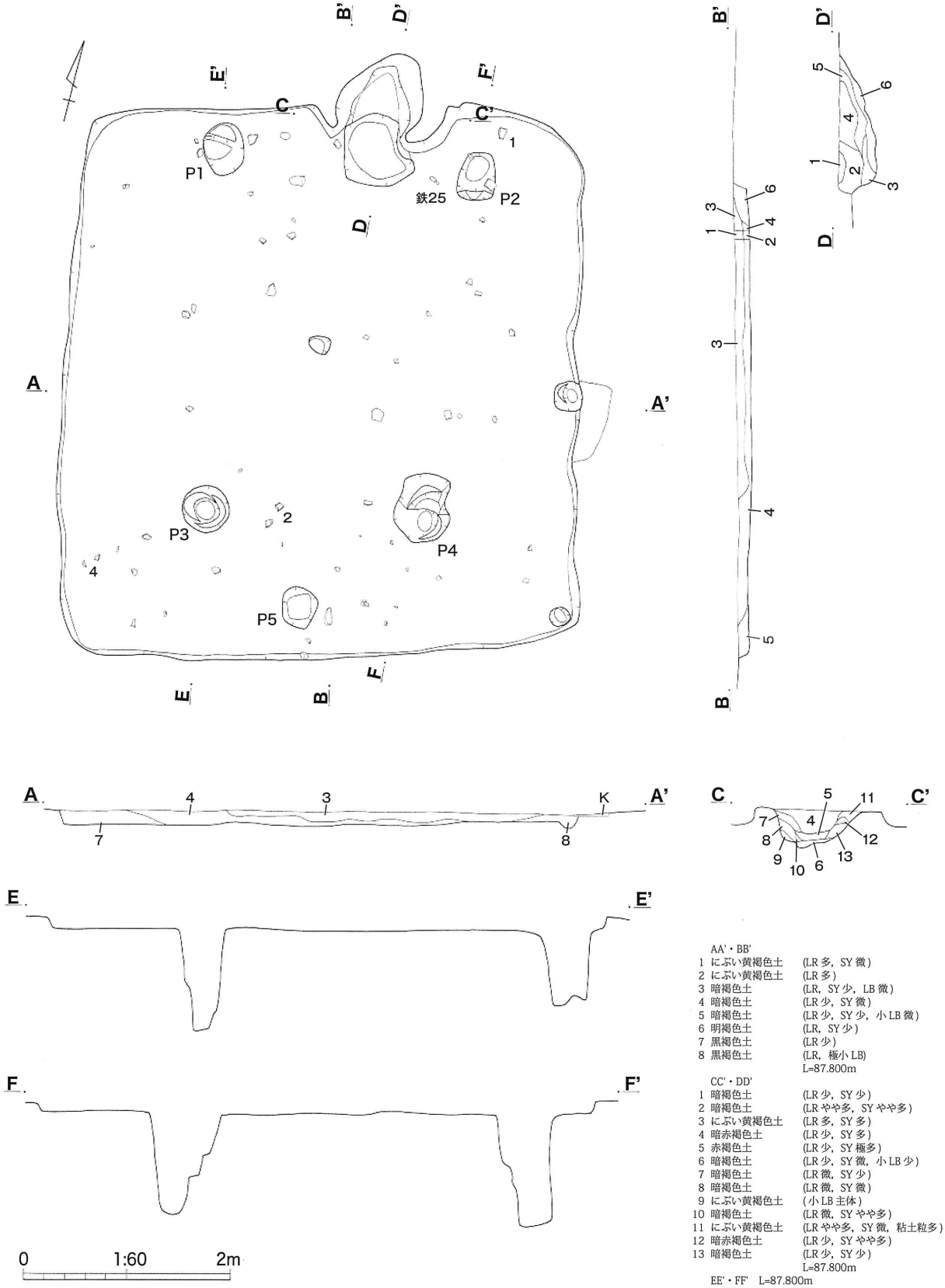
AA'～CC'

1	黒褐色土	(LR，SY微，C微)
2	黒褐色土	(LR少，SY微)
3	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB微)
4	暗褐色土	(LR少，SY少，C微)
5	暗褐色土	(SY多，LR少)
6	にぶい黄褐色土	(LR多)
7	黒色土	(LR微)
8	暗褐色土	(LR少，SY微)
9	暗褐色土	(LR多，極小LB少)
10	暗褐色土	(LR多，小LB少，SY微)
11	暗褐色土	(LR)
12	暗赤褐色土	(LR多，小LB多，SY多)
13	赤褐色土	(LR多，SY極多)
14	暗褐色土	(LR少，粘土粒少，C微)
15	黄褐色土	(LR多，小LB少，SY少)
16	黄褐色土	(小LB主体)
17	暗褐色土	(LR少，SY少，粘土ブロック)
18	暗赤褐色土	(SY多，LR少，C微)

L=87.800m

DD'・EE' L=87.800m

第15図 SI39



AA'・BB'

1	にぶい黄褐色土	(LR 多，SY 微)
2	にぶい黄褐色土	(LR 多)
3	暗褐色土	(LR，SY 少，LB 微)
4	暗褐色土	(LR 少，SY 微)
5	暗褐色土	(LR 少，SY 少，小 LB 微)
6	明褐色土	(LR，SY 少)
7	黒褐色土	(LR 少)
8	黒褐色土	(LR，極小 LB)

L=87.800m

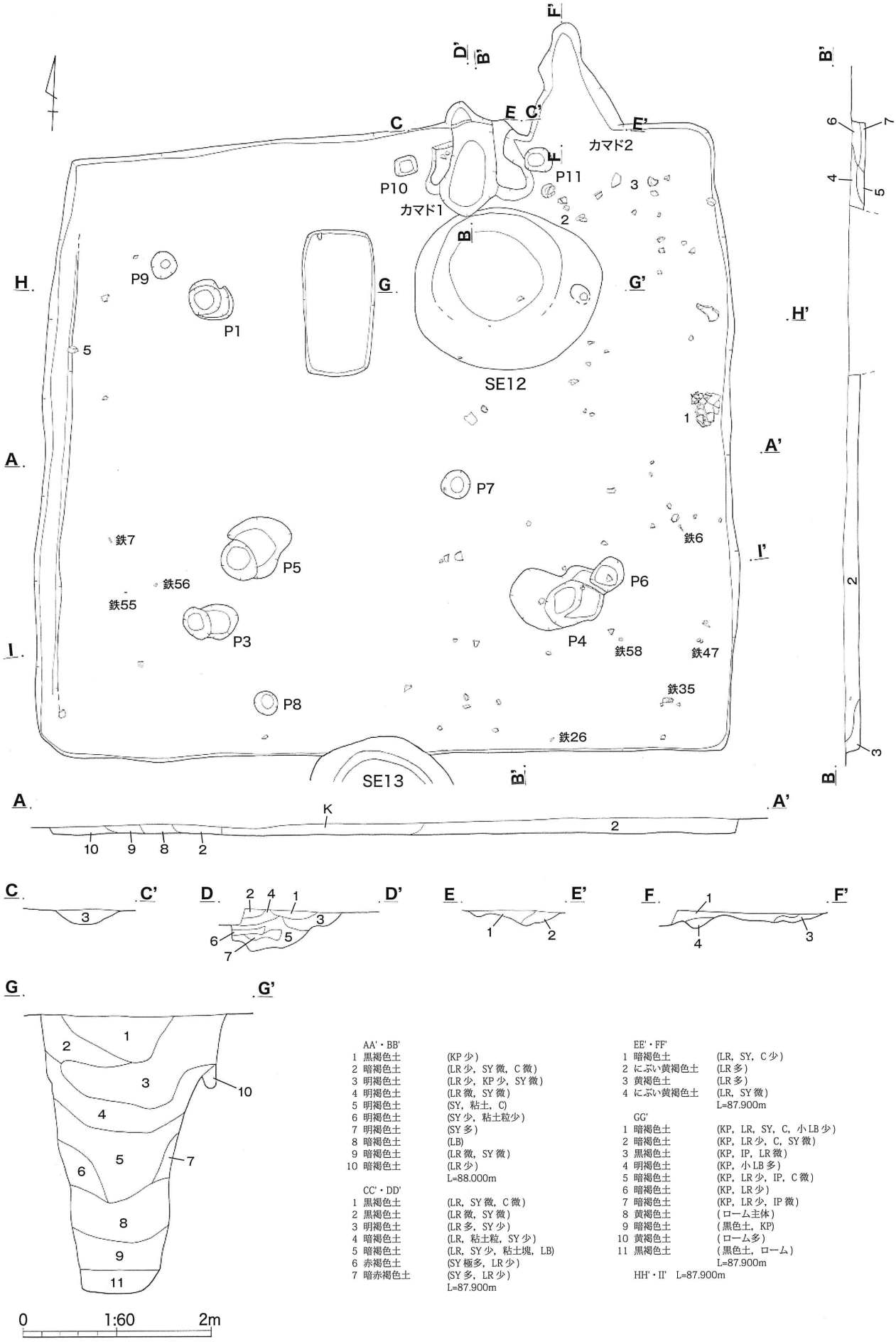
CC'・DD'

1	暗褐色土	(LR 少，SY 少)
2	暗褐色土	(LR やや多，SY やや多)
3	にぶい黄褐色土	(LR 多，SY 多)
4	暗赤褐色土	(LR 少，SY 多)
5	赤褐色土	(LR 少，SY 極多)
6	暗褐色土	(LR 少，SY 微，小 LB 少)
7	暗褐色土	(LR 微，SY 少)
8	暗褐色土	(LR 微，SY 微)
9	にぶい黄褐色土	(小 LB 主体)
10	暗褐色土	(LR 微，SY やや多)
11	にぶい黄褐色土	(LR やや多，SY 微，粘土粒多)
12	暗赤褐色土	(LR 少，SY やや多)
13	暗褐色土	(LR 少，SY 少)

L=87.800m

EE'・FF'　L=87.800m

第16図　SI40



AA'・BB'

1	黒褐色土	(KP少)
2	暗褐色土	(LR少，SY微，C微)
3	明褐色土	(LR少，KP少，SY微)
4	明褐色土	(LR微，SY微)
5	明褐色土	(SY，粘土，C)
6	明褐色土	(SY少，粘土粒少)
7	明褐色土	(SY多)
8	暗褐色土	(LB)
9	暗褐色土	(LR微，SY微)
10	暗褐色土	(LR少)
		L=88.000m

CC'・DD'

1	黒褐色土	(LR，SY微，C微)
2	黒褐色土	(LR微，SY微)
3	明褐色土	(LR多，SY少)
4	暗褐色土	(LR，粘土粒，SY少)
5	暗褐色土	(LR，SY少，粘土塊，LB)
6	赤褐色土	(SY極多，LR少)
7	暗赤褐色土	(SY多，LR少)
		L=87.900m

EE'・FF'

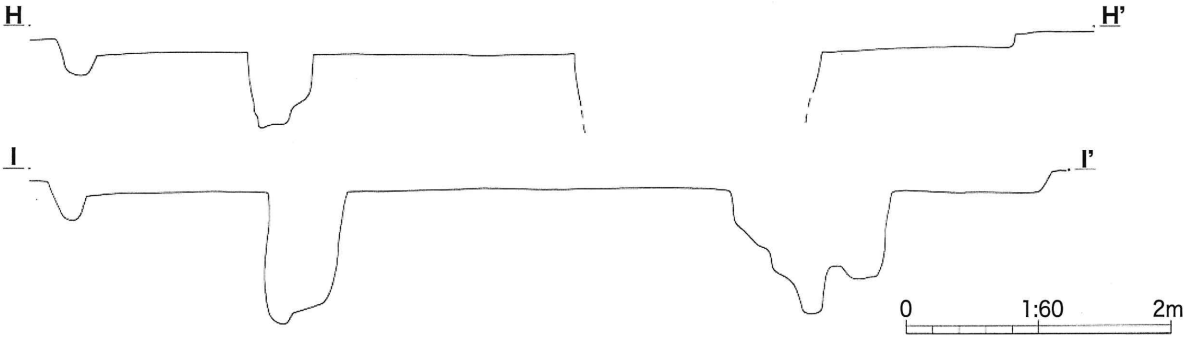
1	暗褐色土	(LR，SY，C少)
2	にぶい黄褐色土	(LR多)
3	黄褐色土	(LR多)
4	にぶい黄褐色土	(LR，SY微)
		L=87.900m

GG'

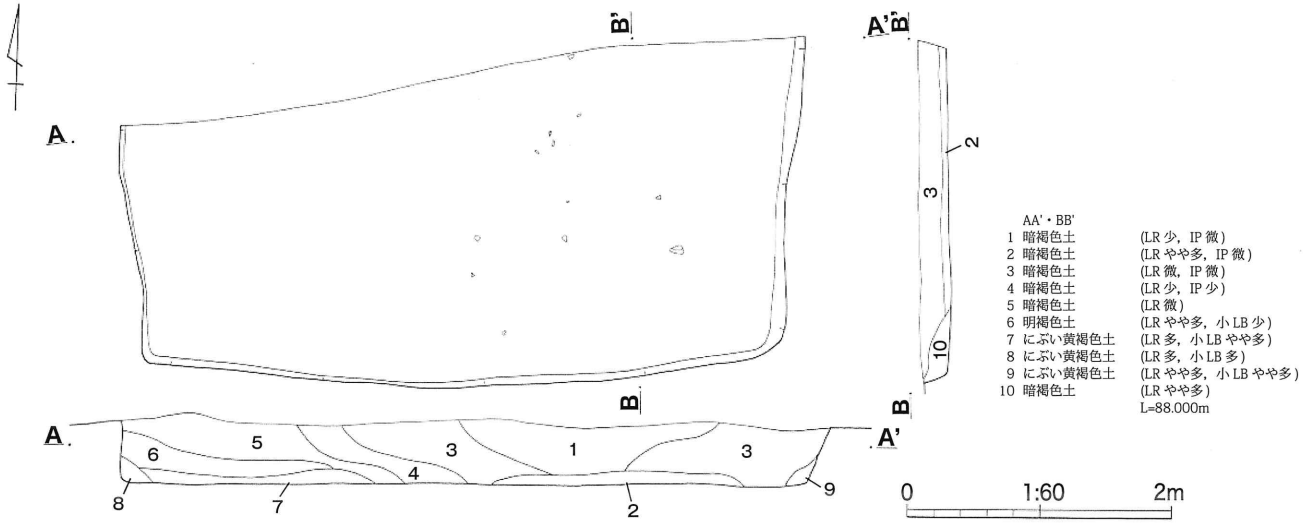
1	暗褐色土	(KP，LR，SY，C，小LB少)
2	暗褐色土	(KP，LR少，C，SY微)
3	黒褐色土	(KP，IP，LR微)
4	明褐色土	(KP，小LB多)
5	暗褐色土	(KP，LR少，IP，C微)
6	暗褐色土	(KP，LR少)
7	暗褐色土	(KP，LR少，IP微)
8	黄褐色土	(ローム主体)
9	暗褐色土	(黒色土，KP)
10	黄褐色土	(ローム多)
11	黒褐色土	(黒色土，ローム)
		L=87.900m

HH'・II'　L=87.900m

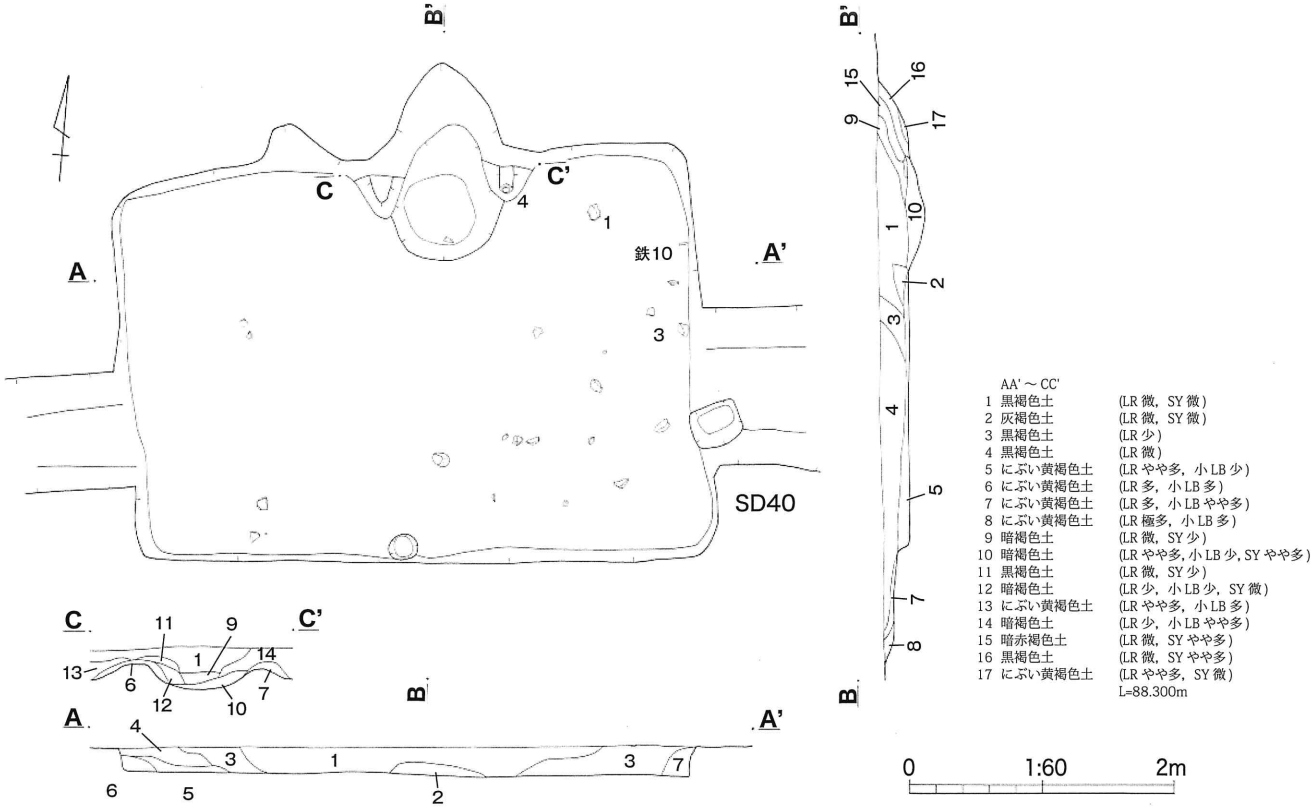
第17図　SI54・SE12（1）



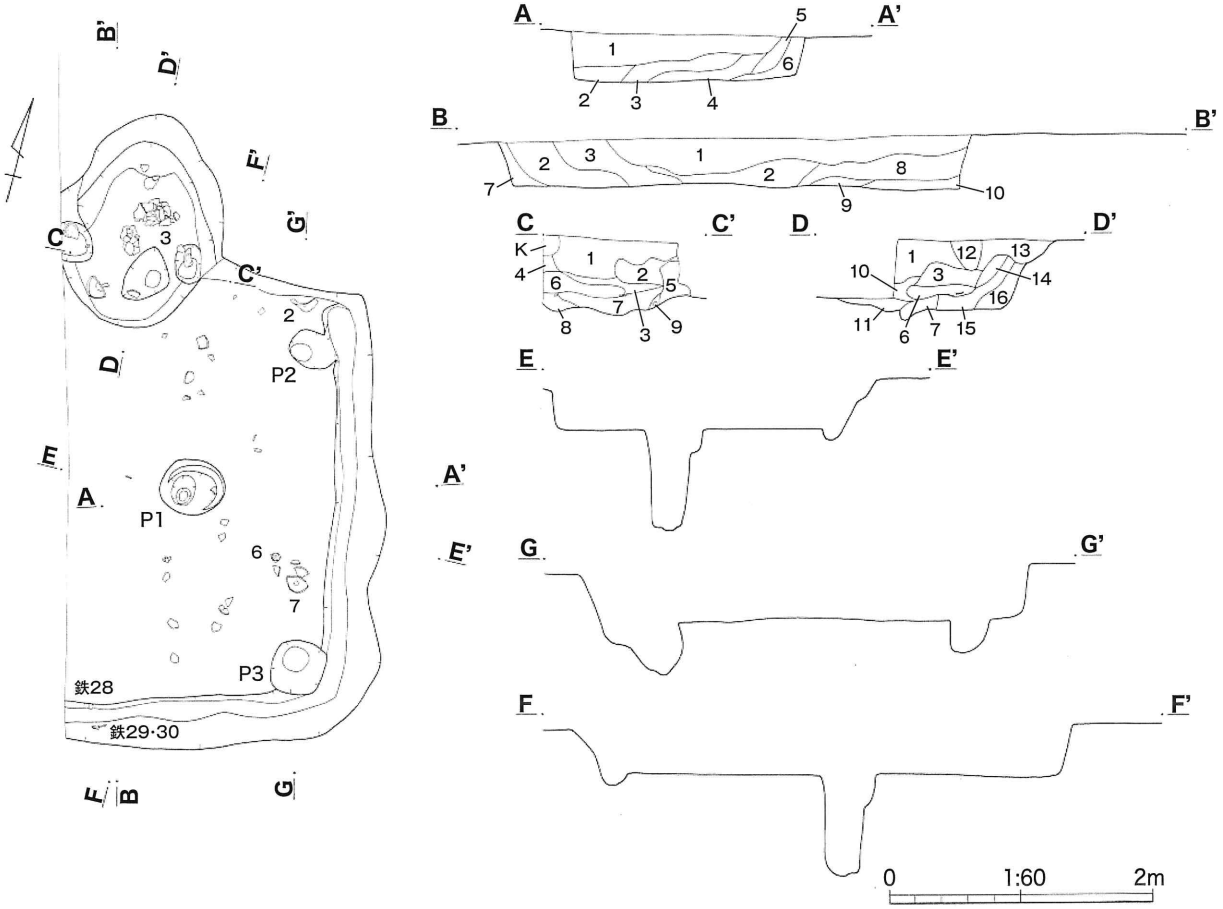
第18図　SI54・SE12（2）



第19図　SI55



第20図　SI63



AA'・BB'

1	明褐色土	(LR 微)
2	黒褐色土	(LR 微)
3	暗褐色土	(LR 微)
4	暗褐色土	(LR 少，小 LB 少)
5	暗褐色土	(LR 少)
6	にぶい黄褐色土	(LR やや多，小 LB 多)
7	にぶい黄褐色土	(LR やや多，小 LB やや多)
8	灰褐色土	(LR 少，小 LB 少，粘土ブロックやや多，SY 少)
9	暗褐色土	(LR 少，SY 少)
10	暗褐色土	(LR 少，SY やや多)

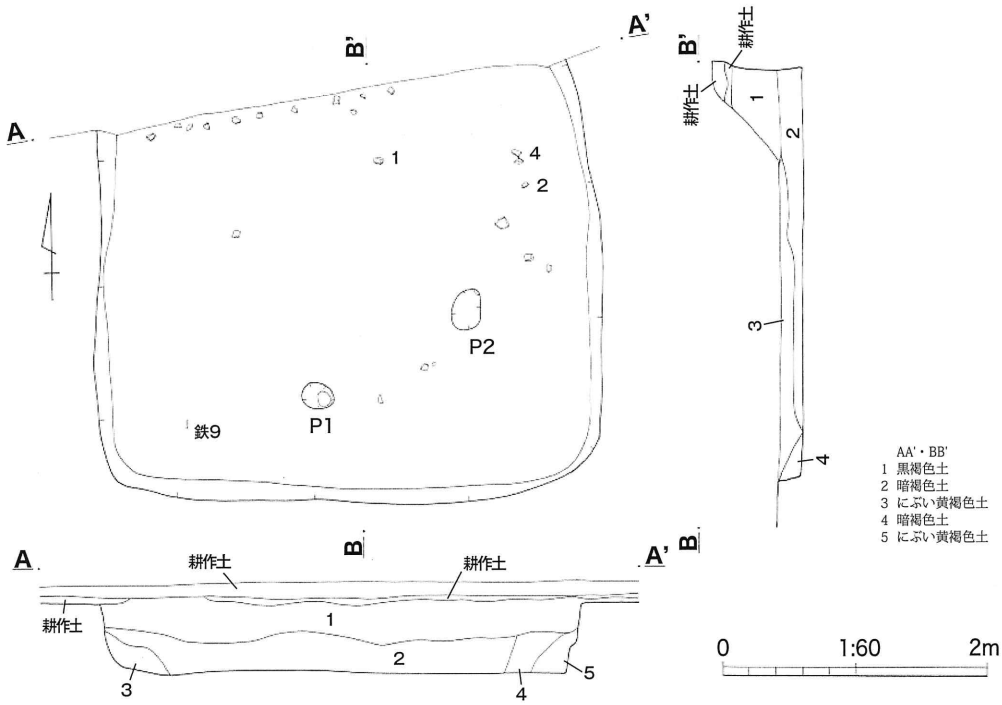
CC'・DD'

1	灰褐色土	(LR 少，粘土粒やや多，SY 微)
2	明灰褐色土	(LR 微，粘土粒多，SY 微)
3	黒褐色土	(LR 微，粘土粒やや多)
4	黒褐色土	(LR 微，粘土粒微)
5	明灰褐色土	(粘土主体，ソデ)
6	明灰褐色土	(粘土主体，黒色土)
7	暗赤褐色土	(LR 微，粘土粒少，SY やや多)
8	黒褐色土	(LR 少)
9	にぶい黄褐色土	(小 LB)
10	暗褐色土	(LR 微，粘土粒微，SY 微)
11	暗赤褐色土	(LR 少，SY やや多，粘土粒微)
12	灰褐色土	(LR 微，粘土粒多)
13	灰褐色土	(粘土主体)
14	明灰褐色土	(粘土主体)
15	灰赤色土	(粘土，SY)
16	灰褐色土	(粘土主体)

L=88.500m

EE'～GG'　L=88.500m

第21図　SI59

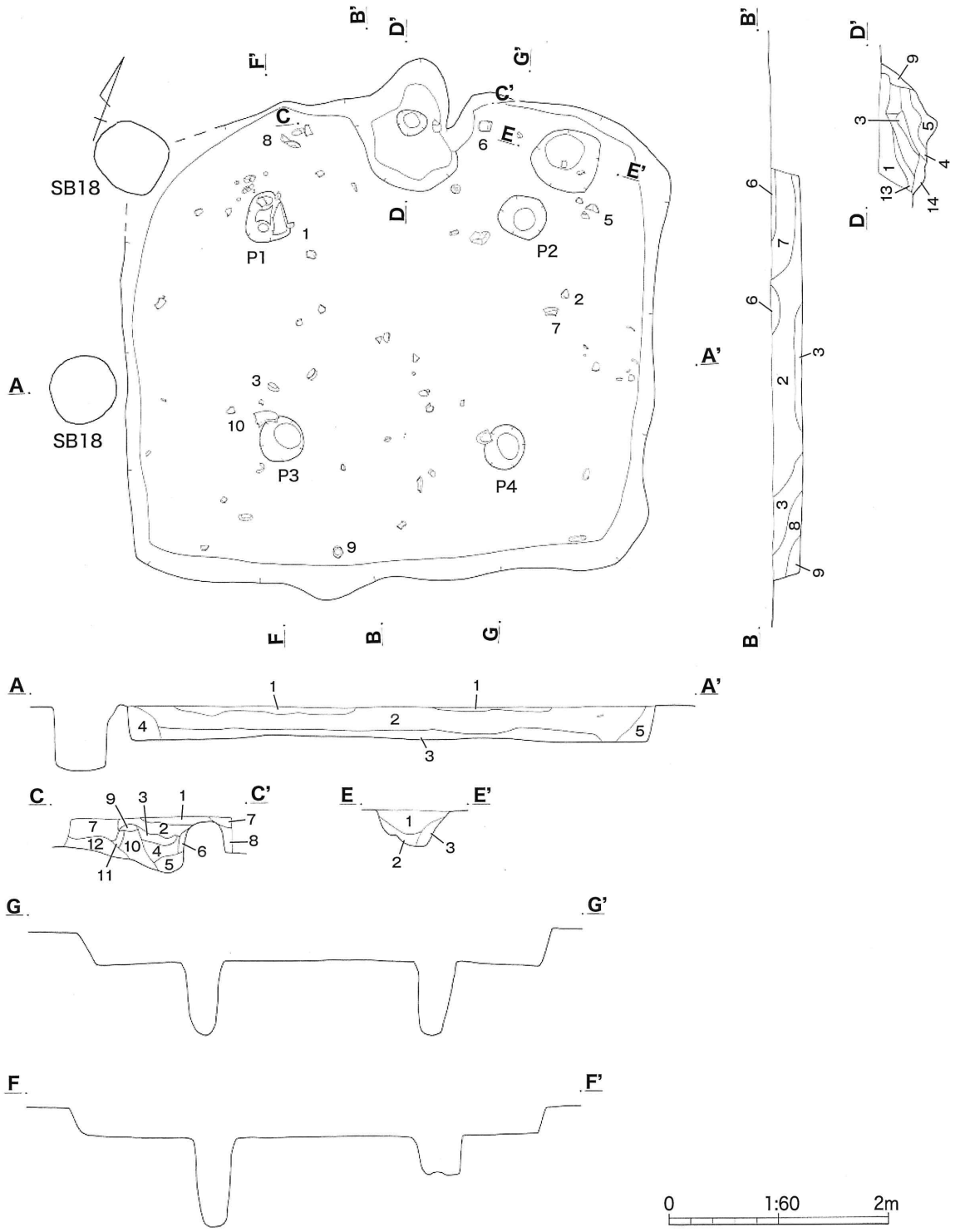


AA'・BB'

1	黒褐色土	(LR 微，SY 微)
2	暗褐色土	(LR 少，SY やや多)
3	にぶい黄褐色土	(LR やや多，小 LB 少)
4	暗褐色土	(LR やや多)
5	にぶい黄褐色土	(LR 多，小 LB 少)

L=88.800m

第22図　SI61



AA'・BB'

1	暗褐色土	(LR少，IP微)
2	暗褐色土	(LR，小LB少，青灰色土粒，IP微)
3	暗褐色土	(LR少，青灰色土粒，IP微)
4	暗褐色土	(LR)
5	暗褐色土	(LR少，SY，小LB，青灰色土粒微)
6	暗褐色土	(LR少，SY微)
7	暗褐色土	(LR多，SY，C少，青灰色土粒微)
8	暗褐色土	(LR，IP少)
9	暗褐色土	(LRやや多)

L=88.400m

CC'・DD'

1	にぶい黄褐色土	(LR極多，SYやや多)
2	黄褐色土	(ローム主体，SY少)
3	赤褐色土	(SYB主体)
4	にぶい黄褐色土	(LR極多，SYやや多，小LBやや多)
5	にぶい黄褐色土	(LR多，小LBやや多，SYやや多)
6	黄褐色土	(ローム主体，SY少，大SYB)
7	暗褐色土	(LR少)
8	にぶい黄褐色土	(LR多)
9	にぶい黄褐色土	(LRやや多)
10	黄褐色土	(ローム主体)
11	にぶい黄褐色土	(LR極多，SY微)
12	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB少)
13	暗褐色土	(LRやや多，小LB少)
14	暗褐色土	(LR少，SY微)
15	にぶい黄褐色土	(LR多，SYやや多)

L=88.400m

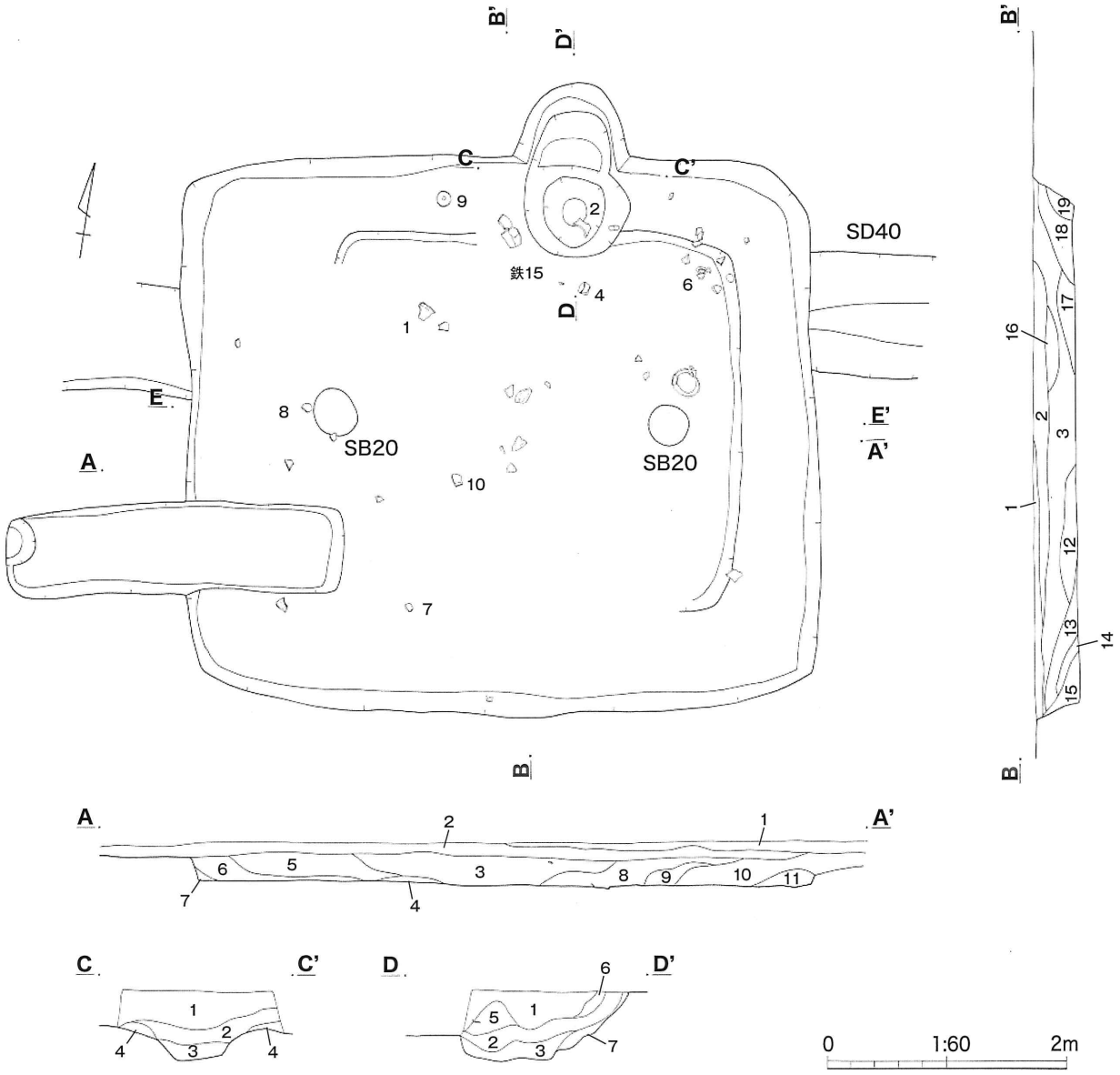
EE'

1	にぶい黄褐色土	(LRやや多，小LB多)
2	にぶい黄褐色土	(LR多，小LB少)
3	暗褐色土	(LRやや多，小LB少)

L=88.000m

FF'・GG'　L=88.400m

第23図　SI60



AA'・BB'

1	黒褐色土	(LR 極微)
2	暗褐色土	(LR 微)
3	暗褐色土	(LR 少，IP 微)
4	明褐色土	(LR やや多，小 LB 少)
5	明褐色土	(LR 少)
6	暗褐色土	(LR やや多，小 LB 少)
7	にぶい黄褐色土	(LR 極多)
8	暗褐色土	(LR やや多，IP 微)
9	明褐色土	(LR やや多，IP 微)
10	暗褐色土	(LR 少，IP 微，SP 微)
11	にぶい黄褐色土	(LR やや多，小 LB 少)
12	明褐色土	(LR やや多)
13	暗褐色土	(LR やや多)
14	暗褐色土	(LR 少)
15	にぶい黄褐色土	(LR 多，小 LB 少)
16	黒褐色土	(LR 微，IP 微)
17	にぶい黄褐色土	(LR やや多，SY 微)
18	暗褐色土	(LR 少，SY やや多)
19	暗褐色土	(LR 少，SY 少)

L=88.300m

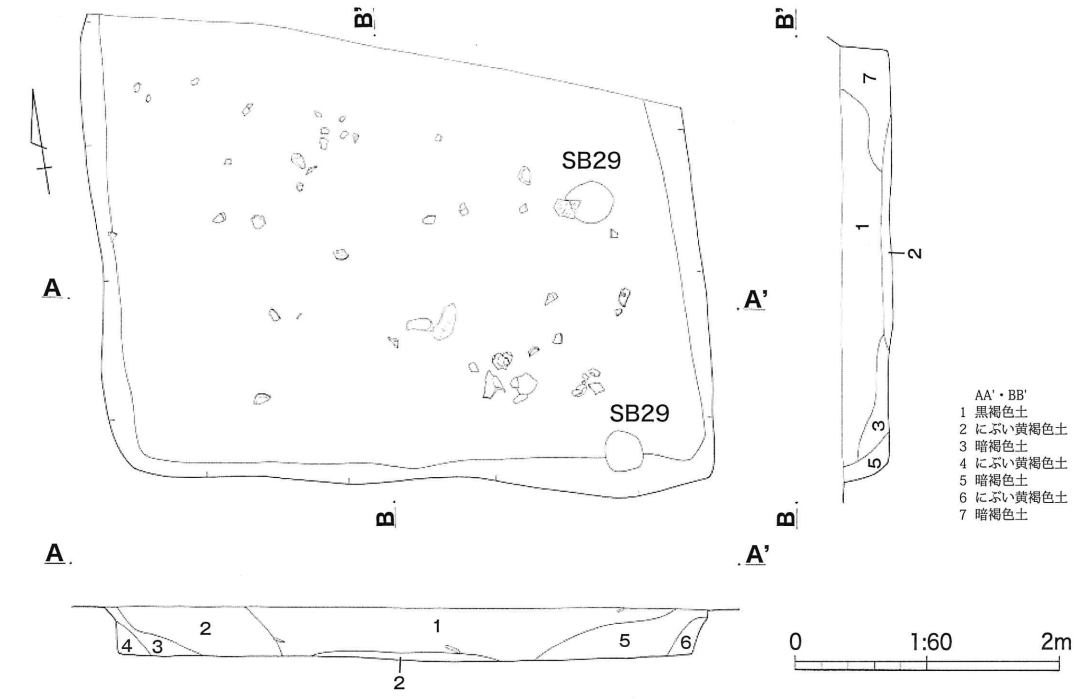
CC'・DD'

1	暗褐色土	(LR やや多，小 LB 少，SY 少)
2	明灰褐色土	(LR やや多，小 LB やや多，SY やや多，小 SYB やや多)
3	にぶい黄褐色土	(LR やや多，小 LB やや多，SY 微)
4	にぶい黄褐色土	(LR 多)
5	灰褐色土	(LR 少，SY やや多)
6	暗赤褐色土	(LR 少，SY 多)
7	にぶい黄褐色土	(LR やや多)

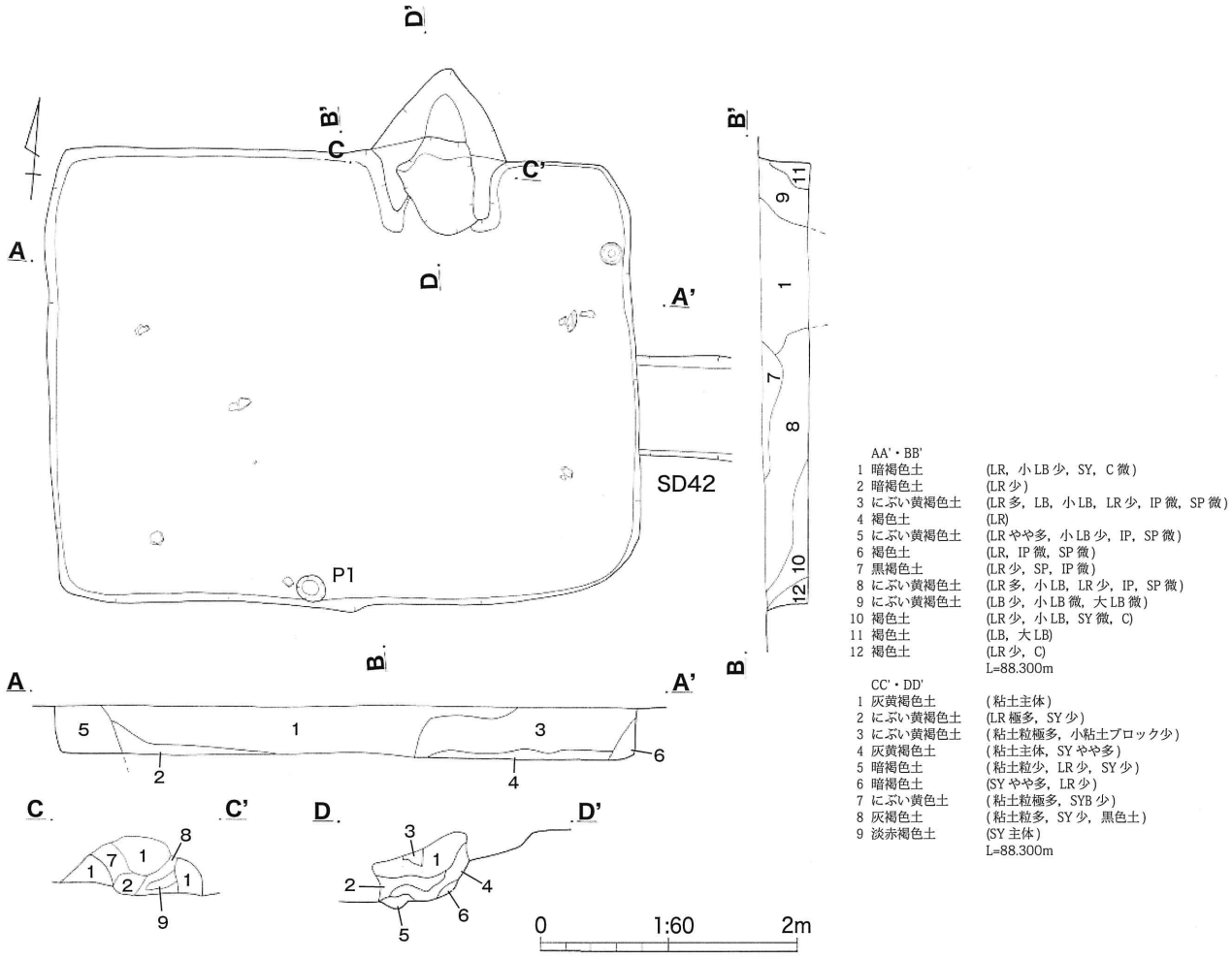
L=88.300m

EE' L=88.300m

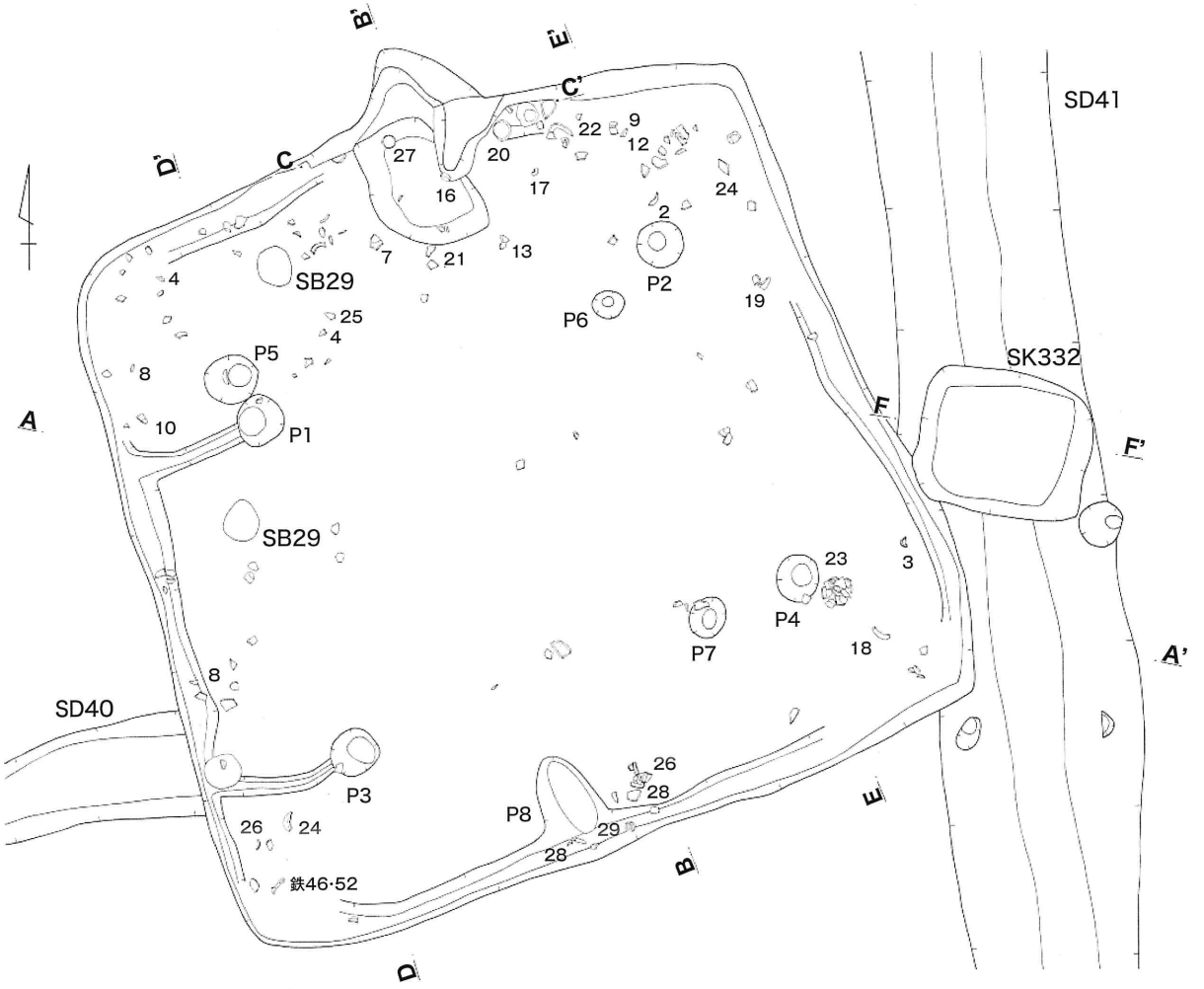
第24図　SI62・SD40・SB20

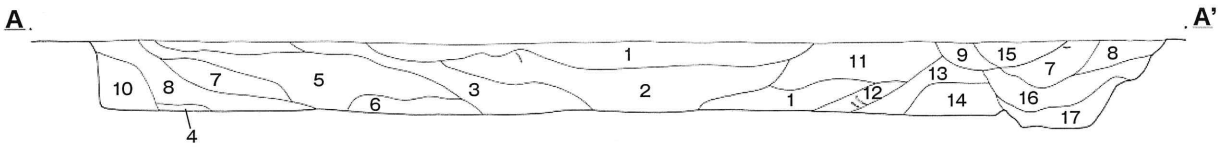


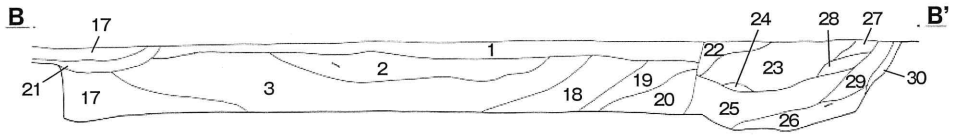
第25図　SI65

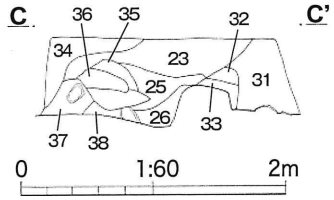


第26図　SI67・SD42









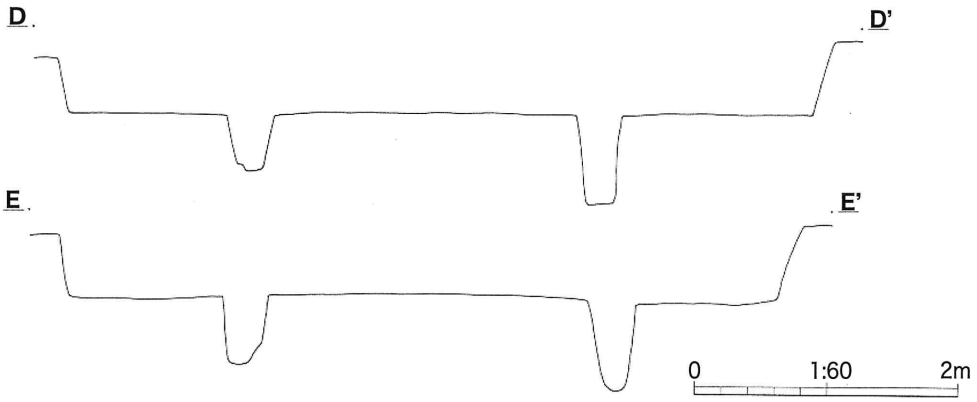
AA'～CC'

1 暗褐色土 (LR やや多，小 LB 少，SY 微)
2 にぶい黄褐色土 (LR 極多，大 LB やや多，小 LB 多，SY 微)
3 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB やや多)
4 明褐色土 (LR やや多)
5 暗褐色土 (LR 多，小 LB 少)
6 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
7 暗褐色土 (LR やや多)
8 暗褐色土 (LR 少)
9 黒褐色土 (LR 微)
10 黒褐色土 (LR 少)
11 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 少，SY 微)
12 明褐色土 (LR 少)
13 にぶい黄褐色土 (LR 多，SY 微)
14 暗褐色土 (LR やや多，SY 微)
15 黒褐色土 (LR 微，小 LB 少)
16 暗褐色土 (LR 少，大 LB，小 LB 多)
17 暗褐色土 (LR 微)
18 暗褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
19 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少)
20 明灰褐色土 (LR 微)
21 にぶい黄褐色土 (大 LB 主体)
22 暗褐色土 (LR 少，小 LB，SY 微)
23 暗褐色土 (LR，SY，C，粘土少)
24 灰褐色土 (粘土多，LR，SY 少)
25 灰褐色土 (粘土，SY 多，LR，C 少)
26 灰褐色土 (SY 多，砂多)
27 灰褐色土 (砂極多，SY 少)
28 灰褐色土 (粘土，SY 塊極多)
29 赤褐色土 (SY 極多，C)
30 暗褐色土 (LR 多)
31 暗褐色土 (LR，SY 少)
32 暗褐色土 (LR，SY 少，粘土微)
33 灰褐色土 (粘土多，SY 少)
34 暗褐色土 (LR 少，SY，C，粘土微)
35 明灰褐色土 (粘土主体，SY 微)
36 明灰褐色土 (粘土主体，SY 塊微)
37 にぶい黄褐色土 (LR 多，SY，C 微)
38 灰褐色土 (SY，さらさら)

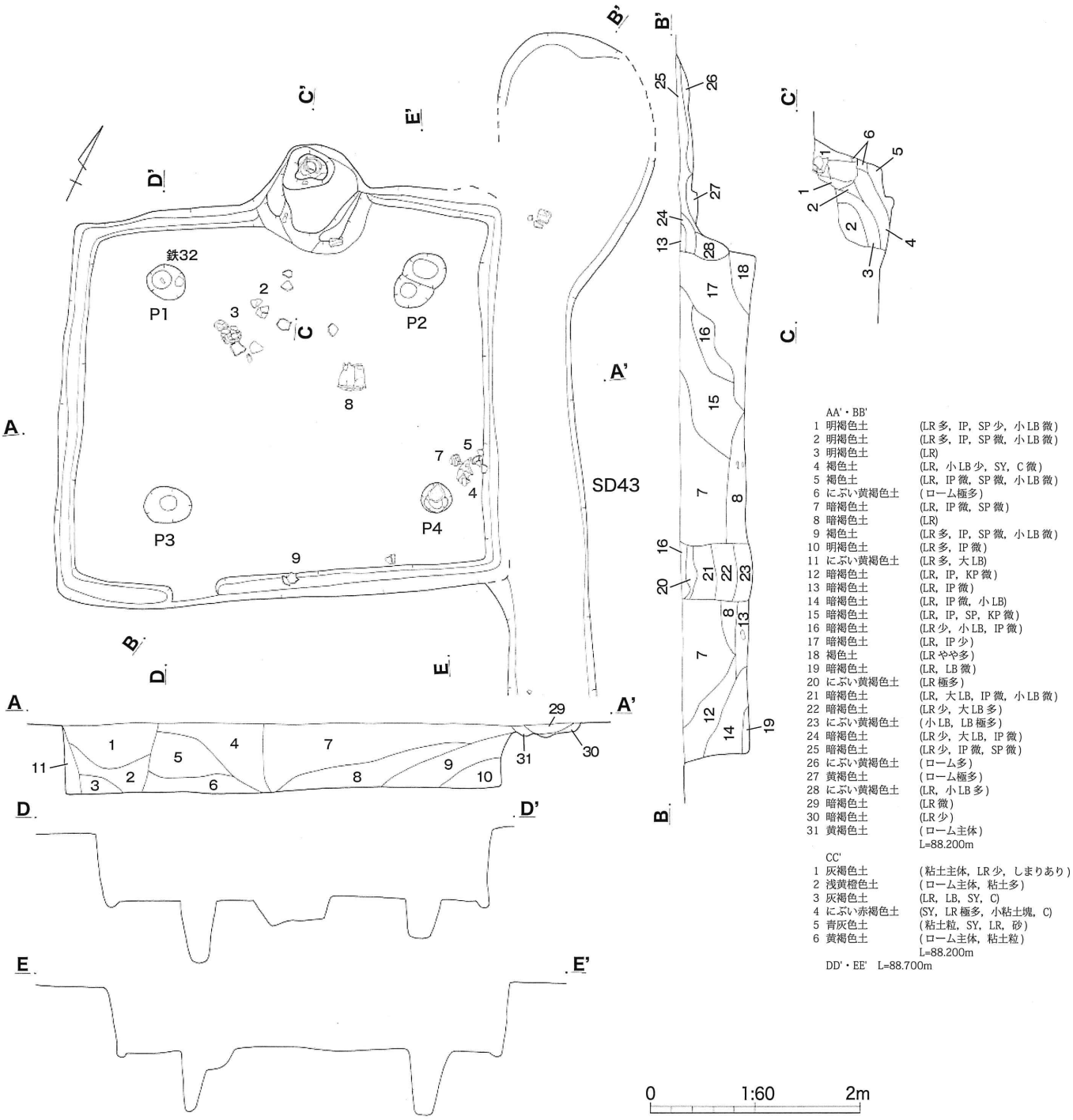
L=88.300m

DD'・EE' L=88.300m

第27図 SI66・SK332・SD40・41 (1)



第28図　SI66・SK332・SD40・41（2）



AA'・BB'

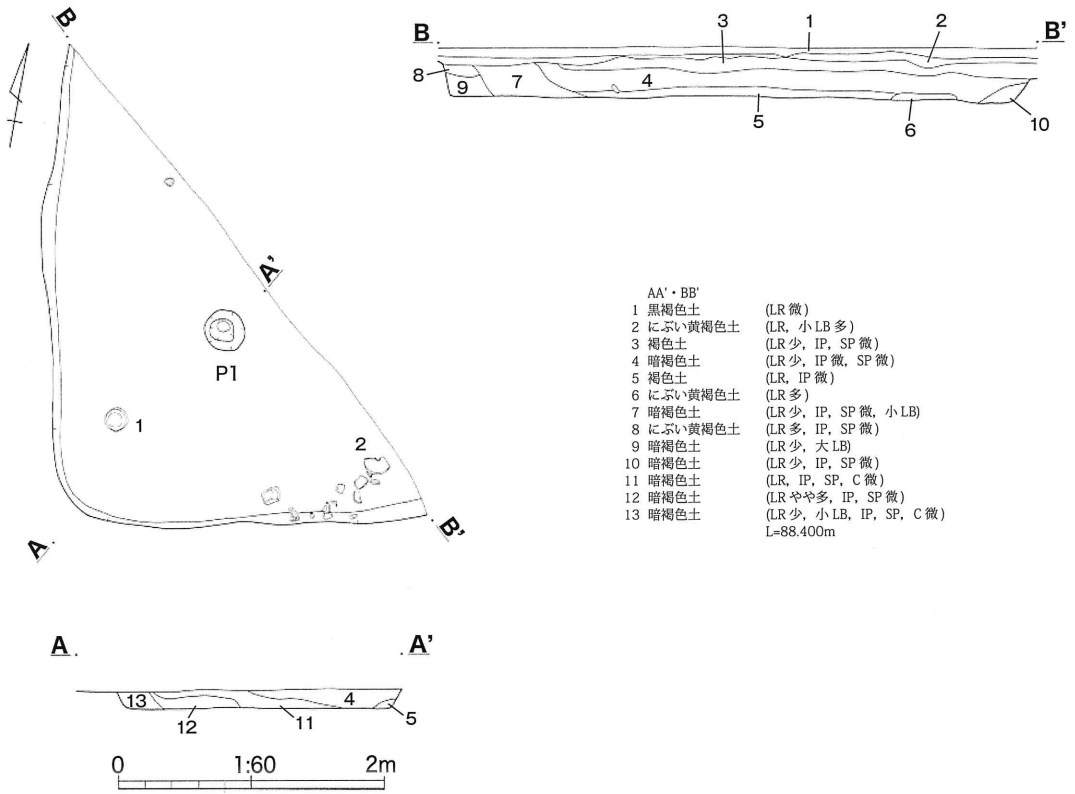
1	明褐色土	(LR 多，IP，SP 少，小 LB 微)
2	明褐色土	(LR 多，IP，SP 微，小 LB 微)
3	明褐色土	(LR)
4	褐色土	(LR，小 LB 少，SY，C 微)
5	褐色土	(LR，IP 微，SP 微，小 LB 微)
6	にぶい黄褐色土	(ローム極多)
7	暗褐色土	(LR，IP 微，SP 微)
8	暗褐色土	(LR)
9	褐色土	(LR 多，IP，SP 微，小 LB 微)
10	明褐色土	(LR 多，IP 微)
11	にぶい黄褐色土	(LR 多，大 LB)
12	暗褐色土	(LR，IP，KP 微)
13	暗褐色土	(LR，IP 微)
14	暗褐色土	(LR，IP 微，小 LB)
15	暗褐色土	(LR，IP，SP，KP 微)
16	暗褐色土	(LR 少，小 LB，IP 微)
17	暗褐色土	(LR，IP 少)
18	褐色土	(LR やや多)
19	暗褐色土	(LR，LB 微)
20	にぶい黄褐色土	(LR 極多)
21	暗褐色土	(LR，大 LB，IP 微，小 LB 微)
22	暗褐色土	(LR 少，大 LB 多)
23	にぶい黄褐色土	(小 LB，LB 極多)
24	暗褐色土	(LR 少，大 LB，IP 微)
25	暗褐色土	(LR 少，IP 微，SP 微)
26	にぶい黄褐色土	(ローム多)
27	黄褐色土	(ローム極多)
28	にぶい黄褐色土	(LR，小 LB 多)
29	暗褐色土	(LR 微)
30	暗褐色土	(LR 少)
31	黄褐色土	(ローム主体)
		L=88.200m

CC'

1	灰褐色土	(粘土主体，LR 少，しまりあり)
2	浅黄橙色土	(ローム主体，粘土多)
3	灰褐色土	(LR，LB，SY，C)
4	にぶい赤褐色土	(SY，LR 極多，小粘土塊，C)
5	青灰色土	(粘土粒，SY，LR，砂)
6	黄褐色土	(ローム主体，粘土粒)
		L=88.200m

DD'・EE'　L=88.700m

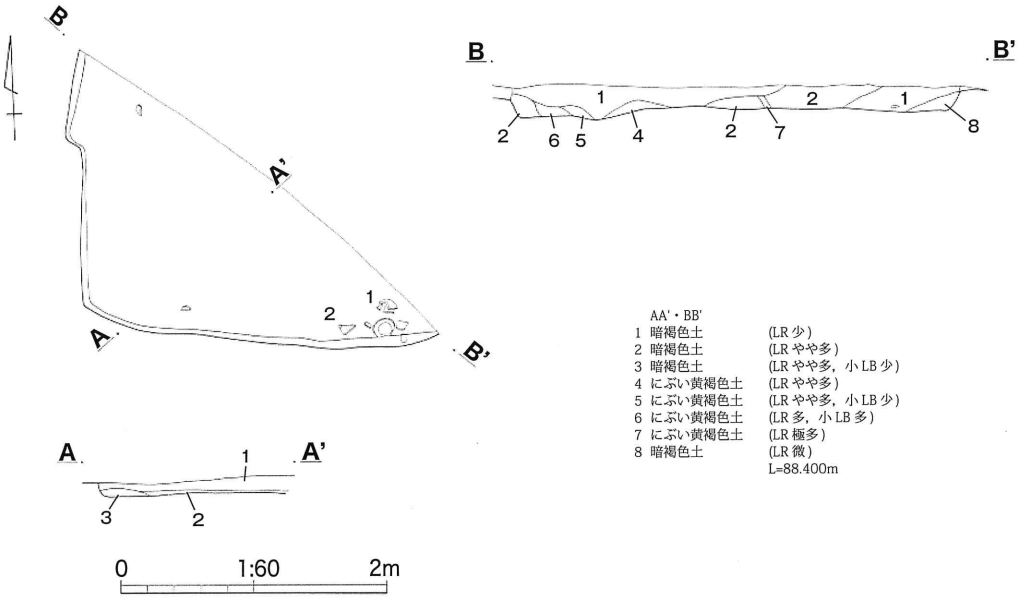
第29図　SI68・SD43



AA'・BB'

1	黒褐色土	(LR 微)
2	にぶい黄褐色土	(LR, 小 LB 多)
3	褐色土	(LR 少, IP, SP 微)
4	暗褐色土	(LR 少, IP 微, SP 微)
5	褐色土	(LR, IP 微)
6	にぶい黄褐色土	(LR 多)
7	暗褐色土	(LR 少, IP, SP 微, 小 LB)
8	にぶい黄褐色土	(LR 多, IP, SP 微)
9	暗褐色土	(LR 少, 大 LB)
10	暗褐色土	(LR 少, IP, SP 微)
11	暗褐色土	(LR, IP, SP, C 微)
12	暗褐色土	(LR やや多, IP, SP 微)
13	暗褐色土	(LR 少, 小 LB, IP, SP, C 微)
		L=88.400m

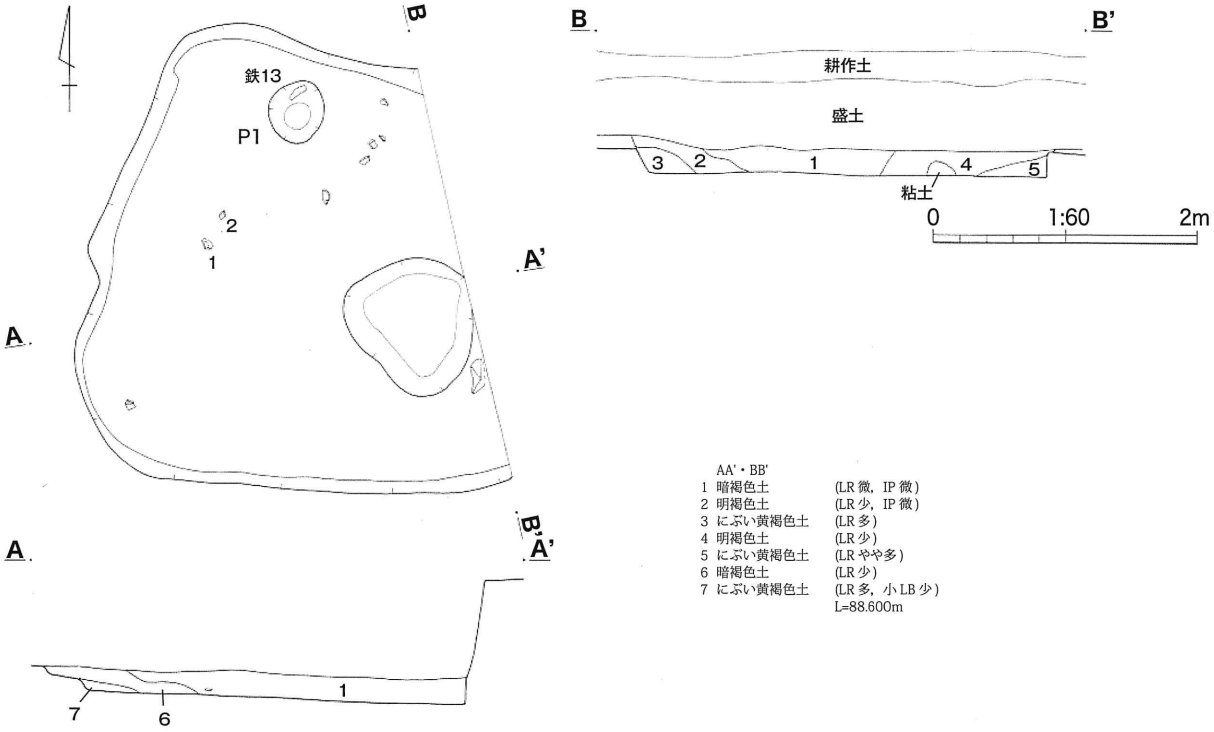
第30図　SI69



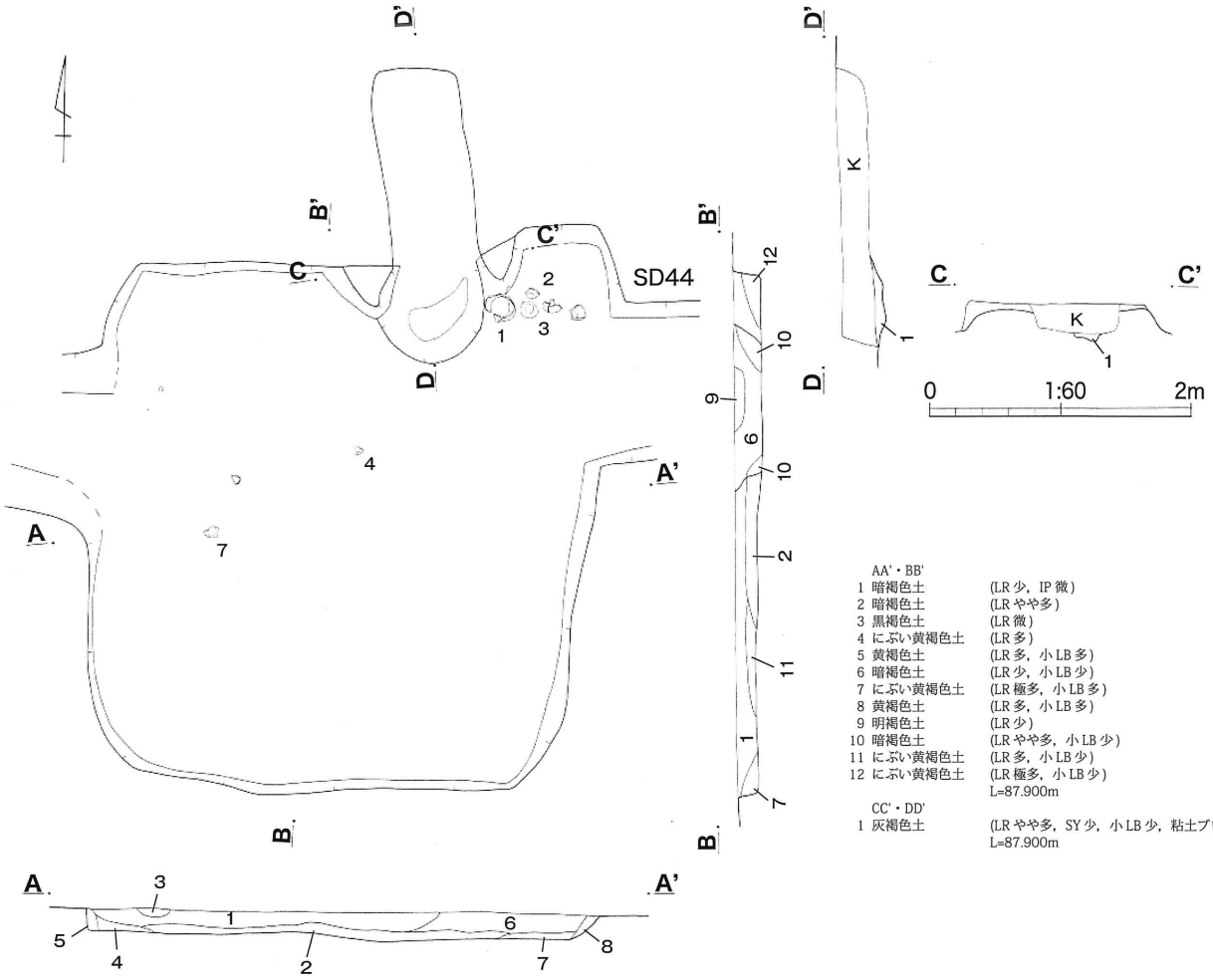
AA'・BB'

1	暗褐色土	(LR 少)
2	暗褐色土	(LR やや多)
3	暗褐色土	(LR やや多, 小 LB 少)
4	にぶい黄褐色土	(LR やや多)
5	にぶい黄褐色土	(LR やや多, 小 LB 少)
6	にぶい黄褐色土	(LR 多, 小 LB 多)
7	にぶい黄褐色土	(LR 極多)
8	暗褐色土	(LR 微)
		L=88.400m

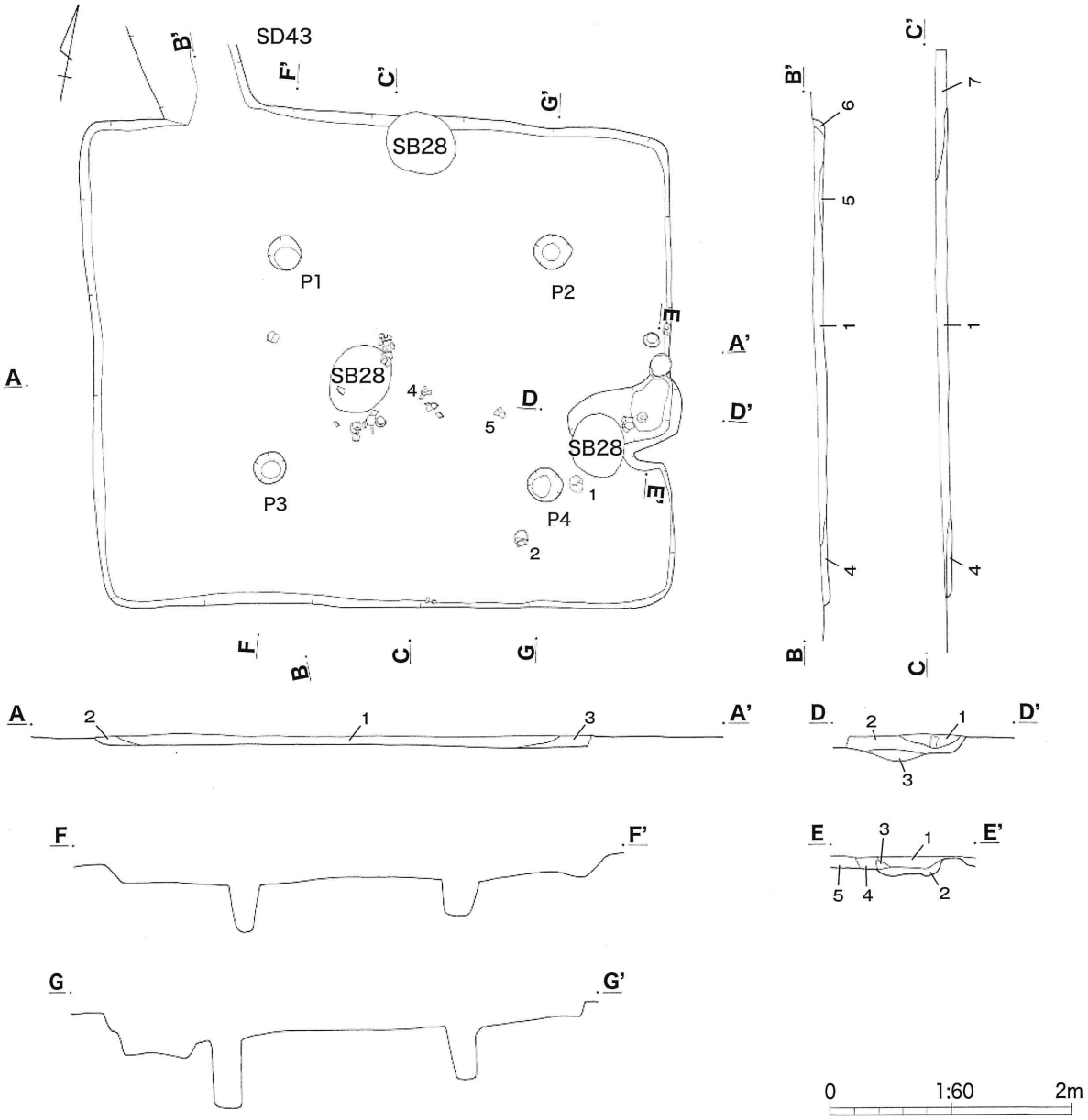
第31図　SI70



第32図　SI71



第33図　SI72・SD44



AA'～CC'

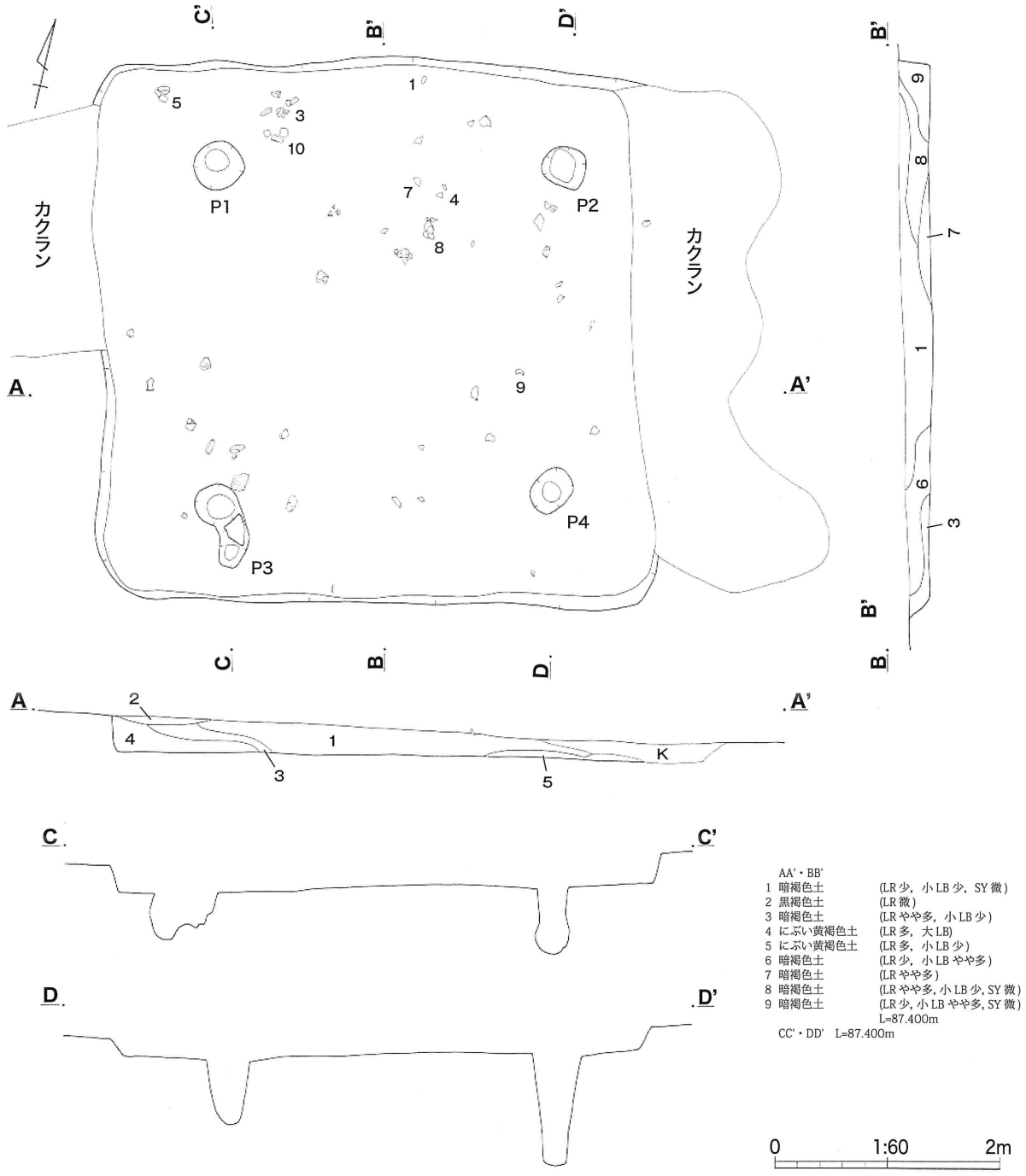
1 暗褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 多)
3 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 少)
4 明褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
5 暗褐色土 (LR 少)
6 暗褐色土 (LR やや多)
7 黒褐色土 (LR 微，小 LB 少)
L=88.000m

DD'・EE'

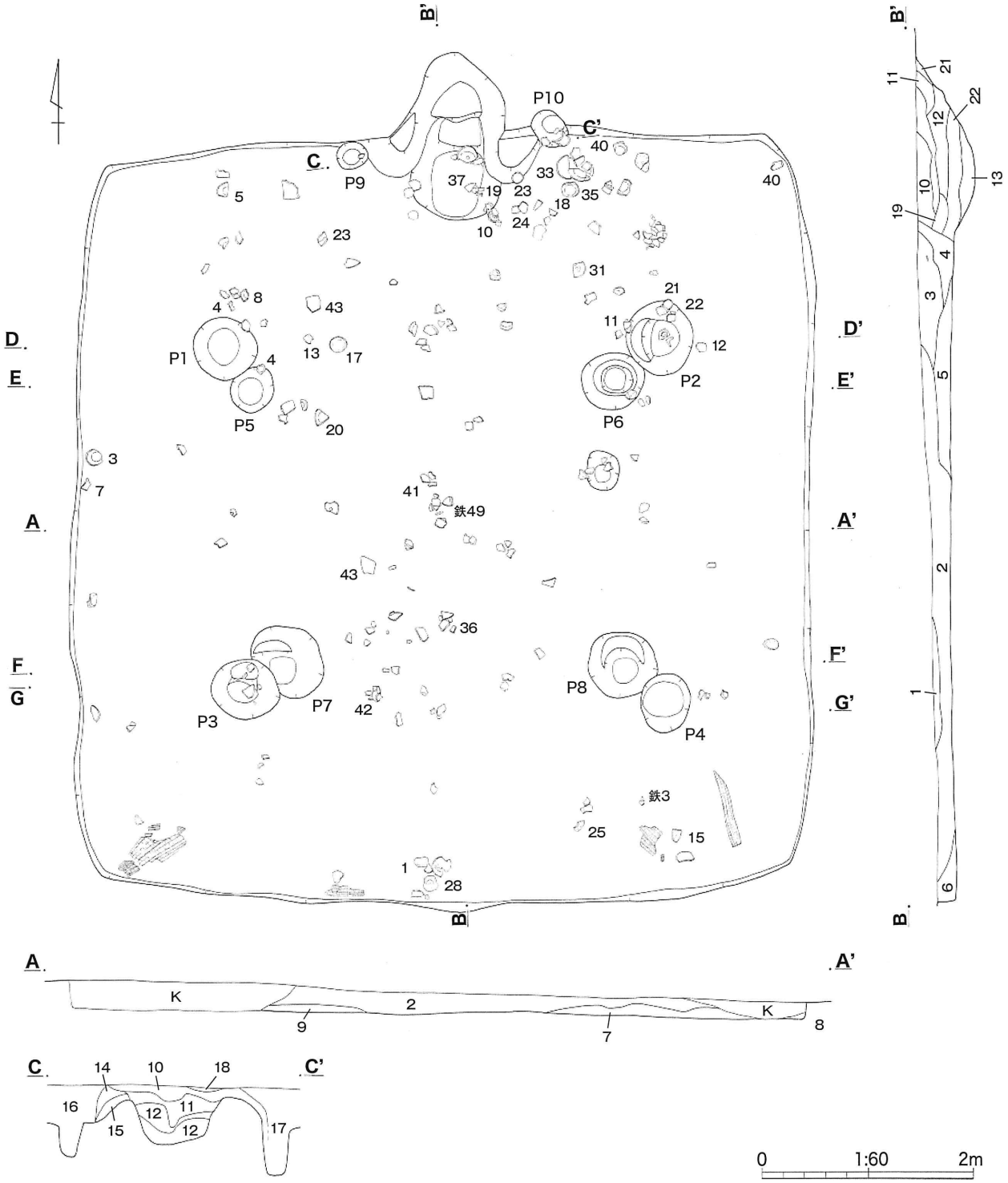
1 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多，SY 多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少，SY 少)
3 灰褐色土 (粘土主体)
4 暗褐色土 (LR 少)
5 暗褐色土 (LR やや多)
L=88.000m

FF'・GG' L=88.000m

第34図 SI73・SD43・SB28


C'
B'
D'
B'
カクラン
カクラン
P1
P2
P3
P4
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
K
AA'・BB'
1 暗褐色土 (LR少，小LB少，SY微)
2 黒褐色土 (LR微)
3 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
4 にぶい黄褐色土 (LR多，大LB)
5 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
6 暗褐色土 (LR少，小LBやや多)
7 暗褐色土 (LRやや多)
8 暗褐色土 (LRやや多，小LB少，SY微)
9 暗褐色土 (LR少，小LBやや多，SY微)
L=87.400m
CC'・DD' L=87.400m
0 1:60 2m

第35図　SI74



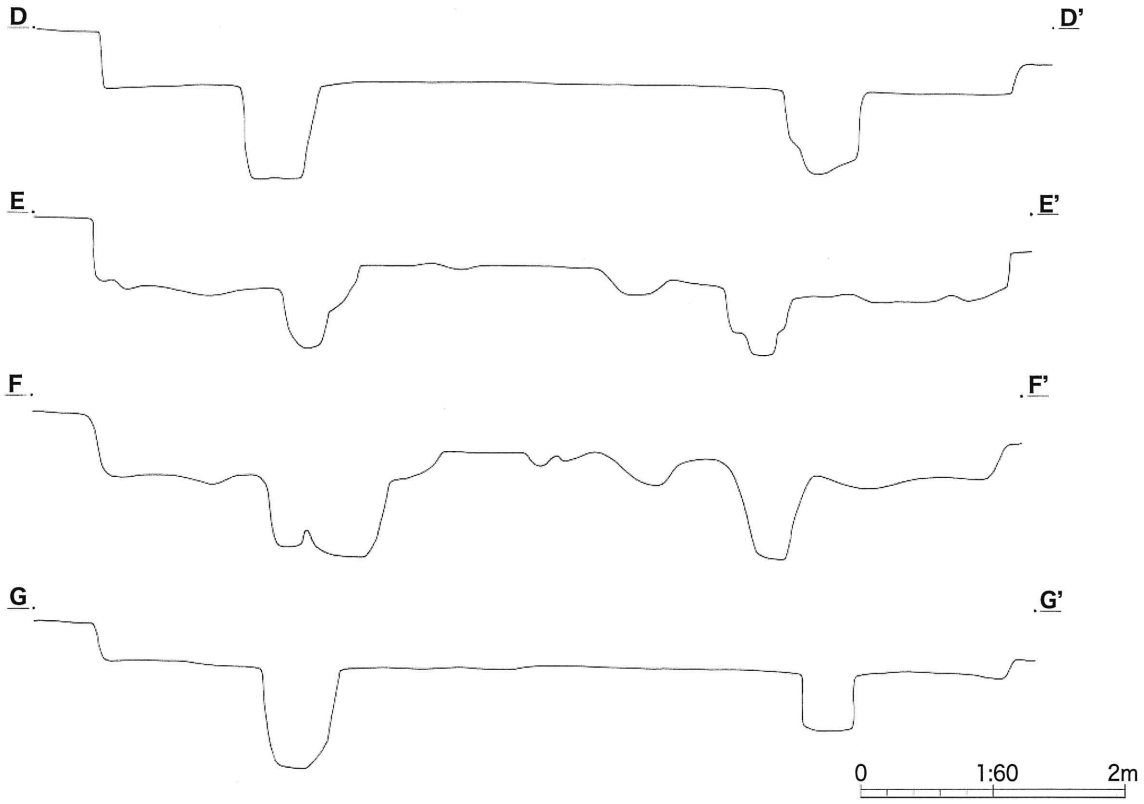
AA'～CC'

1	黒褐色土	(LR, SY, C少)
2	暗褐色土	(LR, C, SY少, 小LB微)
3	灰褐色土	(粘土多, LR, SY, C少)
4	灰褐色土	(粘土多, LR, SY, C)
5	灰褐色土	(LR, SY少, 粘土少, C極多)
6	暗褐色土	(LR微, C少)
7	暗褐色土	(LR少, C多)
8	褐色土	(LRやや多)
9	暗褐色土	(LR少, C, SY微)
10	明灰褐色土	(LR少, 粘土粒多, SY少, CR微)
11	灰褐色土	(LR少, 粘土粒やや多, SY少, CR微)
12	暗赤褐色土	(LR微, 粘土粒少, SY多, 小SYB少, CR少)
13	赤褐色土	(LR微, 粘土粒少, SY極多, 小SYBやや多, CR少)
14	明褐色土	(LRやや多, 粘土粒微, SY微)
15	にぶい黄褐色土	(LR極多, 小LB多, 粘土粒微, CR微)
16	暗褐色土	(LR少, 粘土粒微, SY微, CR微)
17	暗褐色土	(LR少, SY微)
18	黒褐色土	(含有物なし)
19	明褐色土	(LRやや多, SY少)
20	赤褐色土	(LR微, 粘土粒少, SY極多, 小SYB多)
21	暗赤褐色土	(LR微, 粘土粒少, SY多)
22	灰褐色土	(LR少, 粘土粒やや多, 小粘土ブロック少, SY微)

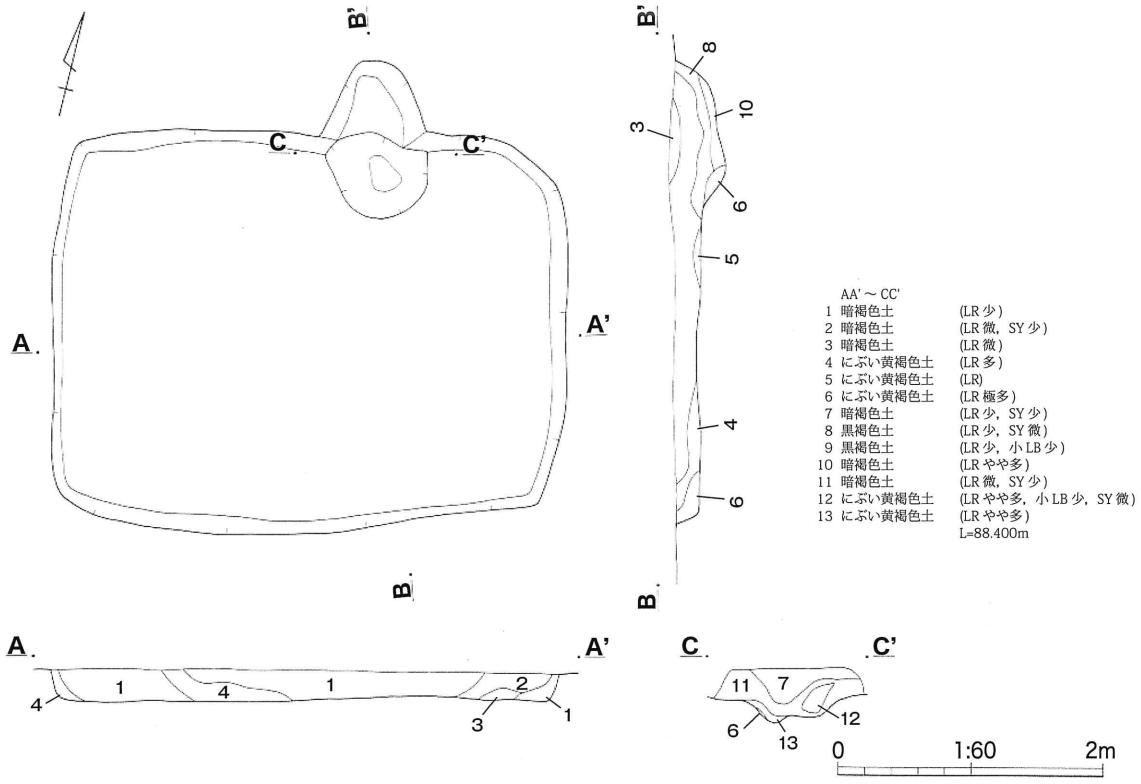
L=87.400m

DD'～GG'　L=87.400m

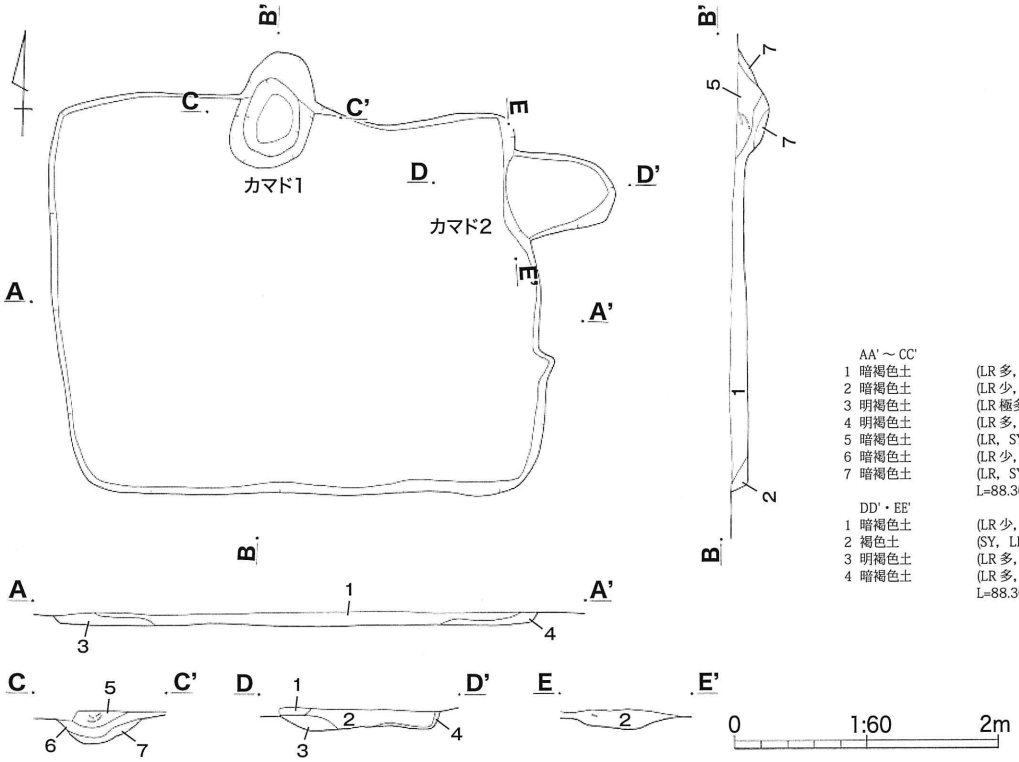
第36図　SI75（1）



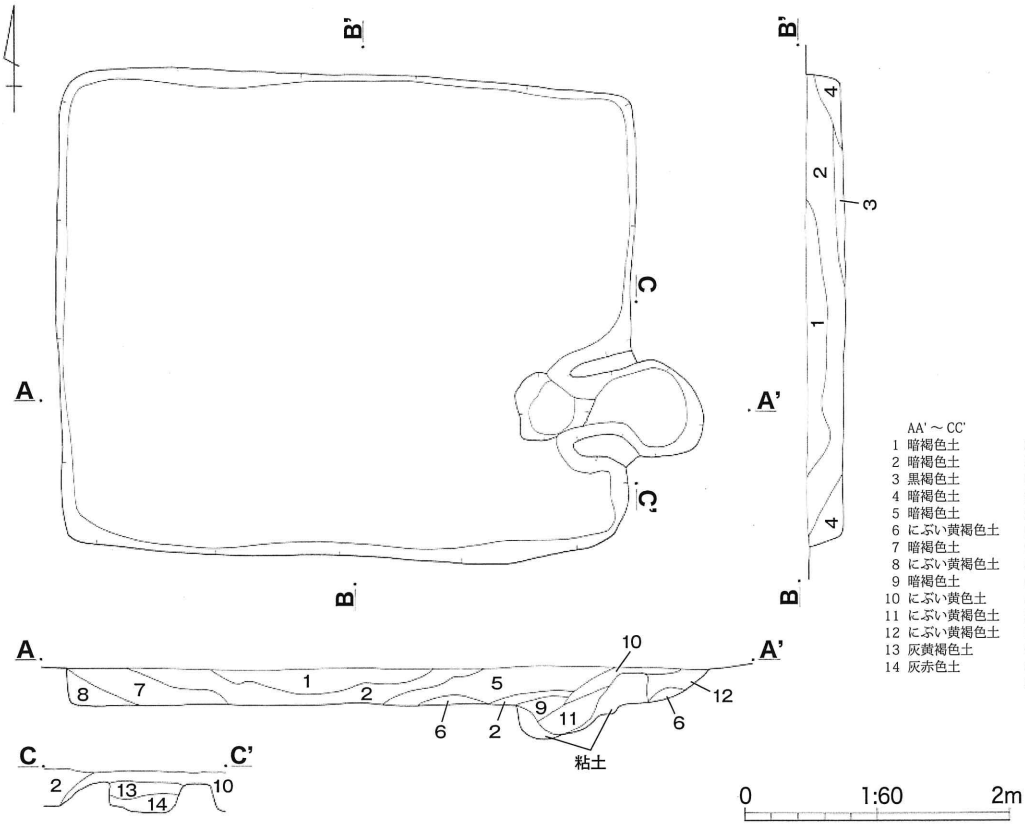
第37図　SI75（2）



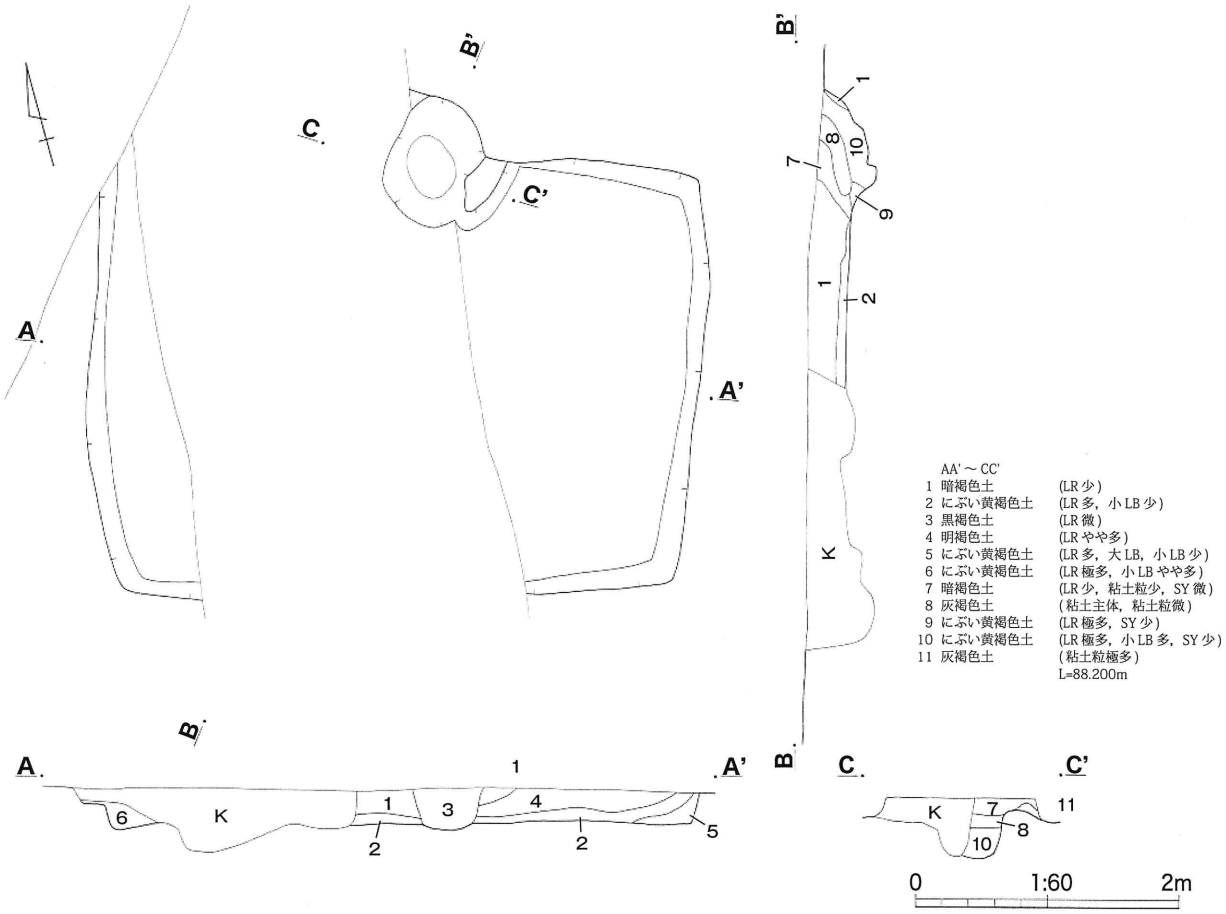
第38図　SI81



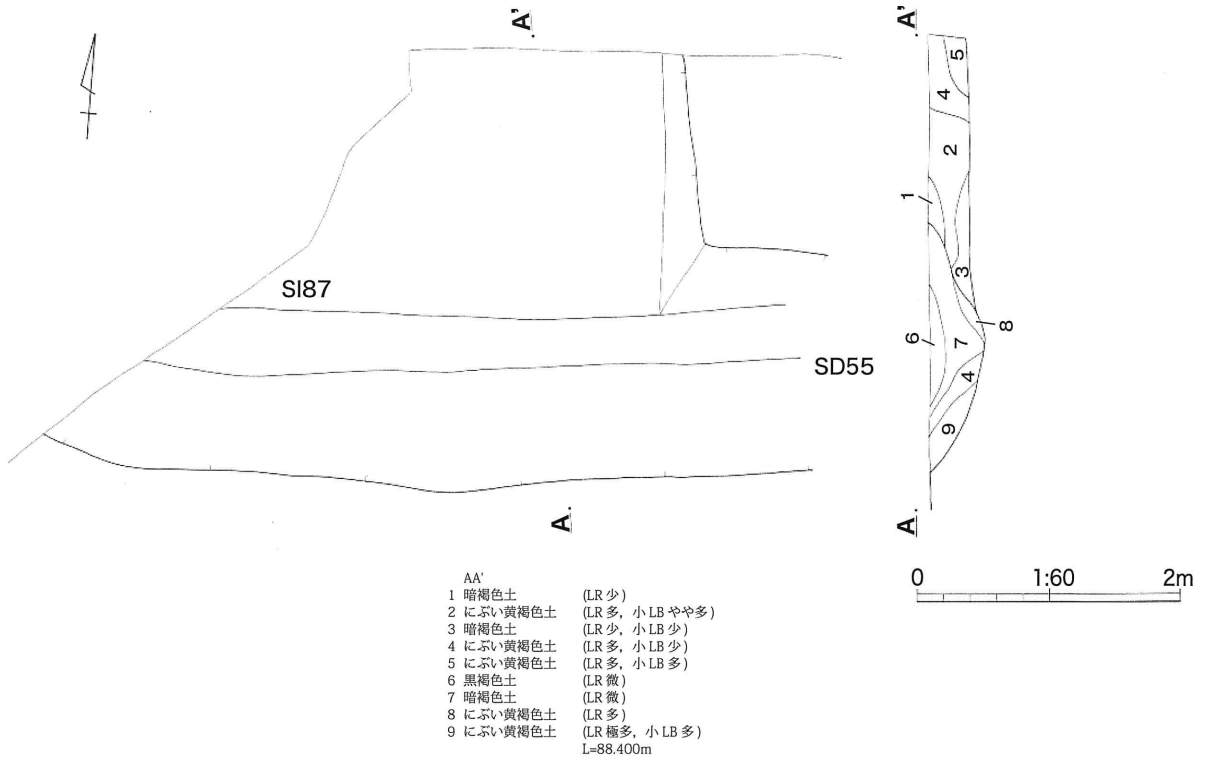
第39図　SI82



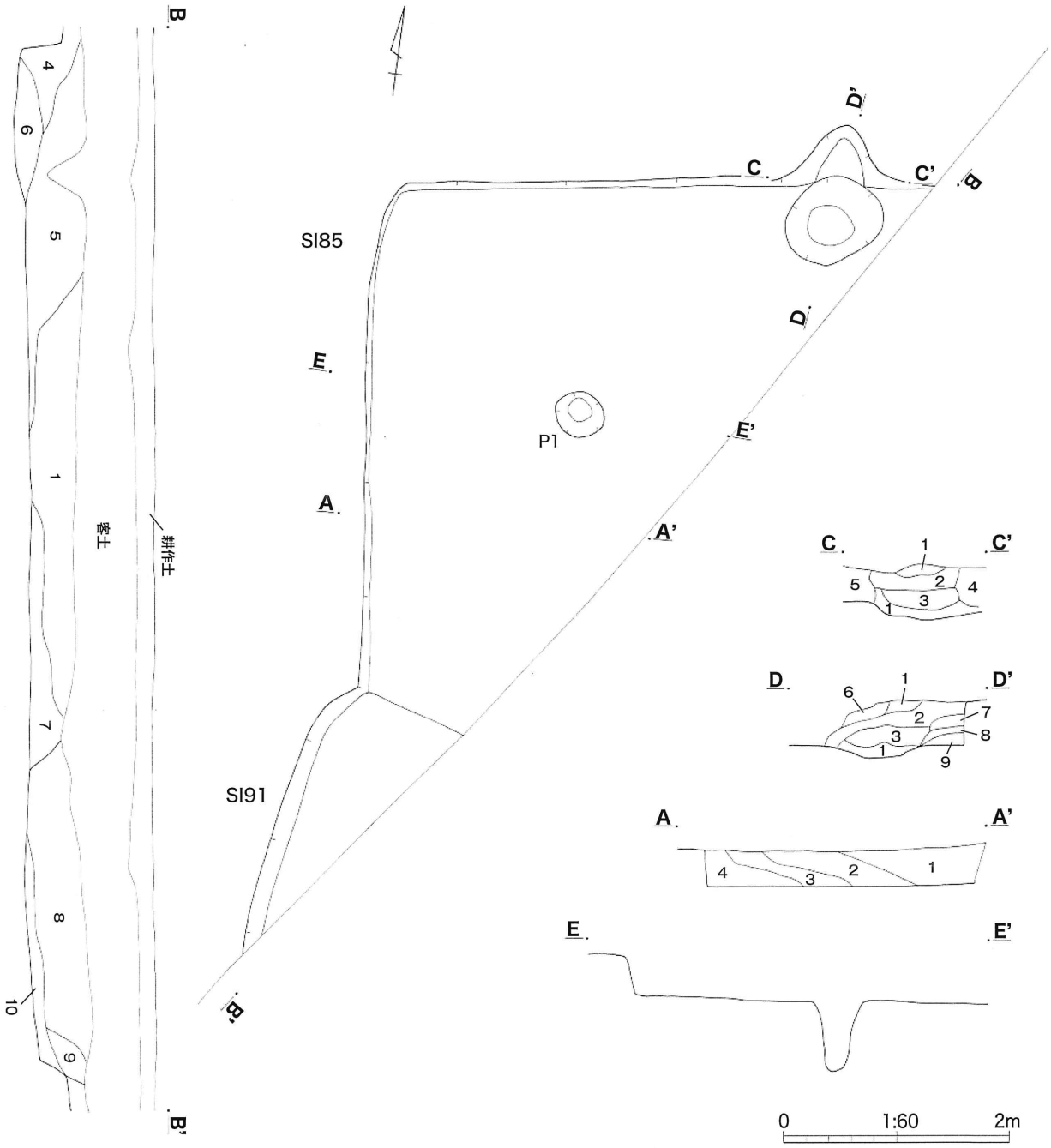
第40図　SI83



第41図　SI84



第42図　SI87・SD55



AA'・BB'

1	暗褐色土	(LR少，IP微)
2	褐色土	(LR，IP微)
3	褐色土	(LR多)
4	褐色土	(LR多，SP微，小LB)
5	明褐色土	(LR多，SY微，小LB，大LB)
6	にぶい黄褐色土	(ローム多，SY，小LB)
7	褐色土	(LR多，IP微，小LB)
8	暗褐色土	(LR少，IP微)
9	暗褐色土	(LR少，IP，SY，C微)
10	暗褐色土	(LR少，LB)

(AA') L=88.300m
(BB') L=89.000m

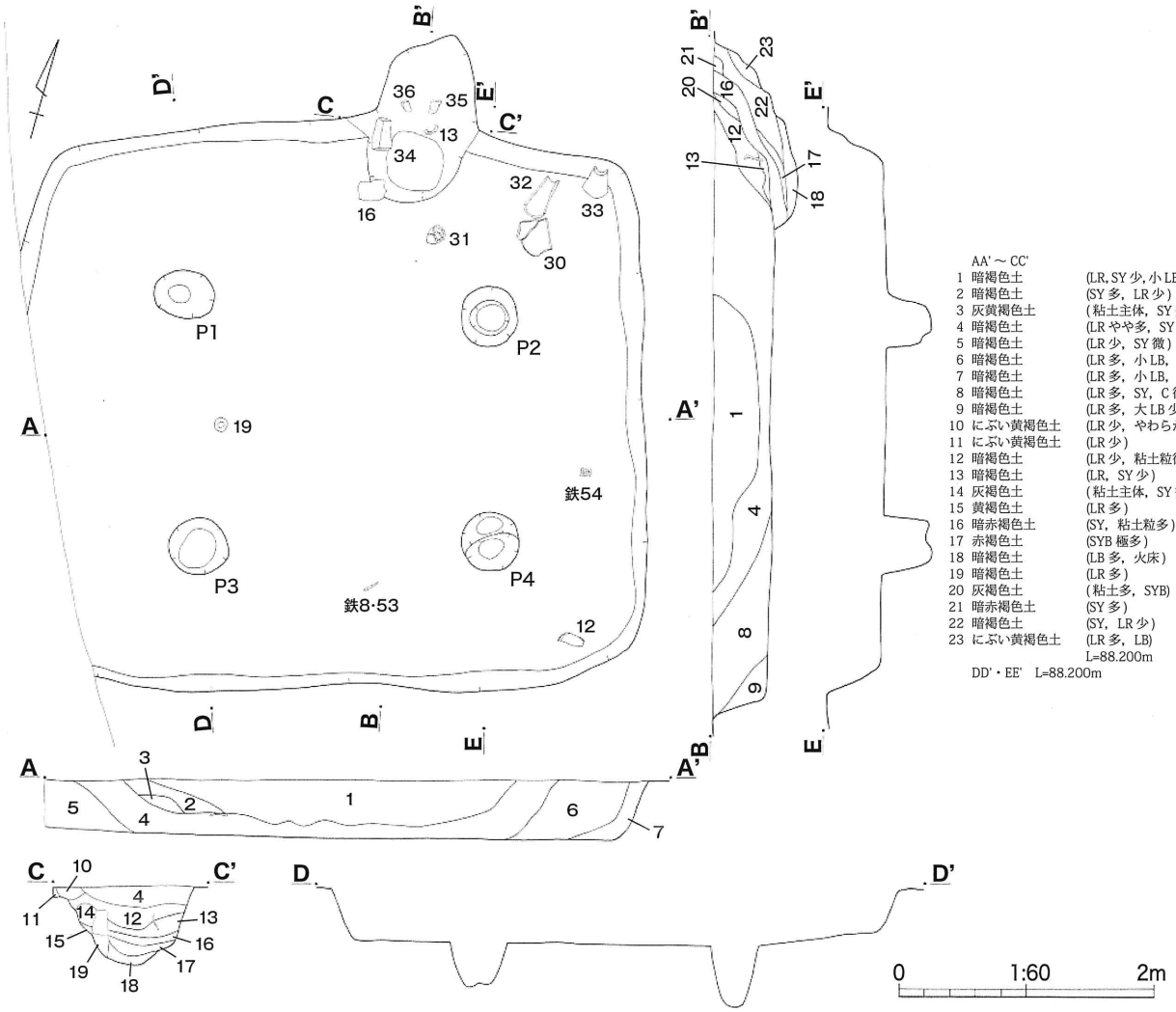
CC'・DD'

1	灰褐色土	(粘土主体)
2	灰赤色土	(粘土主体，SYやや多)
3	赤褐色土	(SY，SYB主体)
4	暗褐色土	(粘土粒やや多，SY微)
5	暗褐色土	(粘土粒少，SY微)
6	暗褐色土	(LR少，粘土粒微，SY微)
7	灰赤色土	(粘土主体，SY多)
8	灰赤色土	(粘土主体，SY極多)
9	灰黄褐色土	(粘土主体，LB少)

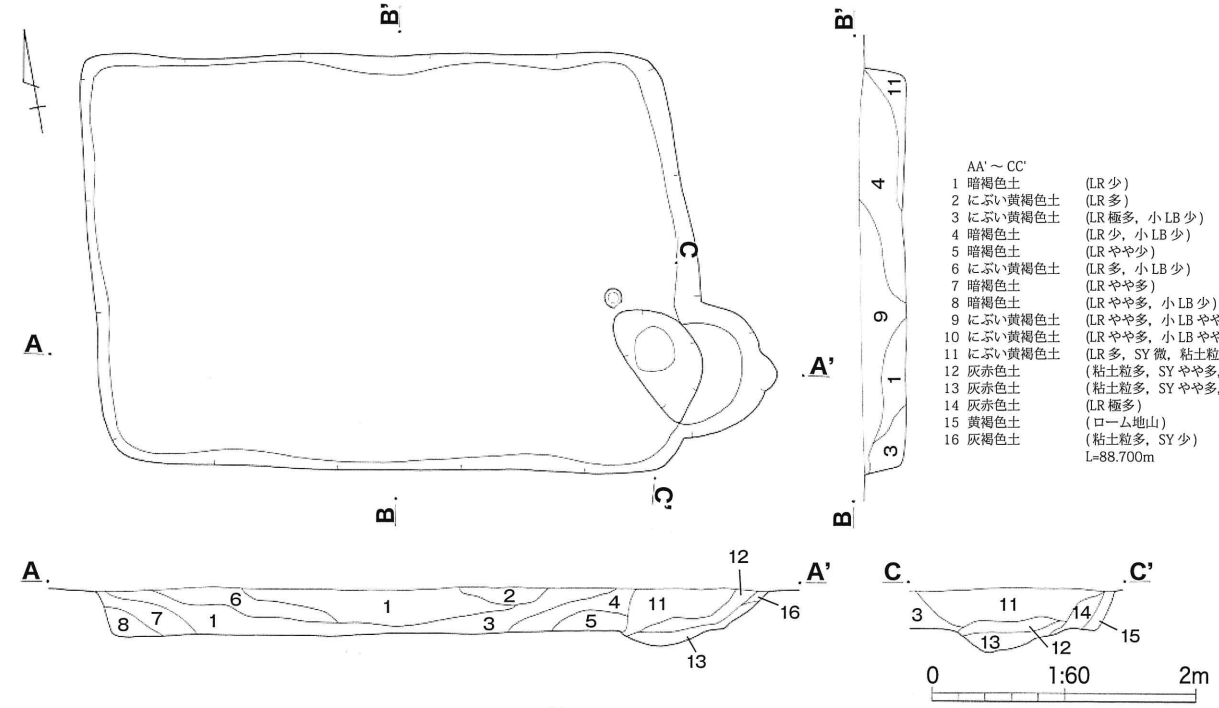
L=88.200

EE' L=88.300

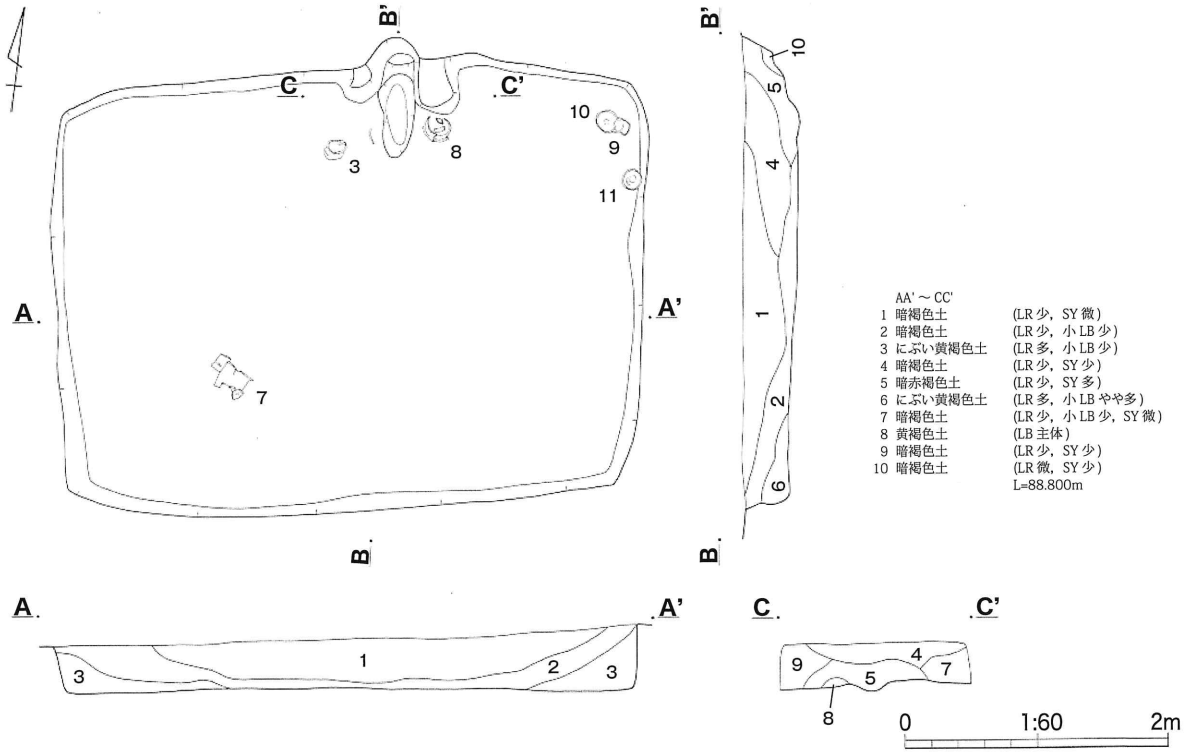
第43図　SI85・91



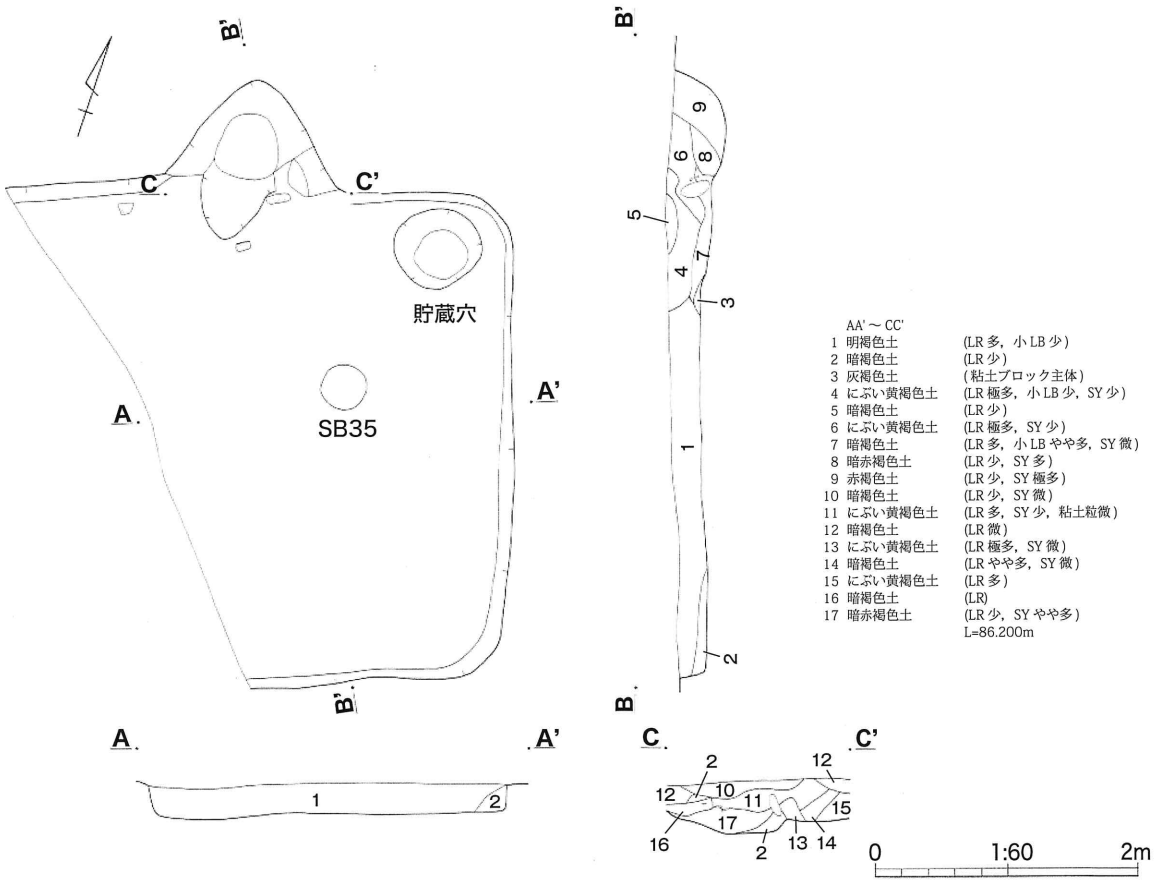
第44図 SI86



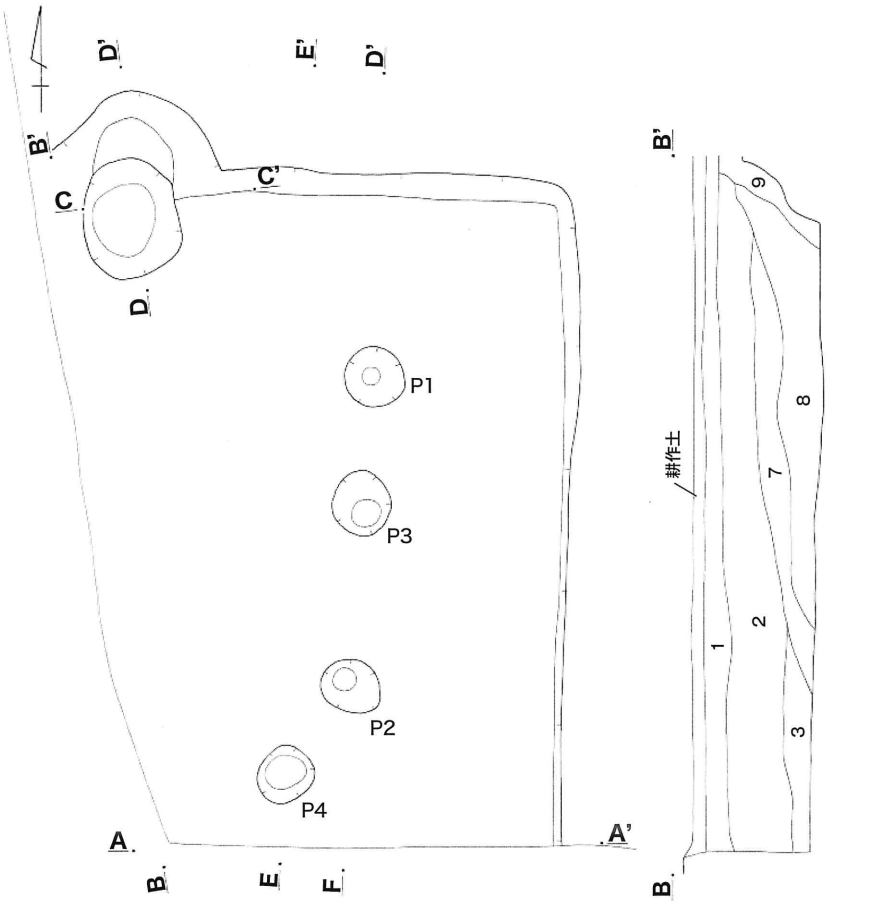
第45図 SI88

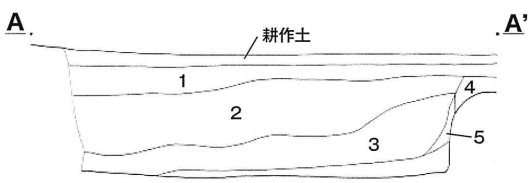


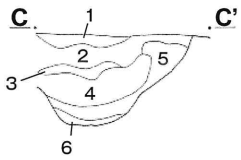
第46図　SI89

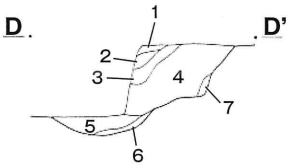


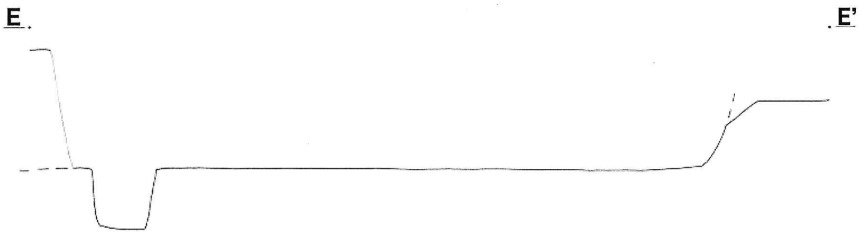
第47図　SI92・SB35

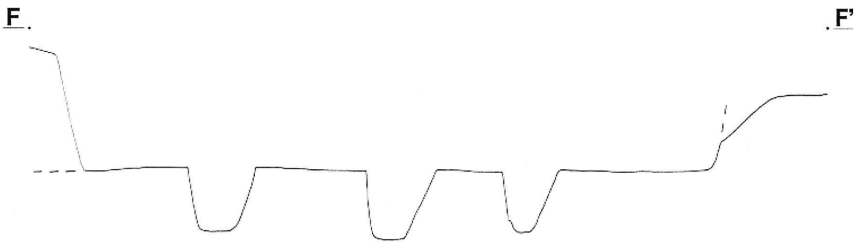












AA'・BB'

1	黒褐色土	(LR 微)
2	暗褐色土	(LR 少，SY 少)
3	明褐色土	(LR やや多，SY 少)
4	にぶい黄褐色土	(LR 多，小 LB 多)
5	にぶい黄褐色土	(LR 多)
6	にぶい黄褐色土	(LR 極多，小 LB 多)
7	にぶい黄色土	(LR 多，粘土粒多，SY 少)
8	灰赤色土	(LR 多，粘土粒多，SY 多)
9	暗赤褐色土	(粘土粒多，SY 極多)

L=89.000m

CC'・DD'

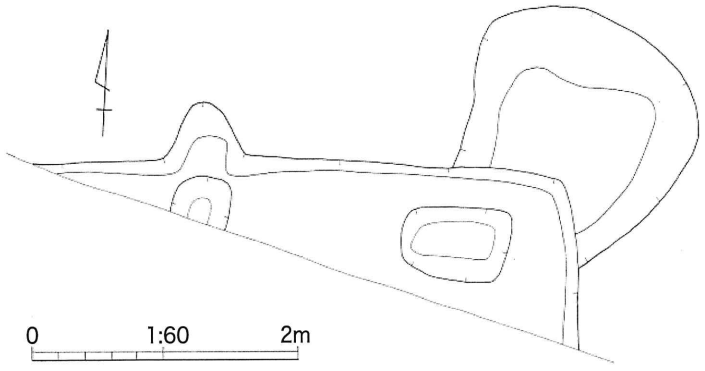
1	暗褐色土	(LR 微，SY 微)
2	灰褐色土	(LR 少，粘土粒やや多，SY 少)
3	灰黄褐色土	(LR 少，粘土粒多，SY やや多)
4	灰赤色土	(LR 少，粘土粒多，SY 極多)
5	灰褐色土	(LR 少，粘土粒極多，SY 少)
6	暗褐色土	(LR 少，粘土粒少，SY 微)
7	灰褐色土	(粘土)

L=89.000m

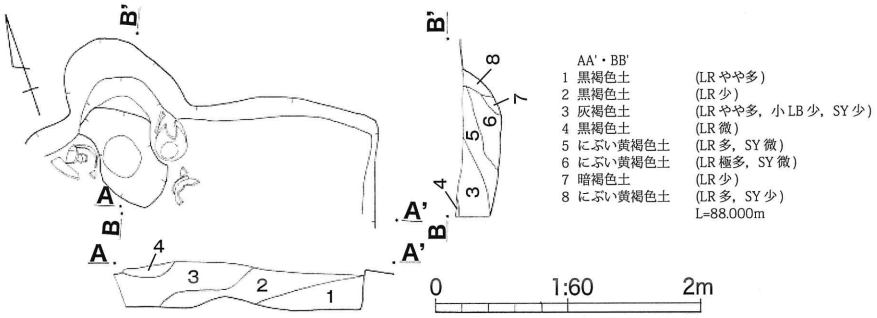
EE'・FF'　L=89.000m

0　1:60　2m

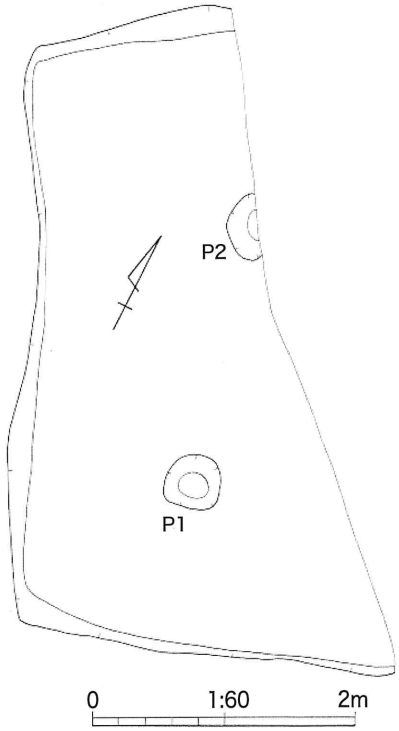
第48図　SI90



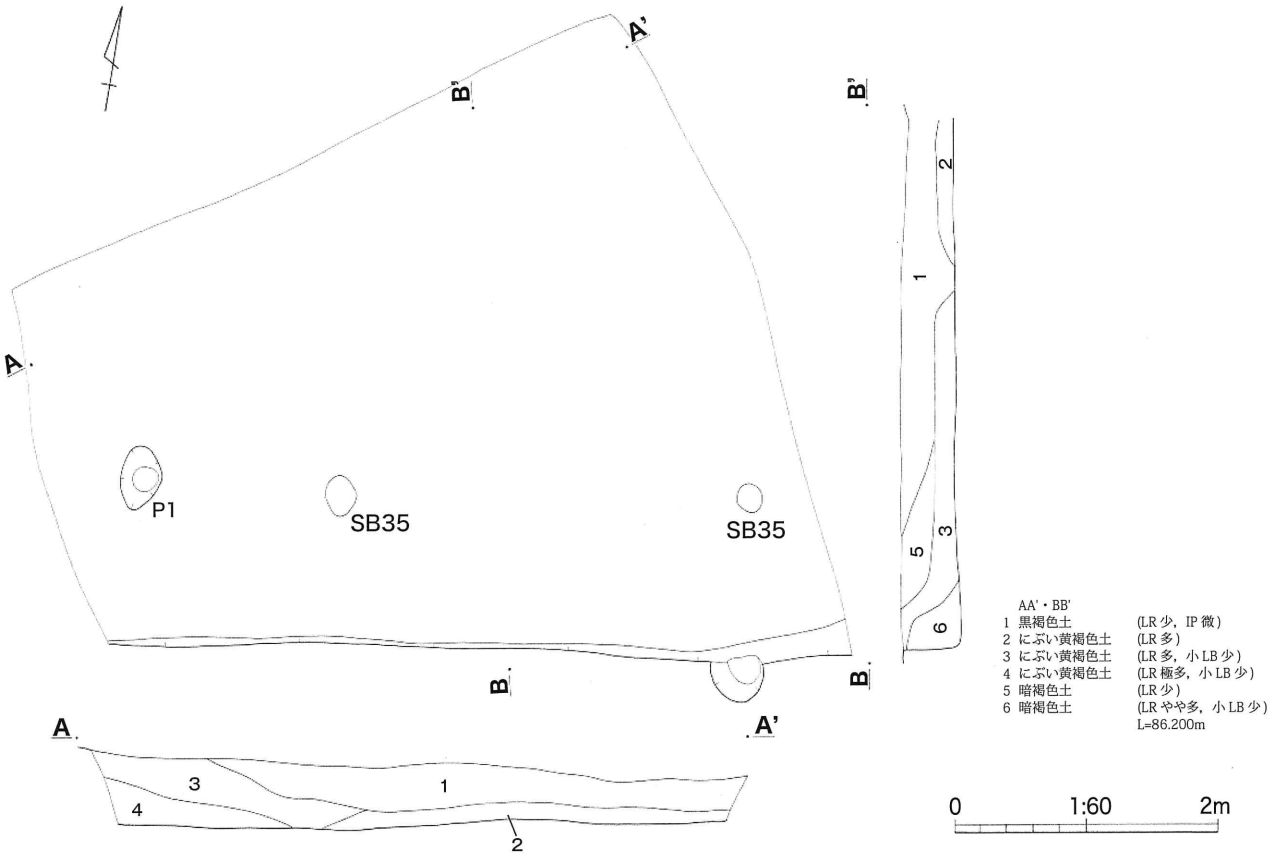
第49図　SI93



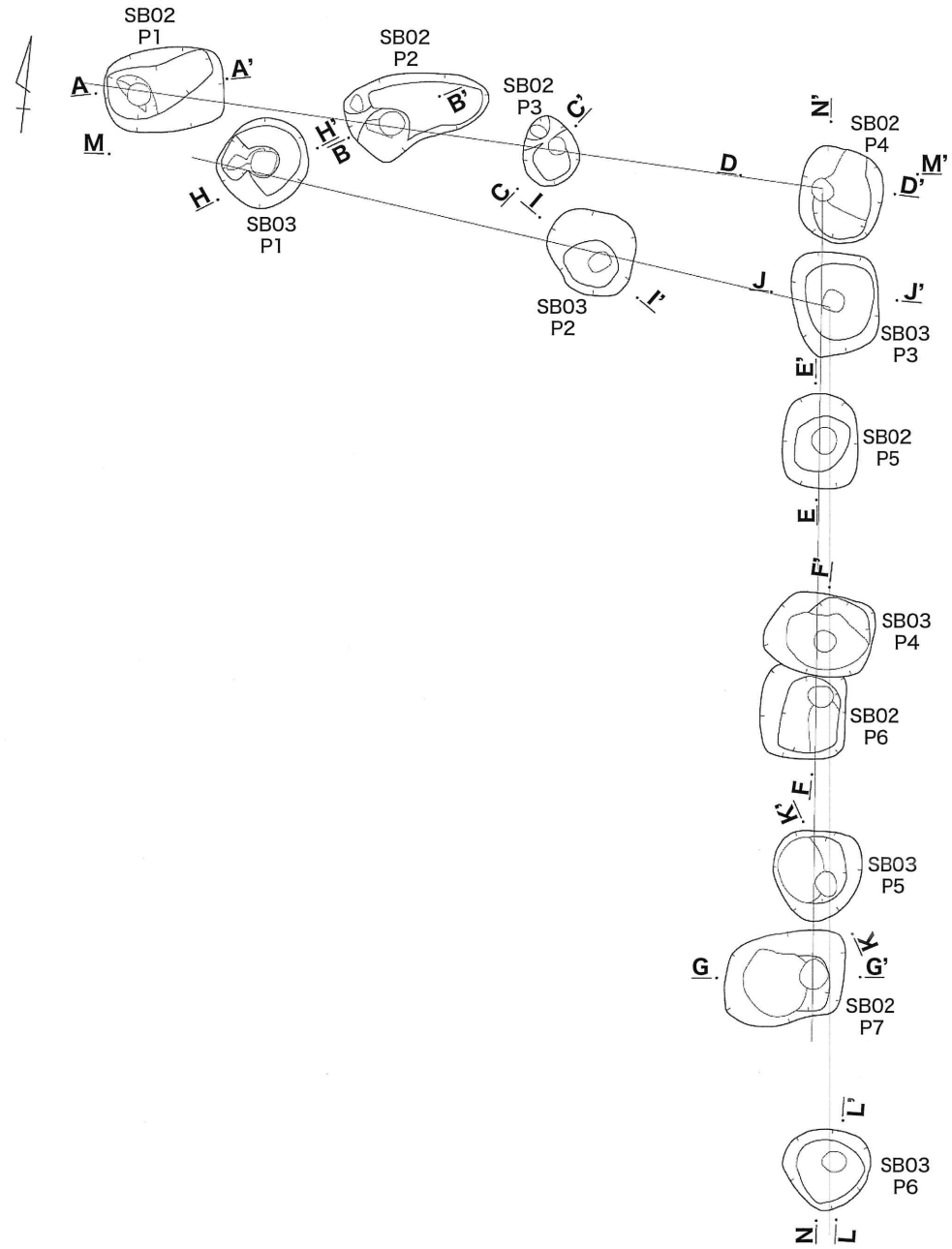
第50図　SI94



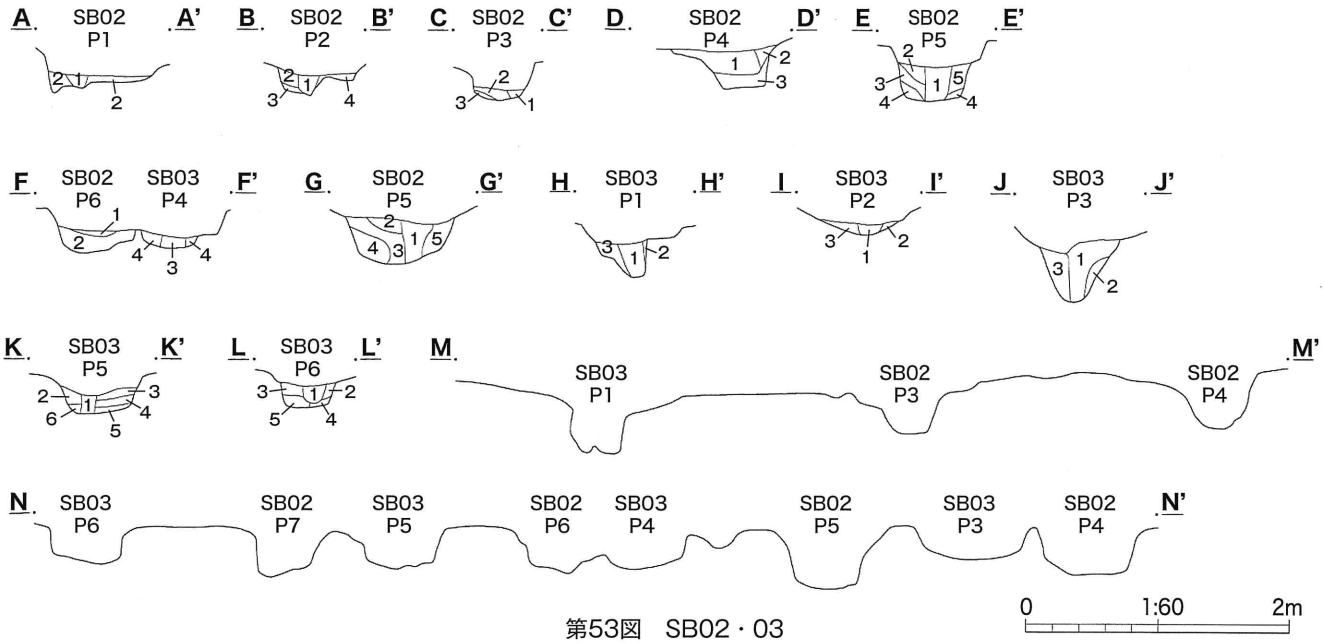
第51図　SI95



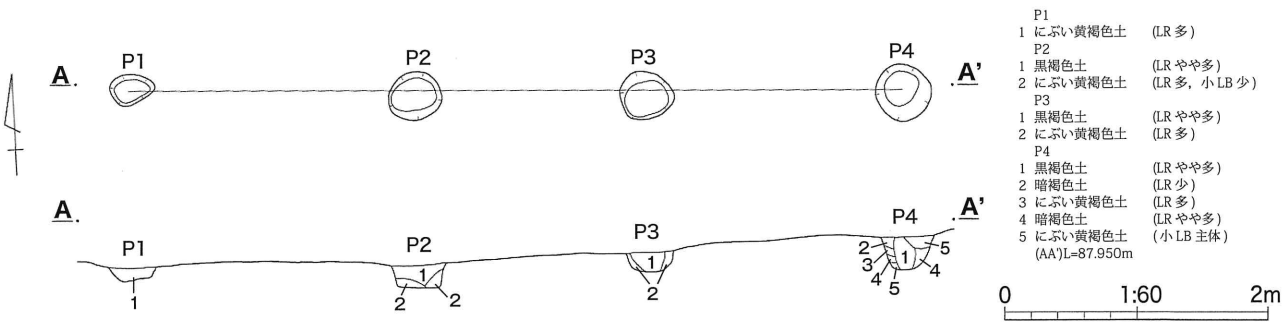
第52図　SI96・SB35



SB02 P1(AA')
1 にぶい黄褐色土 (LR 極多)
2 暗褐色土 (LR やや多)
SB02 P2(BB')
1 暗褐色土 (LR やや多)
2 黒褐色土 (LR 多)
3 黄褐色土 (大 LB 主体)
4 黄褐色土 (小 LB 主体)
SB02 P3(CC')
1 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
2 黒褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
SB02 P4(DD')
1 黒褐色土 (LR 少)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB やや多)
SB02 P5(EE')
1 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB やや多，大 LB 少)
2 黄褐色土 (小 LB 主体)
3 黒褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB やや多)
SB02 P6・SB03 P4(FF')
1 にぶい黄褐色土 (小 LB 多)
2 黄褐色土 (小 LB 主体)
3 黒褐色土 (LR 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多)
SB02 P7(GG')
1 黒褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
2 黒褐色土 (LR 微)
3 黒褐色土 (LR 少，小 LB 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多)
SB03 P1(HH')
1 にぶい黄褐色土 (LR 多)
2 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
3 黒褐色土 (LR 少)
SB03 P2(II')
1 暗褐色土 (LR 少)
2 黒褐色土 (LR 少，小 LB 少)
3 黒褐色土 (LR 少)
SB02 P3(JJ')
1 黒褐色土 (LR 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多)
3 黒褐色土 (LR やや多)
SB03 P5(KK')
1 黒褐色土 (LR 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
3 黒褐色土 (LR 微)
4 黒褐色土 (LR やや多，小 LB やや多)
5 黒褐色土 (LR 微)
6 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
SB03 P6(LL')
1 黒褐色土 (LR 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
3 黒褐色土 (LR やや多)
4 黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多)
(AA' ～ NN')L=87.600m

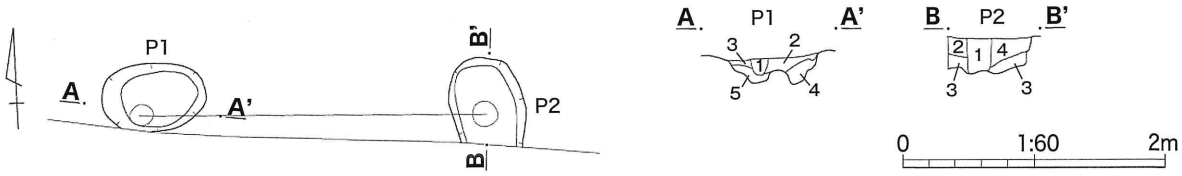


第53図　SB02・03



P1
1 にぶい黄褐色土 (LR 多)
P2
1 黒褐色土 (LR やや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
P3
1 黒褐色土 (LR やや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多)
P4
1 黒褐色土 (LR やや多)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
4 暗褐色土 (LR やや多)
5 にぶい黄褐色土 (小 LB 主体)
(AA')L=87.950m

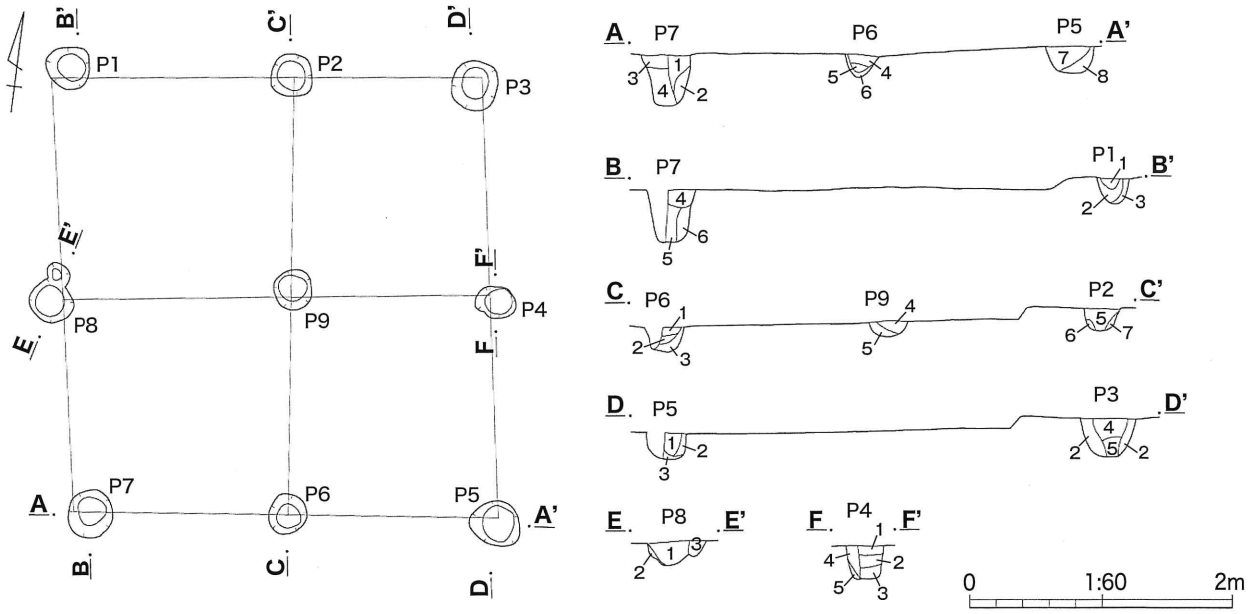
第54図　SB05



P1
1 黒色土 (LR 少)
2 黒褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
5 黄色土 (小 LB 主体)

P2
1 黒褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
2 黒褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB やや多)
4 黒褐色土 (LR 微)
(AA'・BB')L=87.800m

第55図　SB06

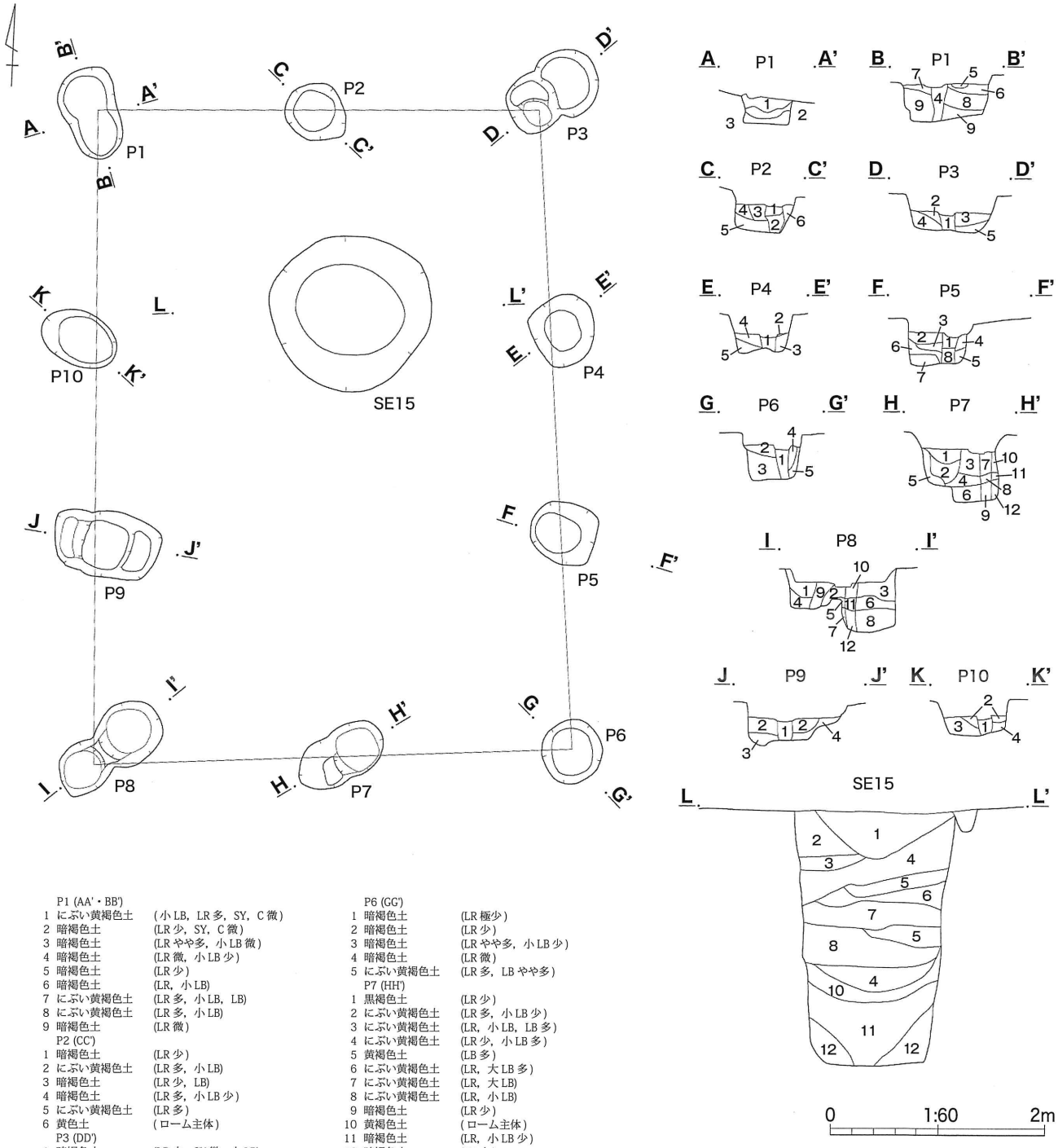


AA'
1 明褐色土 (LR やや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 少，小 LB 多)
3 明褐色土 (LR 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 多)
5 黄褐色土 (小 LB 主体)
6 黄褐色土 (LB 主体)
7 暗褐色土 (LR 微，小 LB 少)
8 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
BB'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
4 黒褐色土 (LR 微，大 LB 少)
5 黒褐色土 (LR 微，大 LB やや多)
6 黒褐色土 (LR やや多)

CC'
1 にぶい黄褐色土 (LR 少，小 LB やや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 微，小 LB 多)
3 黄褐色土 (大 LB 主体)
4 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 多)
5 暗褐色土 (LR 微，小 LB 少)
6 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 多)
7 暗褐色土 (LR 微，小 LB 少)
DD'
1 暗褐色土 (LR 微，小 LB 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
4 暗褐色土 (LR 少，大 LB)
5 にぶい黄褐色土 (LR やや多)

EE'
1 暗褐色土 (LR やや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多)
3 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 少)
FF'
1 暗褐色土 (LR 少)
2 黒褐色土 (LR 微)
3 黒褐色土 (LR 少)
4 暗褐色土 (LR やや多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多)
(AA'・BB'・EE')L=87.800m
(CC'・DD'・FF')L=87.900m

第56図　SB14



P1 (AA'・BB')
1 にぶい黄褐色土 (小LB，LR多，SY，C微)
2 暗褐色土 (LR少，SY，C微)
3 暗褐色土 (LRやや多，小LB微)
4 暗褐色土 (LR微，小LB少)
5 暗褐色土 (LR少)
6 暗褐色土 (LR，小LB)
7 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB，LB)
8 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB)
9 暗褐色土 (LR微)

P2 (CC')
1 暗褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB)
3 暗褐色土 (LR少，LB)
4 暗褐色土 (LR多，小LB少)
5 にぶい黄褐色土 (LR多)
6 黄色土 (ローム主体)

P3 (DD')
1 暗褐色土 (LR少，SY微，小LB)
2 暗褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LR，SY微)
4 にぶい黄褐色土 (LR多)
5 暗褐色土 (LR少)

P4 (EE')
1 暗褐色土 (LR微)
2 暗褐色土 (LR少，LB)
3 黄褐色土 (LB主体，LR)
4 暗褐色土 (LR少)
5 黄褐色土 (LR多)

P5 (FF')
1 暗褐色土 (LR少)
2 暗褐色土 (LR，小LB少，C，SY微)
3 暗褐色土 (LR少)
4 暗褐色土 (LR少，SY微)
5 暗褐色土 (LR，LB少)
6 にぶい黄褐色土 (LR，大LB多)
7 黄褐色土 (LR多，LB)
8 黄褐色土 (LR多)

P6 (GG')
1 暗褐色土 (LR極少)
2 暗褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
4 暗褐色土 (LR微)
5 にぶい黄褐色土 (LR多，LBやや多)

P7 (HH')
1 黒褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
3 にぶい黄褐色土 (LR，小LB，LB多)
4 にぶい黄褐色土 (LR少，小LB多)
5 黄褐色土 (LB多)
6 にぶい黄褐色土 (LR，大LB多)
7 にぶい黄褐色土 (LR，大LB)
8 にぶい黄褐色土 (LR，小LB)
9 暗褐色土 (LR少)
10 黄褐色土 (ローム主体)
11 暗褐色土 (LR，小LB少)
12 暗褐色土 (LR少)

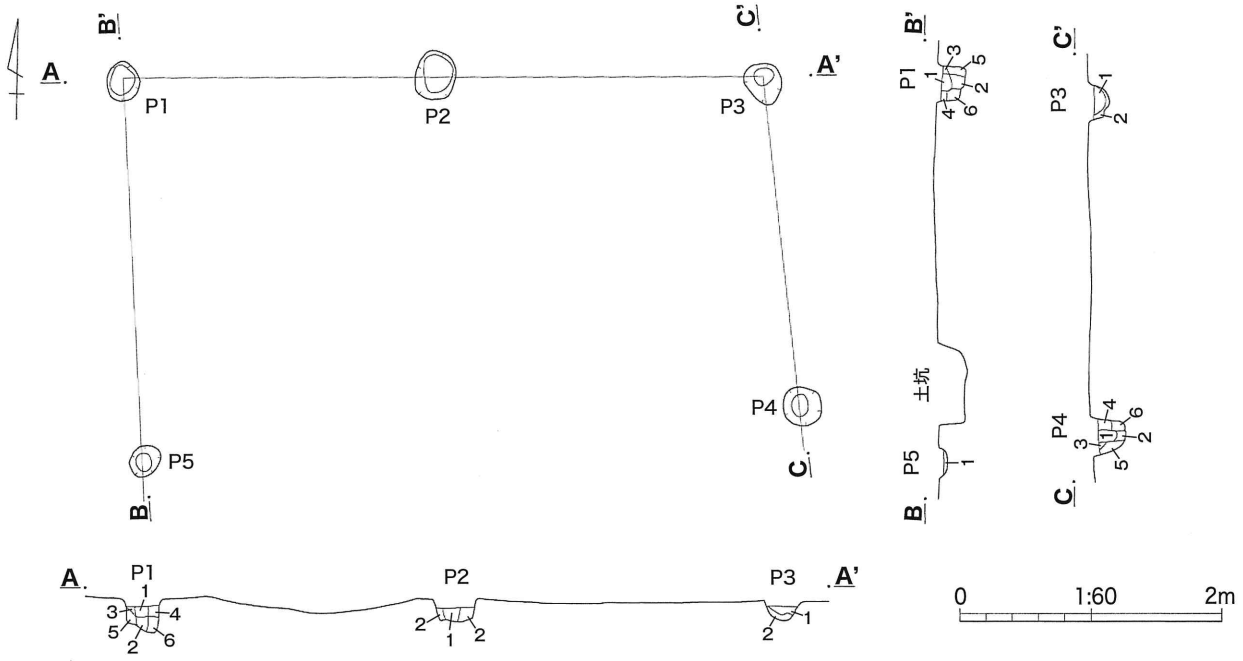
P8 (II')
1 暗褐色土 (LR，小LB少)
2 暗褐色土 (LR少)
3 黄褐色土 (LR少，小LB極多)
4 暗褐色土 (LR，極小LB少)
5 にぶい黄褐色土 (LRやや多)
6 にぶい黄褐色土 (LR，大LBやや多)
7 にぶい黄褐色土 (LRやや多)
8 にぶい黄褐色土 (LR，小LB多)

P9 (JJ')
1 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB)
2 暗褐色土 (LR少)
3 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LB)
4 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB)

P10 (KK')
1 暗褐色土 (LR少，LB)
2 暗褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LR少，小LB)
4 暗褐色土 (LR，小LB少)

SE15(LL')
1 浅黄橙色土 (KP極多，LRやや多)
2 浅黄橙色土 (KP極多，大LBやや多)
3 黒褐色土 (KP少，小LB少，LR少)
4 にぶい黄褐色土 (LR多,大LBやや多,KPやや多)
5 にぶい黄褐色土 (KP極多，LR多)
6 黒褐色土 (LR多，KP多，小LB少)
7 にぶい黄褐色土 (KP極多，LRやや多，小LB多)
8 にぶい黄褐色土 (KP極多，LRやや多，大LB少)
9 にぶい黄褐色土 (KP極多，LR多)
10 にぶい黄褐色土 (LRやや多，KP少，大LB少)
11 にぶい黄褐色土 (大LB主体)
12 にぶい黄褐色土 (LR多)
13 暗褐色土 (LR少)
(AA'～KK')L=88.500m
(LL')L=88.200m

第57図　SB18・SE15



P1
1 暗褐色土 (LR少)
2 明褐色土 (LRやや多)
3 にぶい黄褐色土 (小LB，LRやや多)
4 暗褐色土 (LR多，大LB，SY微)
5 にぶい黄褐色土 (小LB，LR多)
6 にぶい黄褐色土 (LR，小LB極多)

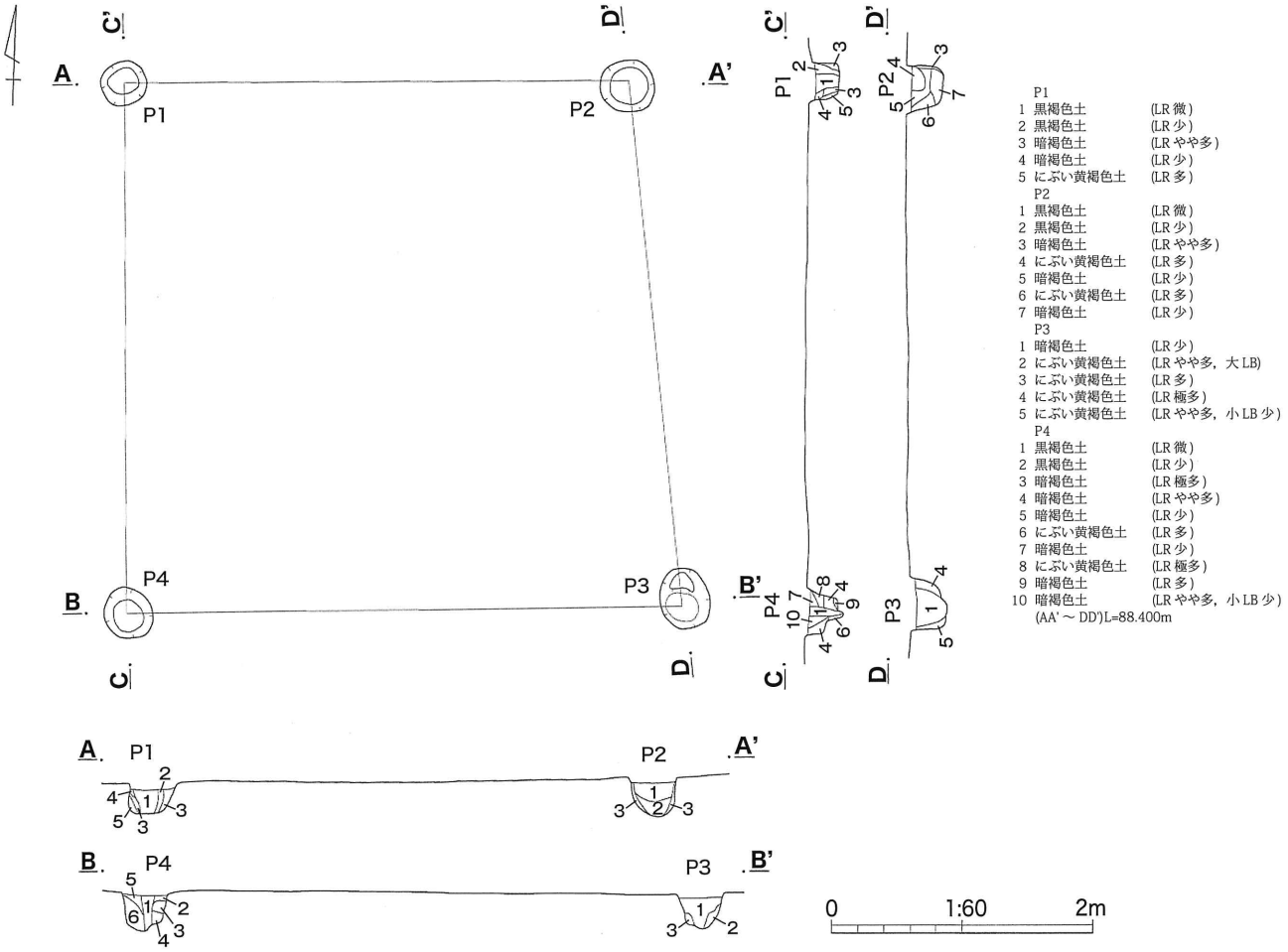
P2
1 暗褐色土 (LR少)
2 暗褐色土 (LRやや多)

P3
1 褐色土 (LR微)
2 黄褐色土 (小LB多，黒色土混じり)

P4
1 暗褐色土 (LR微)
2 にぶい黄褐色土 (大LB，LR多)
3 暗褐色土 (LR，SY微)
4 にぶい黄褐色土 (大LB，LR多)
5 黄褐色土 (小LB多)
6 黄褐色土 (LR多)

P5
1 褐色土 (LR，小LB少)
(AA'～CC')L=88.400m

第58図　SB19



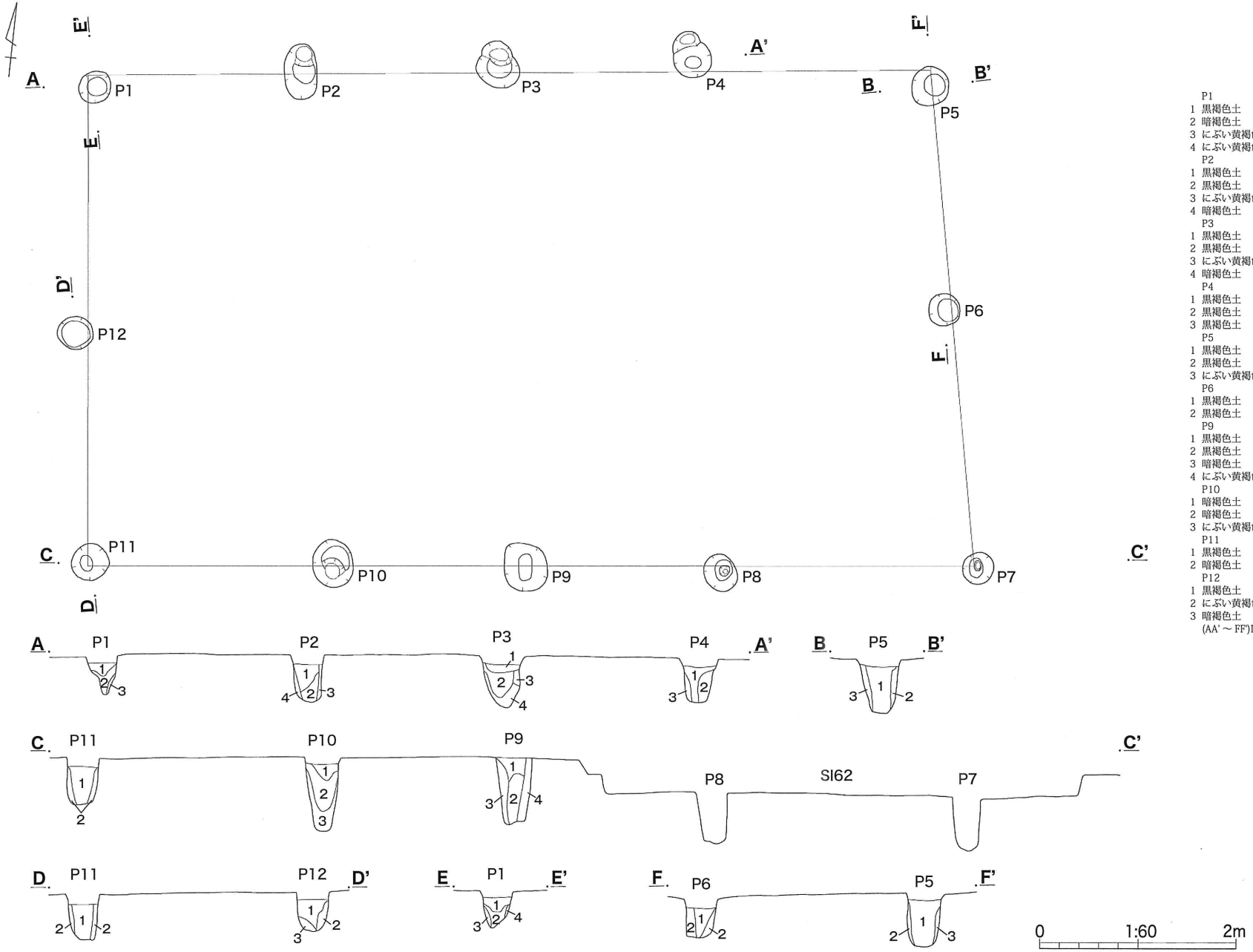
P1
1 黒褐色土 (LR微)
2 黒褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LRやや多)
4 暗褐色土 (LR少)
5 にぶい黄褐色土 (LR多)

P2
1 黒褐色土 (LR微)
2 黒褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LRやや多)
4 にぶい黄褐色土 (LR多)
5 暗褐色土 (LR少)
6 にぶい黄褐色土 (LR多)
7 暗褐色土 (LR少)

P3
1 暗褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LRやや多，大LB)
3 にぶい黄褐色土 (LR多)
4 にぶい黄褐色土 (LR極多)
5 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LB少)

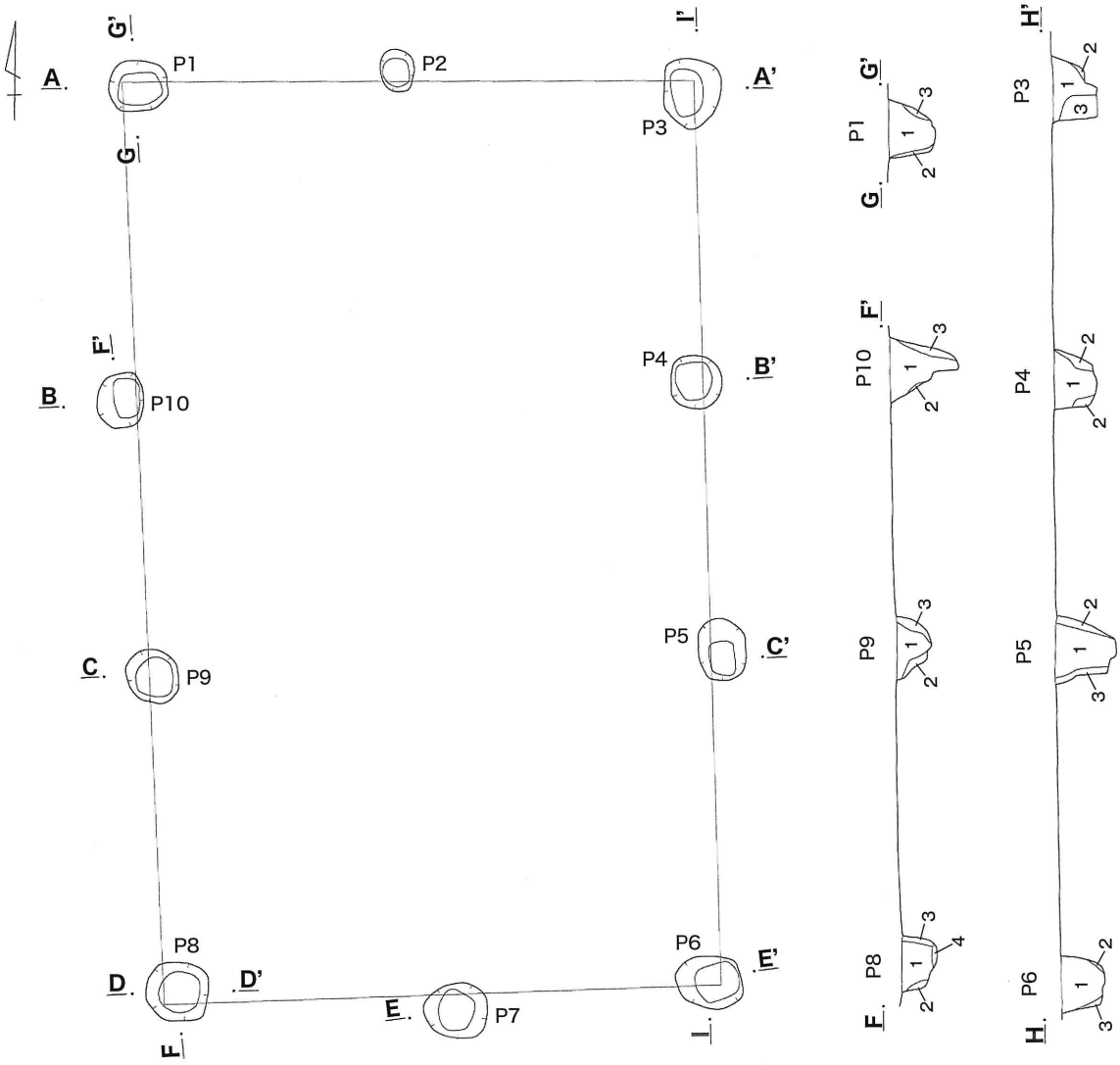
P4
1 黒褐色土 (LR微)
2 黒褐色土 (LR少)
3 暗褐色土 (LR極多)
4 暗褐色土 (LRやや多)
5 暗褐色土 (LR少)
6 にぶい黄褐色土 (LR多)
7 暗褐色土 (LR少)
8 にぶい黄褐色土 (LR極多)
9 暗褐色土 (LR多)
10 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
(AA'～DD')L=88.400m

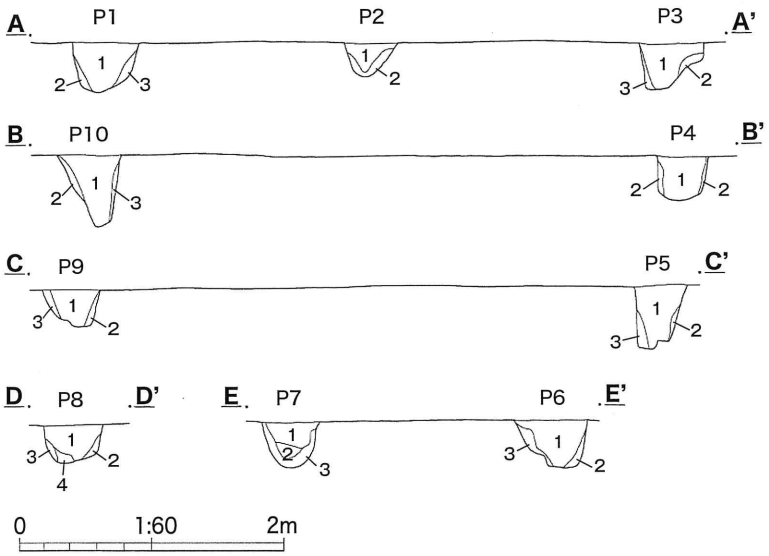
第59図　SB21



P1
1 黒褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
4 にぶい黄褐色土 (LR 極多)
P2
1 黒褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
4 暗褐色土 (LR やや多)
P3
1 黒褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
4 暗褐色土 (LR やや多)
P4
1 黒褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 少)
3 黒褐色土 (LR 微，小 LB 少)
P5
1 黒褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
P6
1 黒褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 少)
P9
1 黒褐色土 (LR 少)
2 黒褐色土 (LR 微)
3 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB やや多)
P10
1 暗褐色土 (LR やや多)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
P11
1 黒褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 少)
P12
1 黒褐色土 (LR 微)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB やや多)
3 暗褐色土 (LR やや多)
(AA' ～ FF')L=88.300m

第60図　SB20



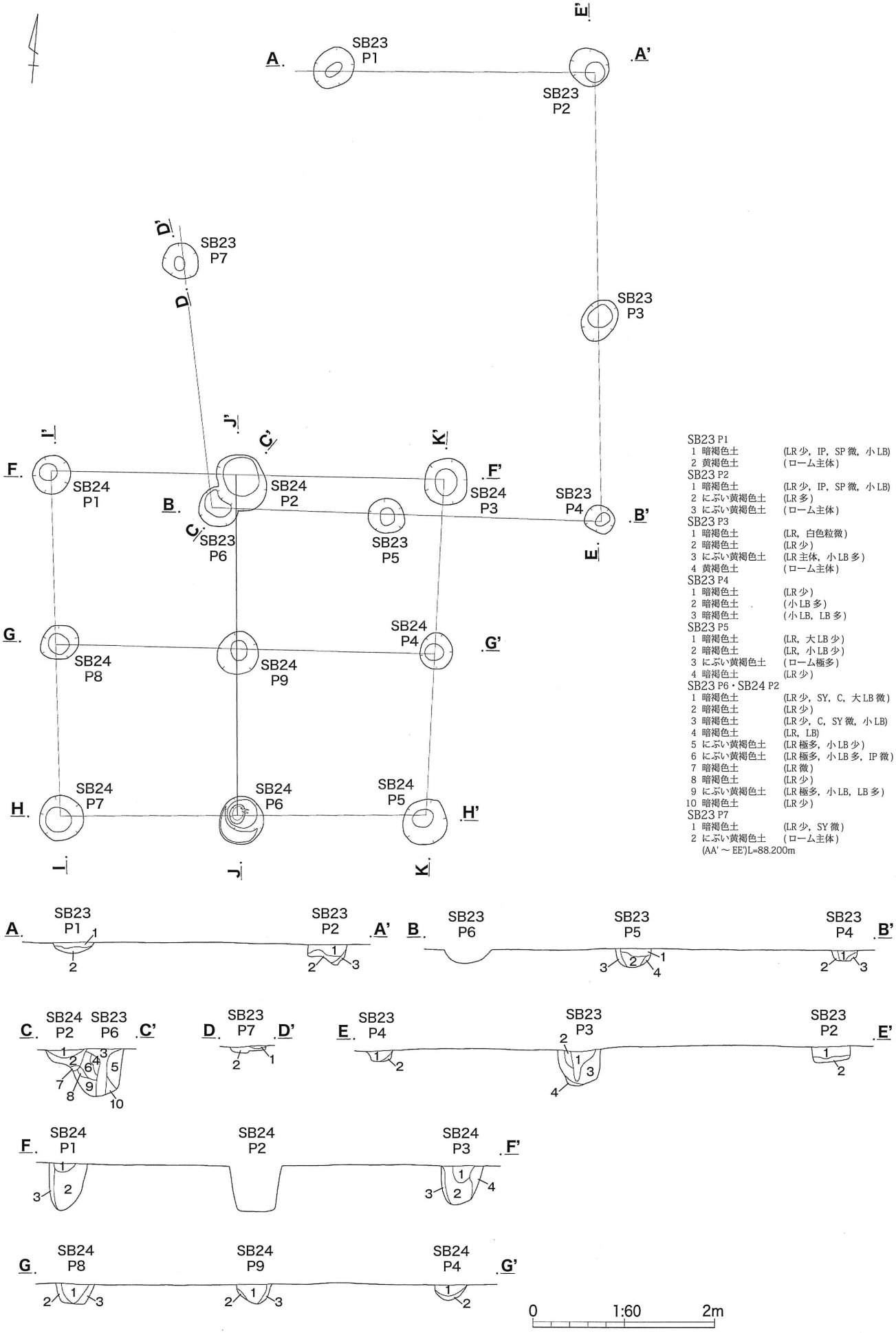


P1
1 暗褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LRやや多)
3 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LB少)
P2
1 暗褐色土 (LR微)
2 暗褐色土 (LR少，小LB少)
P3
1 暗褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LBやや多)
3 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LB少)
P4
1 明褐色土 (LRやや多，IP微)
2 暗褐色土 (LR少)
P5
1 明褐色土 (LRやや多，小LB少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB多)
P6
1 暗褐色土 (LR少)
2 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，小LBやや多)
P7
1 暗褐色土 (LR少)
2 明褐色土 (LRやや多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，小LBやや多)

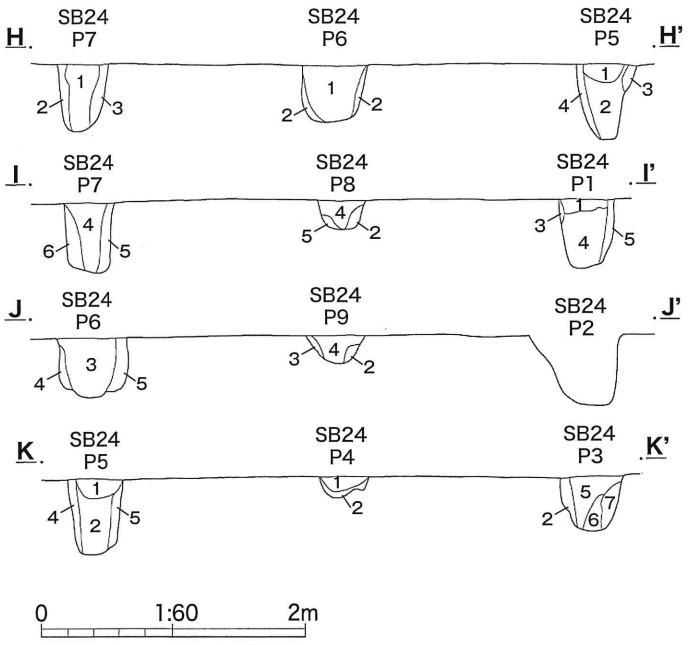
P8
1 明褐色土 (LRやや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
4 暗褐色土 (LR少)
P9
1 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)

P10
1 明褐色土 (LRやや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR多)
3 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LB多)
(AA'～HH')L=88.300m

第61図　SB22



第62図　SB23・24（1）



SB24 P1
1 暗褐色土 (LR少，SY，C微)
2 暗褐色土 (LR少，SY，C微，小LB)
3 暗褐色土 (LR少)
4 暗褐色土 (LR少，C微，大LB少)
5 暗褐色土 (LR少，小LB)

SB24 P3
1 暗褐色土 (LRやや多，C微)
2 にぶい黄褐色土 (LR極多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多)
4 にぶい黄褐色土 (LR極多，大LB少)
5 暗褐色土 (LR少，小LB)
6 暗褐色土 (LR少)
7 にぶい黄褐色土 (LR，小LB極多)

SB23 P4
1 暗褐色土 (LR少)
2 黄褐色土 (ローム主体)

SB24 P5
1 暗褐色土 (LR少，C微)
2 暗褐色土 (LR多，LB)
3 暗褐色土 (LR多，C微)
4 にぶい黄褐色土 (LR極多)
5 暗褐色土 (LR多)

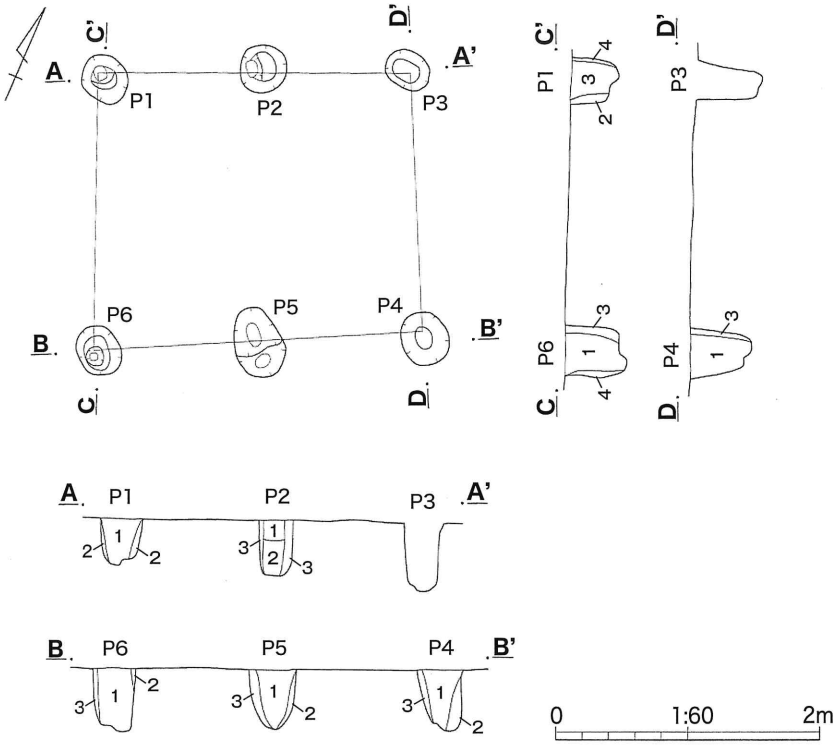
SB24 P6
1 暗褐色土 (LR少，C微)
2 暗褐色土 (LR少，小LB)
3 暗褐色土 (LR少，大LB微)
4 暗褐色土 (LR)
5 暗褐色土 (LR微)

SB24 P7
1 暗褐色土 (LR少，SY，C微)
2 暗褐色土 (LR少，小LB，C)
3 にぶい黄褐色土 (LR，小LB多，C微)
4 暗褐色土 (LR少，C微)
5 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
6 にぶい黄褐色土 (LR多)

SB24 P8
1 暗褐色土 (LR多)
2 にぶい黄褐色土 (ローム極多)
3 にぶい黄褐色土 (ローム多，小LB多)
4 暗褐色土 (LR多，SY微)
5 暗褐色土 (LR多，小LB)

SB24 P9
1 暗褐色土 (LR少，SY微)
2 暗褐色土 (LRやや多)
3 暗褐色土 (LR極多)
4 暗褐色土 (LR少，大LB)
(FF'' ～ KK')L=88.200m

第63図　SB23・24（2）



P1
1 暗褐色土 (LRやや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR多)
3 暗褐色土 (LRやや多)
4 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)

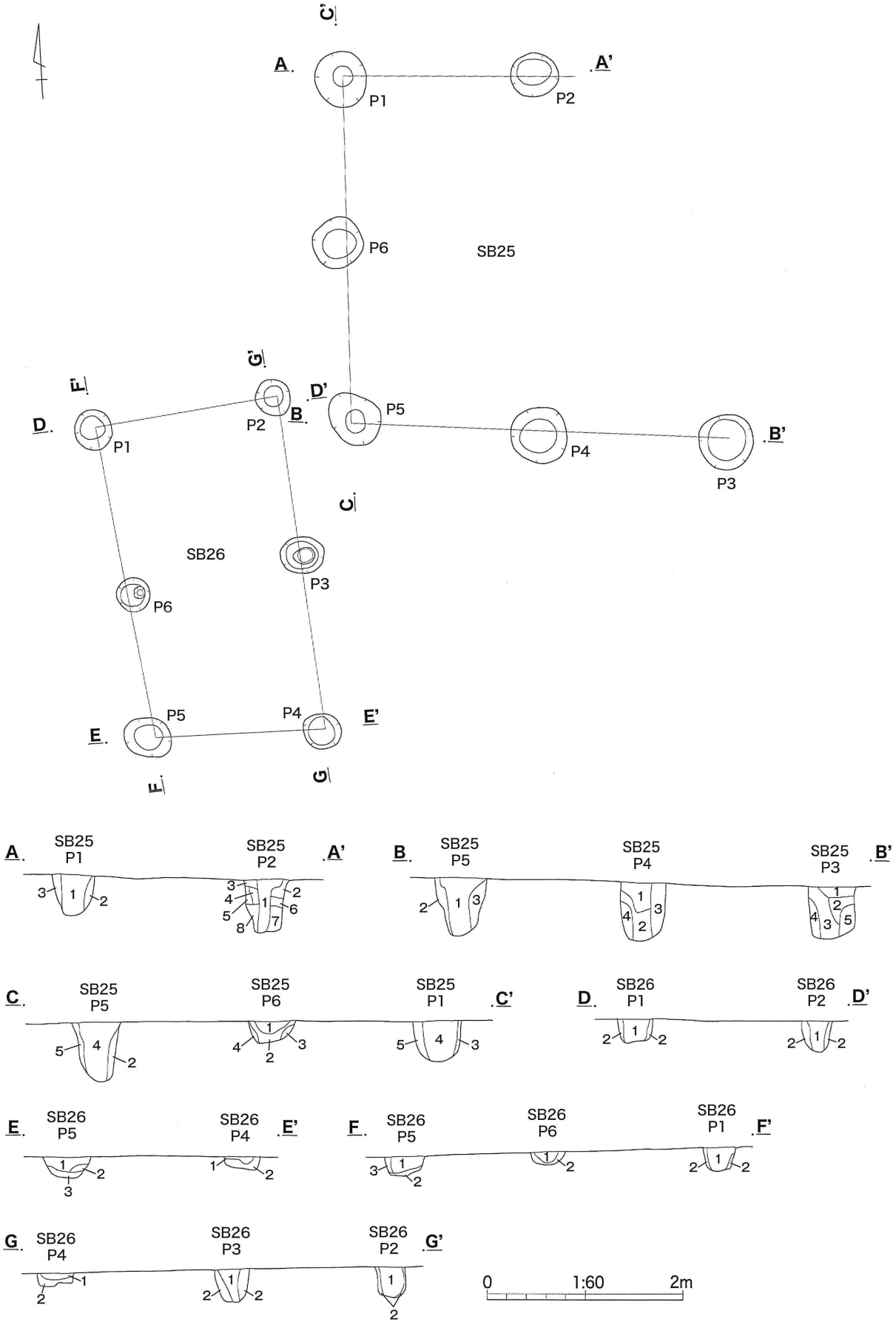
P2
1 明褐色土 (LRやや多)
2 暗褐色土 (LR少)
3 にぶい黄褐色土 (LR多)

P4
1 明褐色土 (LRやや多)
2 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多)

P5
1 明褐色土 (LRやや多)
2 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多)

P6
1 暗褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB少)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB多)
4 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
(AA' ～ DD')L=88.200m

第64図　SB27



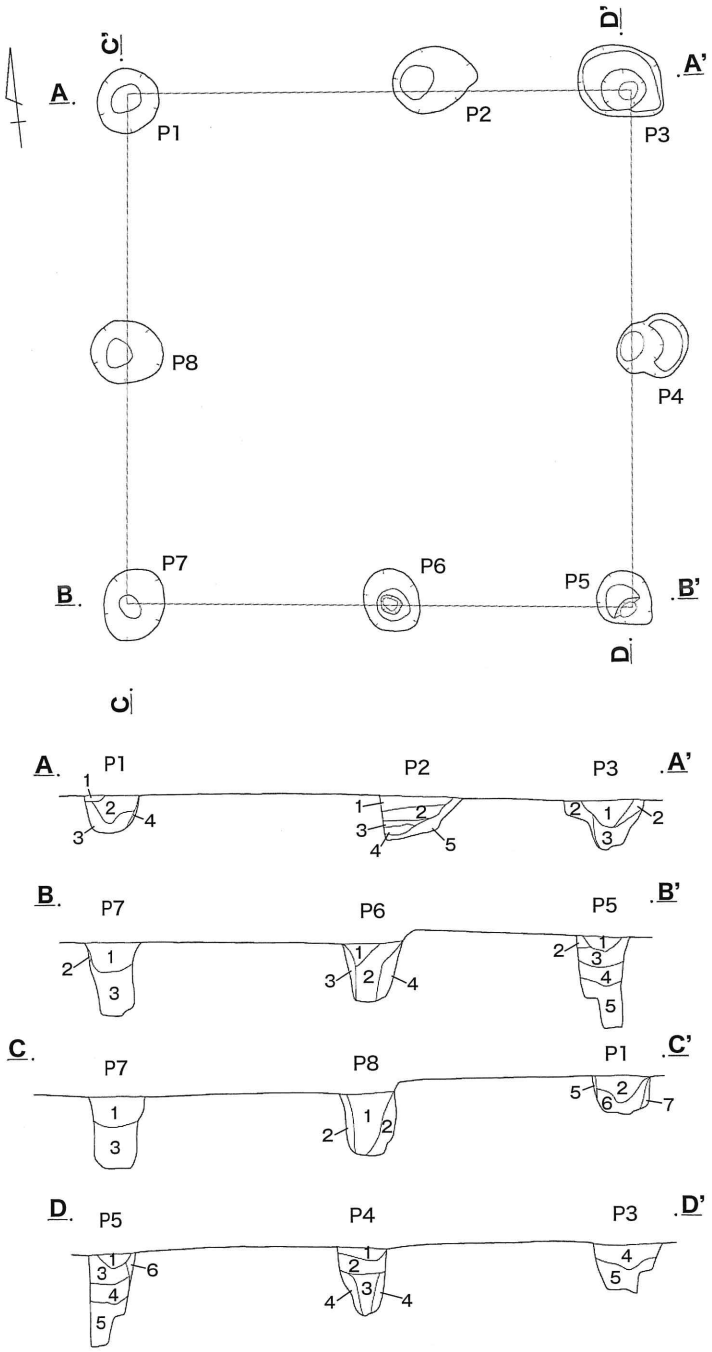
第65図　SB25・26（1）

SB25 P1
1 暗褐色土　(LR 多，小 LB)
2 褐色土　(LR 多，大 LB 少)
3 褐色土　(LR 多)
4 暗褐色土　(LR 多，小 LB 少)
5 褐色土　(LR 多，大 LB 微)
SB25 P2
1 暗褐色土　(LR，小 LB 少，C 微)
2 明褐色土　(LR 多，大 LB，LB 少)
3 暗褐色土　(LR 少)
4 暗褐色土　(LR，小 LB)
5 にぶい黄褐色土　(LR 極多，小 LB 少，C 微)
6 にぶい黄褐色土　(LR 極多，小 LB，LB 多)
7 にぶい黄褐色土　(LR 極多，LB)
8 にぶい黄褐色土　(LR，小 LB 極多)
SB25 P3
1 暗褐色土　(LR 多，C 微)
2 暗褐色土　(LR 極多，C 少)
3 暗褐色土　(LR 多，C 多)
4 にぶい黄褐色土　(LR，小 LB 多)
5 にぶい黄褐色土　(LR，LB 多)

SB25 P4
1 暗褐色土　(LR 少，C，SY 微)
2 暗褐色土　(LR 多，C，小 LB 少)
3 にぶい黄褐色土　(ローム極多，LB 多)
4 にぶい黄褐色土　(LR，大 LB 極多)
SB25 P5
1 暗褐色土　(LR 多，C 微，小 LB 少)
2 暗褐色土　(LR 多，C 微)
3 にぶい黄褐色土　(LR 極多，C 微，LB)
4 暗褐色土　(LR 多，C 少，SY 微，大 LB)
5 にぶい黄褐色土　(LR 極多，小 LB 多，C 微)
SB25 P6
1 暗褐色土　(LR 少，IP 微)
2 暗褐色土　(LR，小 LB 多，IP 微)
3 にぶい黄褐色土　(LR 極多)
4 にぶい黄褐色土　(ローム主体)
(AA' ～ CC')L=88.200m

SB26 P1
1 明褐色土　(LR やや多)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
SB26 P2
1 暗褐色土　(LR 少)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
SB26 P3
1 暗褐色土　(LR 少，小 LB 少)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
SB26 P4
1 明褐色土　(LR 少)
2 黄褐色土　(LB 主体)
SB26 P5
1 暗褐色土　(LR 少)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 多)
3 暗褐色土　(LR やや多)
SB26 P6
1 明褐色土　(LR やや多)
2 にぶい黄褐色土　(LR 極多)
(DD' ～ GG')L=88.200m

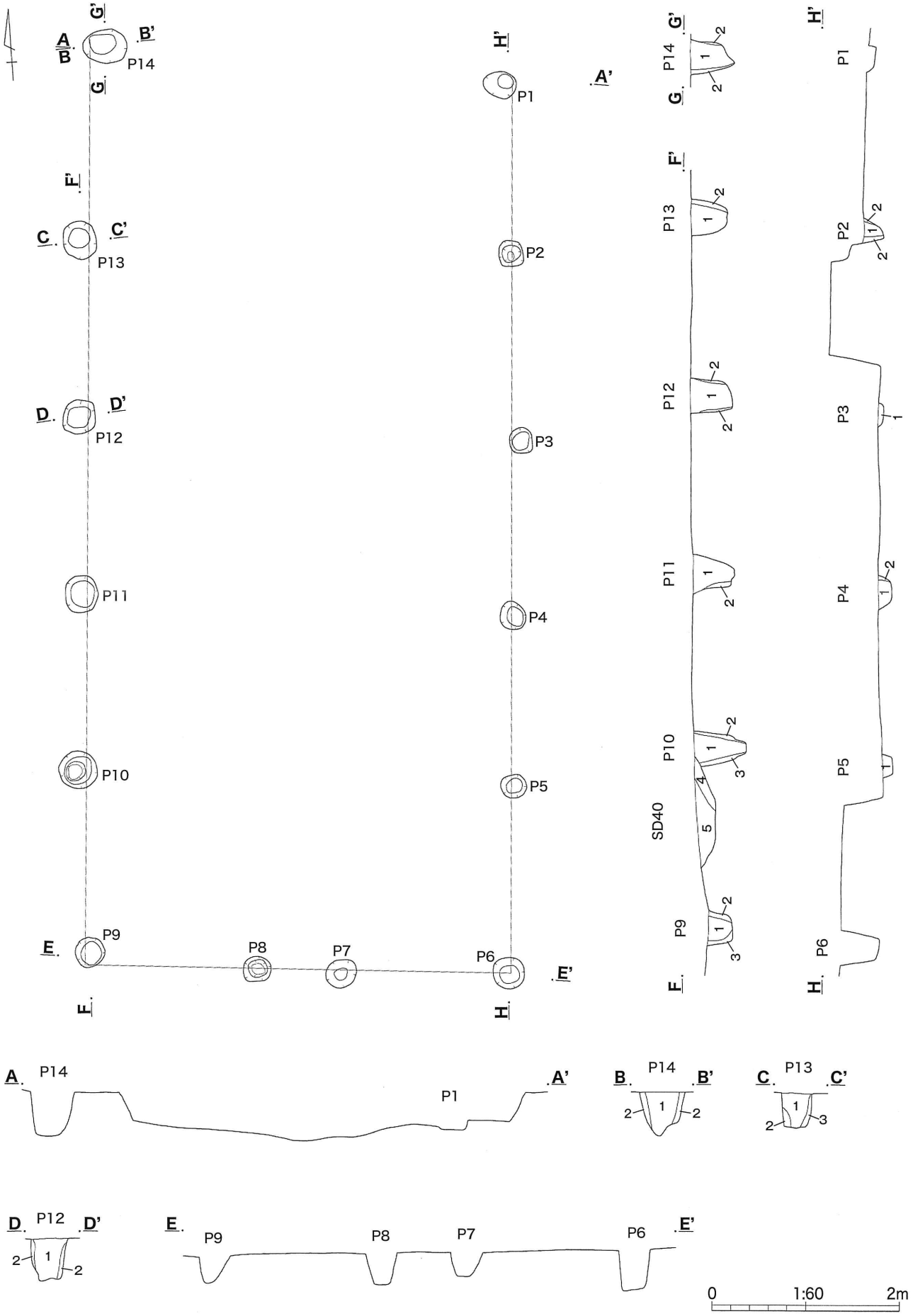
第66図　SB25・26（2）



P1
1 にぶい黄褐色土　(LR 多)
2 暗褐色土　(LR 少)
3 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 多)
4 にぶい黄褐色土　(LR 多)
5 にぶい黄褐色土　(LR やや多)
6 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
7 にぶい黄褐色土　(LR やや多，小 LB やや多)
P2
1 暗褐色土　(LR 少)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 多)
3 暗褐色土　(LR 少)
4 明褐色土　(LR やや多)
5 黄褐色土　(LR 極多，小 LB 少)
P3
1 明褐色土　(LR やや多)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多)
3 黄褐色土　(LR 極多，小 LB 少)
4 暗褐色土　(LR 少)
5 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 多)
P4
1 明褐色土　(LR やや多)
2 黄褐色土　(LR 極多，小 LB 少)
3 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
4 黄褐色土　(LR 極多，小 LB 少)
P5
1 にぶい黄褐色土　(LR 少，小 LB 少)
2 黄褐色土　(小 LB 主体)
3 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
4 暗褐色土　(LR 少)
5 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
6 黄褐色土　(LR 極多，小 LB 少)
P6
1 黒褐色土　(LR 微)
2 暗褐色土　(LR 少，小 LB 少)
3 暗褐色土　(LR やや多，小 LB 少)
4 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
P7
1 黒褐色土　(LR 微)
2 黄褐色土　(LR 極多)
3 暗褐色土　(LR 少)
P8
1 明褐色土　(LR やや多，小 LB 少)
2 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少)
(AA' ～ DD')L=88.100m

0　1:60　2m

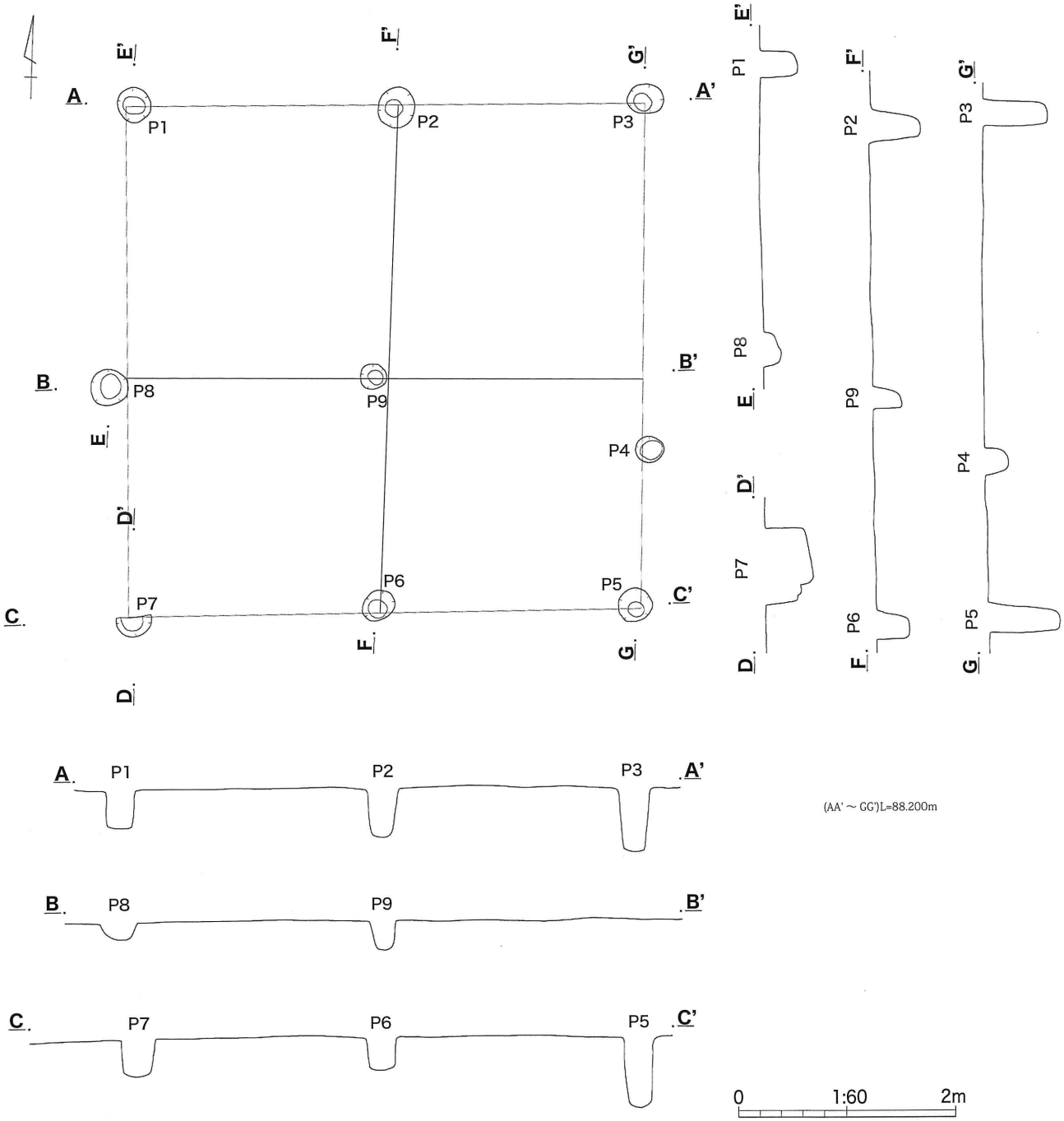
第67図　SB28


A
B
A'
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
SD40
0
1:60
2m

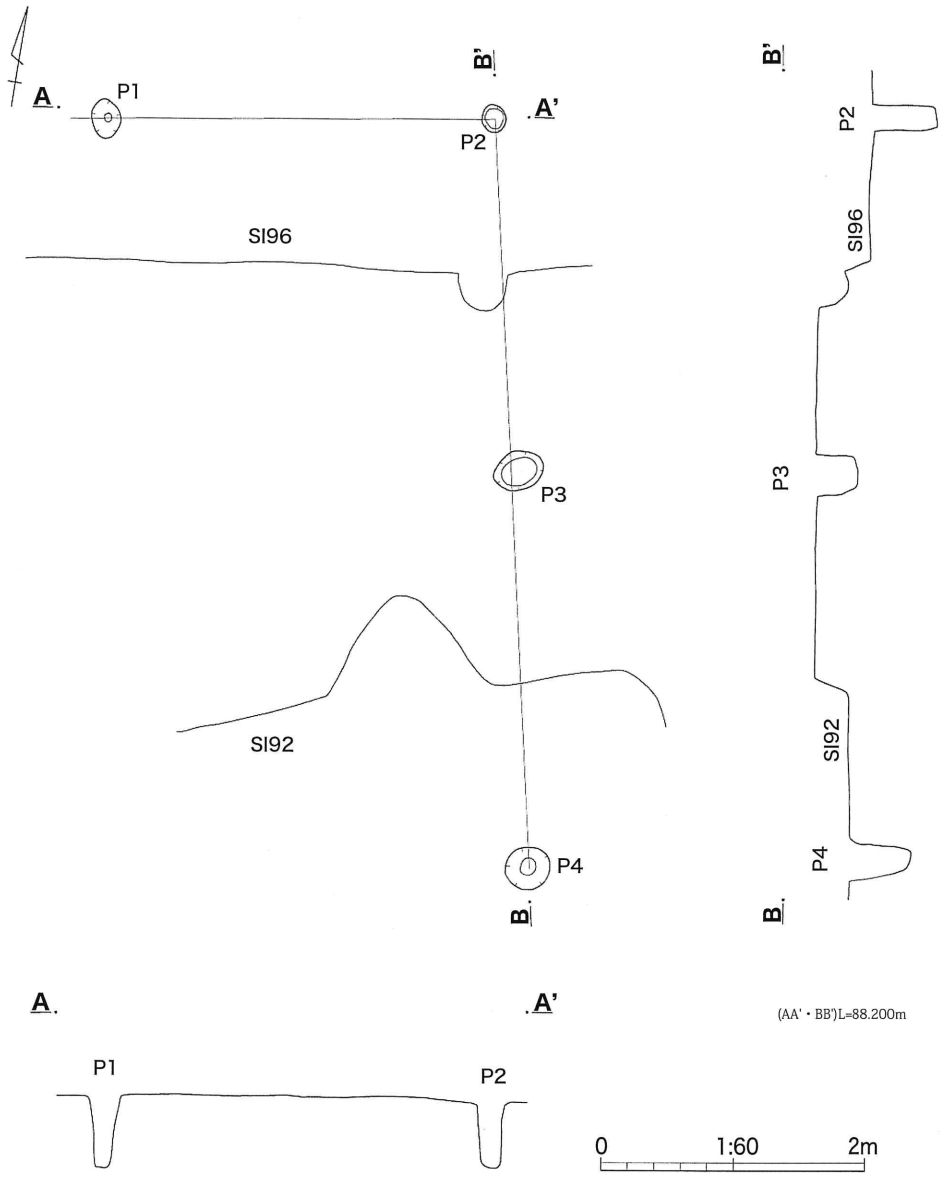
第68図　SB29（1）

P2
1 暗褐色土　(LR少)
2 暗褐色土　(LR少，小LB少)
P3
1 にぶい黄褐色土　(LRやや多，小LB少)
P4
1 暗褐色土　(LR少)
2 暗褐色土　(LR少，小LB少)
P5
1 暗褐色土　(LR少)
P9
1 黒褐色土　(LR微)
2 暗褐色土　(LR少)
3 暗褐色土　(LR少，小LB少)
P10・SD40
1 黒褐色土　(LR微)
2 暗褐色土　(LR少)
3 にぶい黄褐色土　(LR多)
4 明褐色土　(LRやや多)
5 暗褐色土　(LR少)
P11
1 黒褐色土　(LR微)
2 暗褐色土　(LR少，小LB少)
P12
1 暗褐色土　(LR少)
2 暗褐色土　(LRやや多)
P13
1 暗褐色土　(LR微)
2 暗褐色土　(LR少，小LB少)
3 暗褐色土　(LRやや多)
P14
1 暗褐色土　(LR少)
2 暗褐色土　(LRやや多)
(AA'～HH')L=88.300m

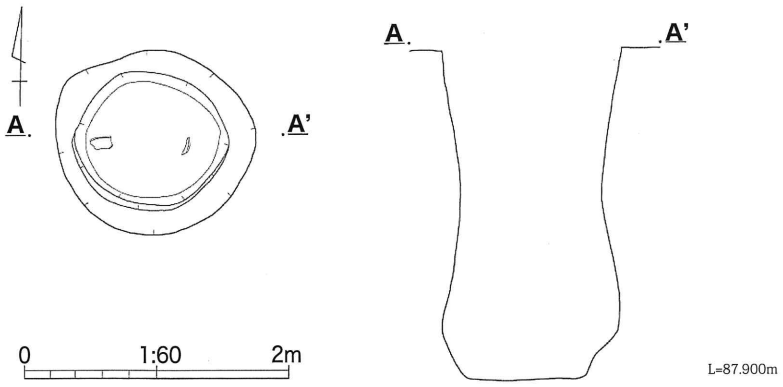
第69図　SB29（2）



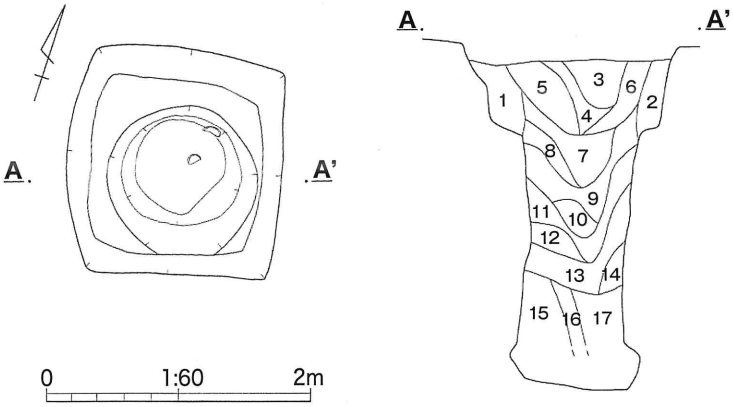
第70図　SB30


A
P1
B'
A'
P2
SI96
P3
SI92
P4
B
B'
P2
SI96
P3
SI92
P4
B
A
A'
(AA'・BB')L=88.200m
P1
P2
0
1:60
2m

第71図　SB35

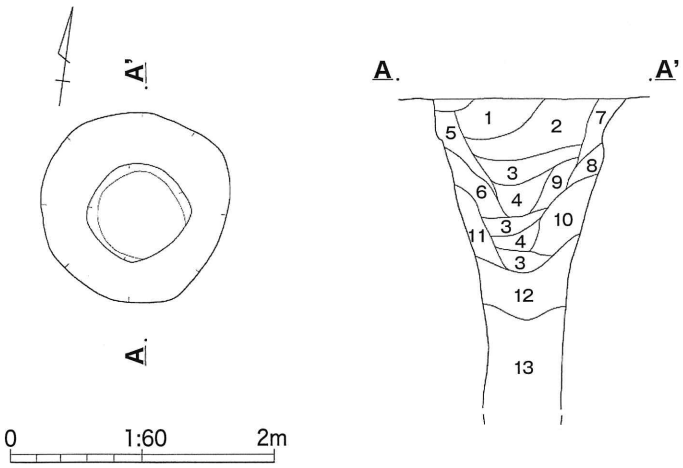


第72図　SE13



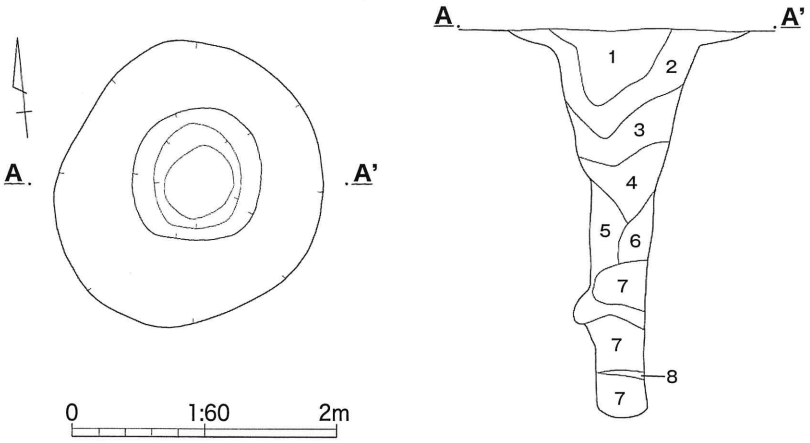
1 黄褐色土　(KP 主体)
2 暗褐色土　(KP やや多，LR 少)
3 黒褐色土　(LR 少，KP 微)
4 黒褐色土　(LR 少，KP 少)
5 にぶい黄褐色土　(LR やや多，KP 多)
6 暗褐色土　(LR やや多，KP 少)
7 暗褐色土　(LR 少，KP 微)
8 にぶい黄褐色土　(LR やや多，KP やや多)
9 にぶい黄褐色土　(LR 多，KP 多)
10 にぶい黄褐色土　(LR 極多)
11 暗褐色土　(LR やや多)
12 にぶい黄褐色土　(LR 極多，KP 多)
13 黒褐色土　(LR 少，KP 少)
14 暗褐色土　(LR やや多，小 LB 少，KP 少)
15 暗褐色土　(LR 少，KP 少)
16 にぶい黄褐色土　(LR 多，KP やや多，大 LB 少)
17 にぶい黄褐色土　(LR 極多，小 LB 多，KP 多)
L=88.200m

第73図　SE14



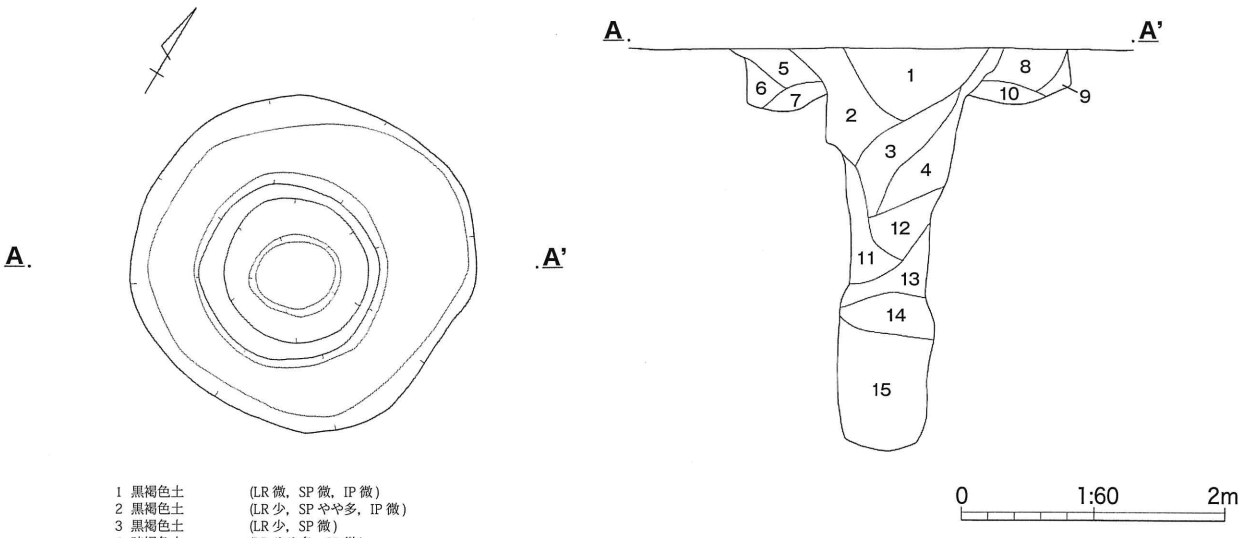
1 黒褐色土　(LR 少，KP やや多，IP 微)
2 黒褐色土　(LR 微，KP 少)
3 黒褐色土　(LR 少，KP 微)
4 黒褐色土　(LR 微，KP 微)
5 黒褐色土　(LR やや多，KP 少，IP 微)
6 にぶい黄褐色土　(LR 多，小 LB 少，KP 微)
7 黒褐色土　(LR 少，小 LB 少，KP 微)
8 にぶい黄褐色土　(LR やや多，小 LB やや多)
9 黒褐色土　(LR 少，KP やや多)
10 灰黄褐色土　(LR 多，KP 多)
11 にぶい黄褐色土　(LR 多，KP 少)
12 黒褐色土　(LR やや多，KP 少)
13 黄褐色土　(LB 主体)
L=88.300m

第74図　SE16



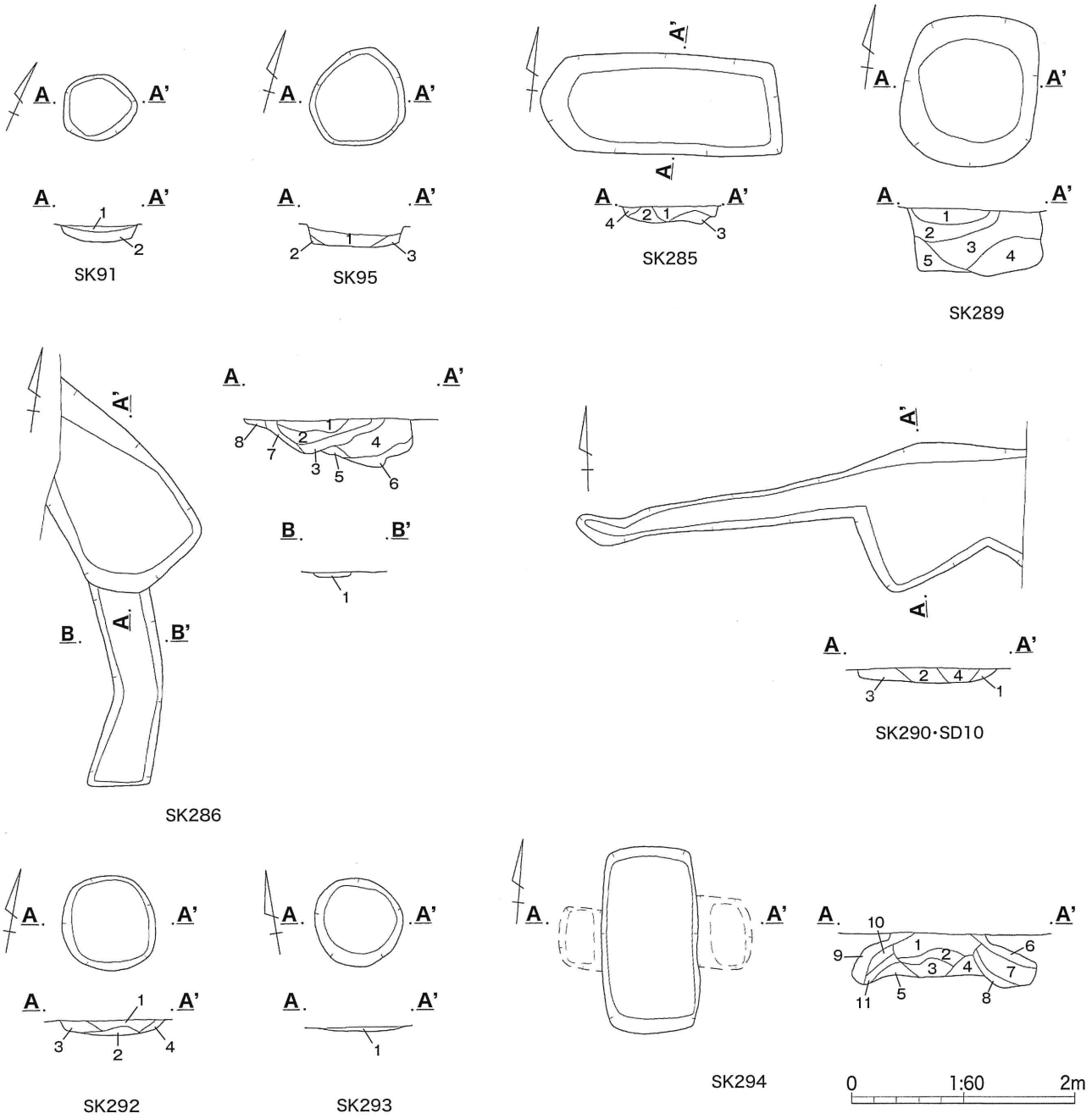
1 黒褐色土 (LR 少，SP 少，IP 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多，SP やや多，IP 微)
3 暗褐色土 (LR やや多，小 LB 少，SP 微)
4 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB やや多，大 LB 少，SP 微)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
6 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 多，大 LB 少)
7 黄褐色土 (LB 主体)
8 黒褐色土 (LR 少)
L=88.200m

第75図　SE19



1 黒褐色土 (LR 微，SP 微，IP 微)
2 黒褐色土 (LR 少，SP やや多，IP 微)
3 黒褐色土 (LR 少，SP 微)
4 暗褐色土 (LR やや多，SP 微)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB やや多，SP やや多)
6 黒褐色土 (LR 少，小 LB 少，SP 少)
7 にぶい黄褐色土 (LR 少，小 LB 多，大 LB 少，SP 微，KP 少)
8 暗褐色土 (LR 少，SP 微)
9 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少，SP 微)
10 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多，大 LB 多，SP 微)
11 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
12 黒褐色土 (LR 微)
13 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 多)
14 黒褐色土 (LR 少)
15 にぶい黄褐色土 (LB 主体)
L=88.200m

第76図　SE20



SK91
1 黒褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，大LB多)
L=87.700m

SK95
1 黒褐色土 (LR少)
2 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
3 にぶい黄褐色土 (LR多，大LB少)
L=87.700m

SK285
1 暗褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB多)
3 にぶい黄褐色土 (LR極多，大LB多)
4 暗褐色土 (LR少)
L=87.600m

SK286
AA'
1 暗褐色土 (LR少)
2 暗褐色土 (LRやや多)
3 にぶい黄褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
4 暗褐色土 (LR少，小LB少)
5 にぶい黄褐色土 (LRやや多)
6 黄褐色土 (LB主体)
7 明褐色土 (LR微，小LB少)
8 にぶい黄褐色土 (LR多)
L=87.900m
BB'
1 にぶい黄褐色土 (LR多)
L=87.900m

SK289
1 黒褐色土 (LR微，KP微)
2 黄褐色土 (LR多，LB多)
3 黄褐色土 (LR多，LB少)
4 黄褐色土 (LR多，小LB多，大LB少)
L=87.700m

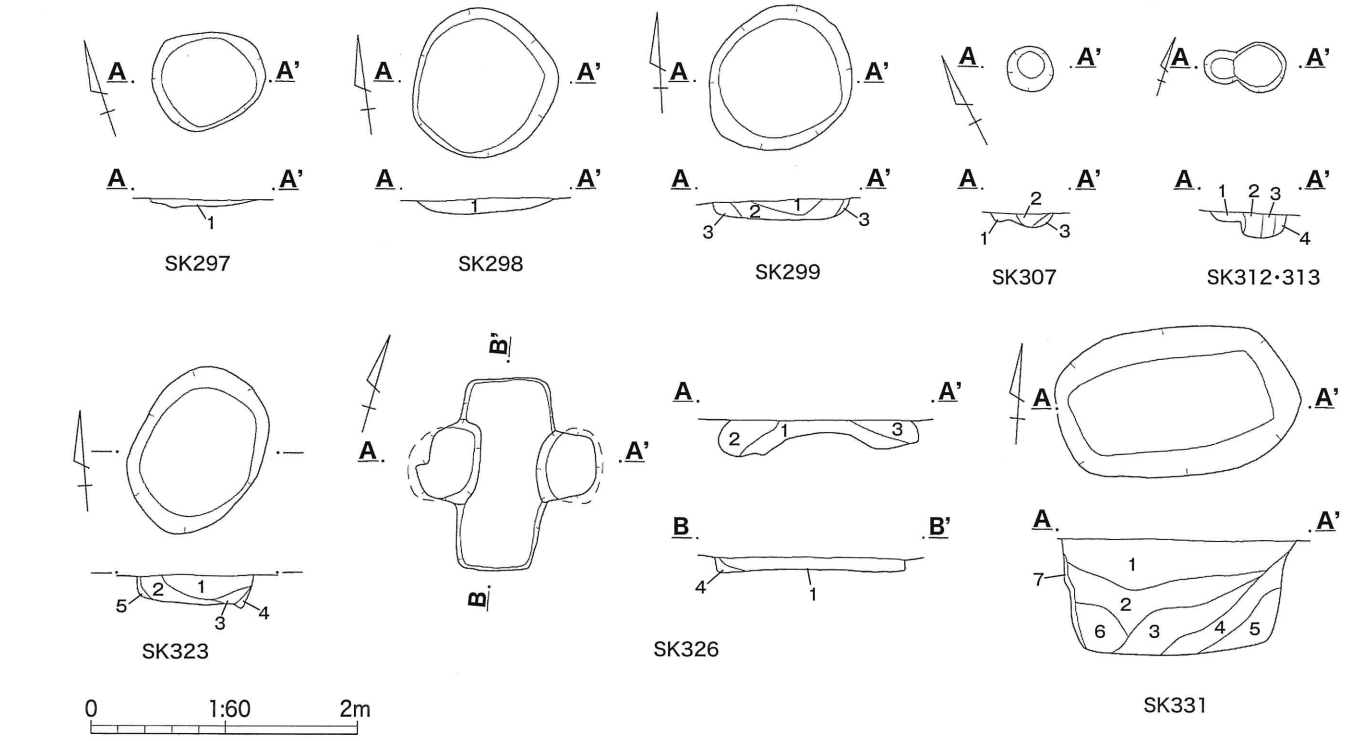
SK290
1 黒褐色土 (小LB少，LR少)
2 黒褐色土 (LR少)
3 黒色土 (小LB微，LR微)
L=87.900m

SK292
1 黒褐色土 (小LB少)
2 黒褐色土 (LR少，小LB少)
3 黒褐色土 (LR少)
L=87.900m

SK293
1 黒褐色土 (LR少，小LB微)
L=87.900m

SK294
1 暗褐色土 (LR多，小LB多)
2 暗褐色土 (LR多，小LBやや多)
3 暗褐色土 (LRやや多，小LB少)
4 暗褐色土 (LR少)
5 暗褐色土 (LR少，小LBやや多)
6 暗褐色土 (LR少，小LB少)
7 暗褐色土 (LR微)
8 暗褐色土 (小LB少)
L=87.800m

第77図　土坑（1）



SK297
1 黒褐色土 (LB 微，LR 少)
L=87.900m

SK298
1 黒褐色土 (小 LB 微，LR 少)
L=87.900m

SK299
1 黒褐色土 (小 LB 微，LR 少)
2 黒褐色土 (小 LB 少，LR 少)
3 暗褐色土 (LR 多)
L=87.900m

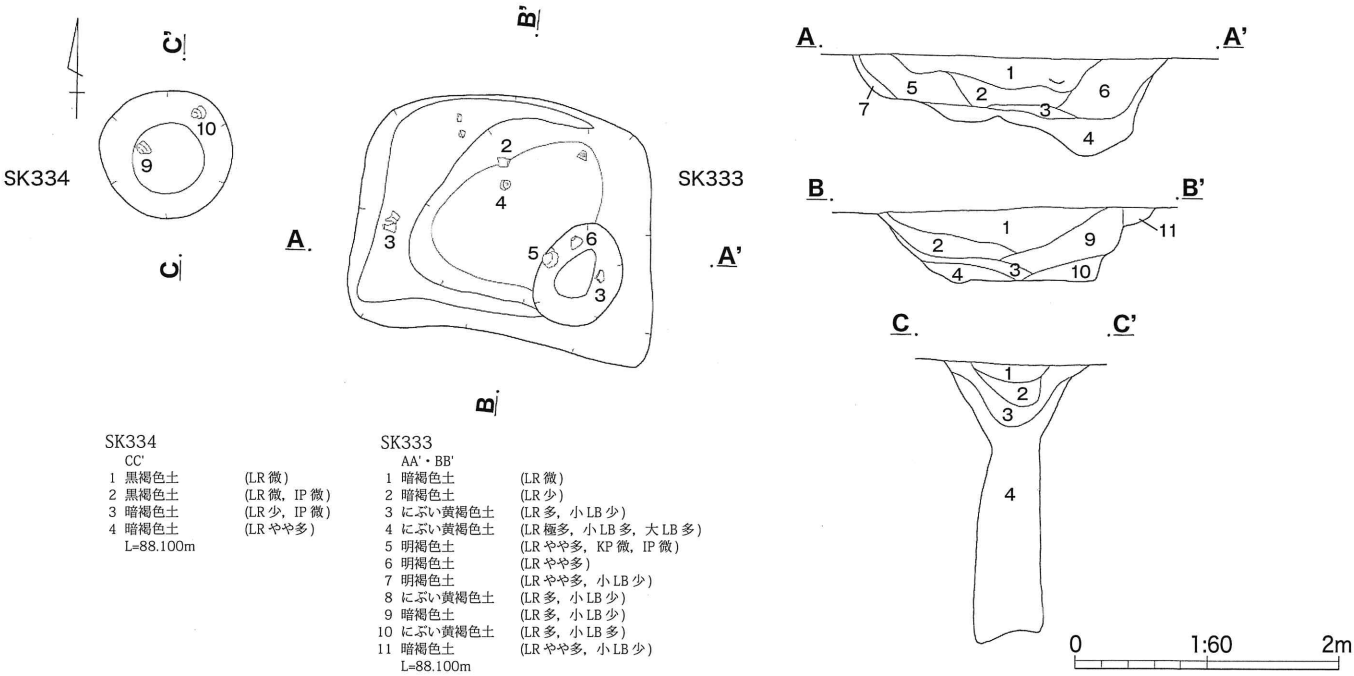
SK307
1 にぶい黄褐色土 (LR 多)
2 暗褐色土 (LR やや多)
L=87.900m

SK312・313
1 にぶい黄褐色土 (LR 多)
2 暗褐色土 (LR 微)
3 暗褐色土 (LR やや多)
L=87.900m

SK323
1 黒褐色土 (LR 少)
2 黒褐色土 (LR やや多)
3 黒褐色土 (LR 微)
4 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
5 暗褐色土 (LR 少)
L=87.900m

SK326
AA'・BB'
1 暗褐色土 (LR 少，小 LB)
2 暗褐色土 (LR 少，小 LB 微)
3 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少)
4 暗褐色土 (LR 少)
L=87.800m

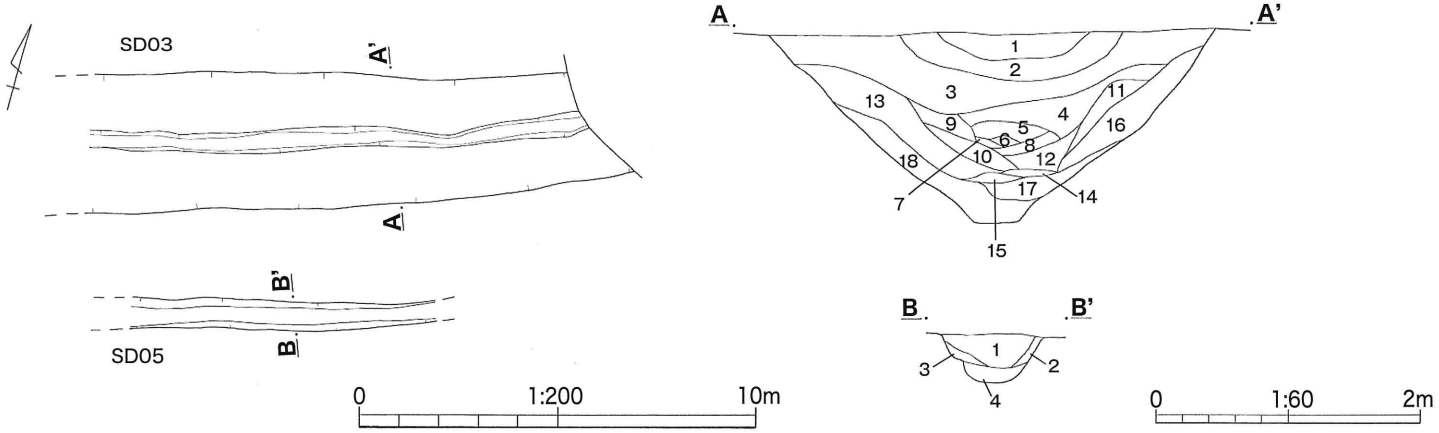
SK331
1 黒褐色土 (LR 微，IP 微)
2 暗褐色土 (LR 少，IP 微)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多，IP 微)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多，大 LB 多)
5 黄褐色土 (大 LB 主体)
6 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
7 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB やや多)
L=88.300m



SK334
CC'
1 黒褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 微，IP 微)
3 暗褐色土 (LR 少，IP 微)
4 暗褐色土 (LR やや多)
L=88.100m

SK333
AA'・BB'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 多，大 LB 多)
5 明褐色土 (LR やや多，KP 微，IP 微)
6 明褐色土 (LR やや多)
7 明褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
8 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
9 暗褐色土 (LR 多，小 LB 少)
10 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
11 暗褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
L=88.100m

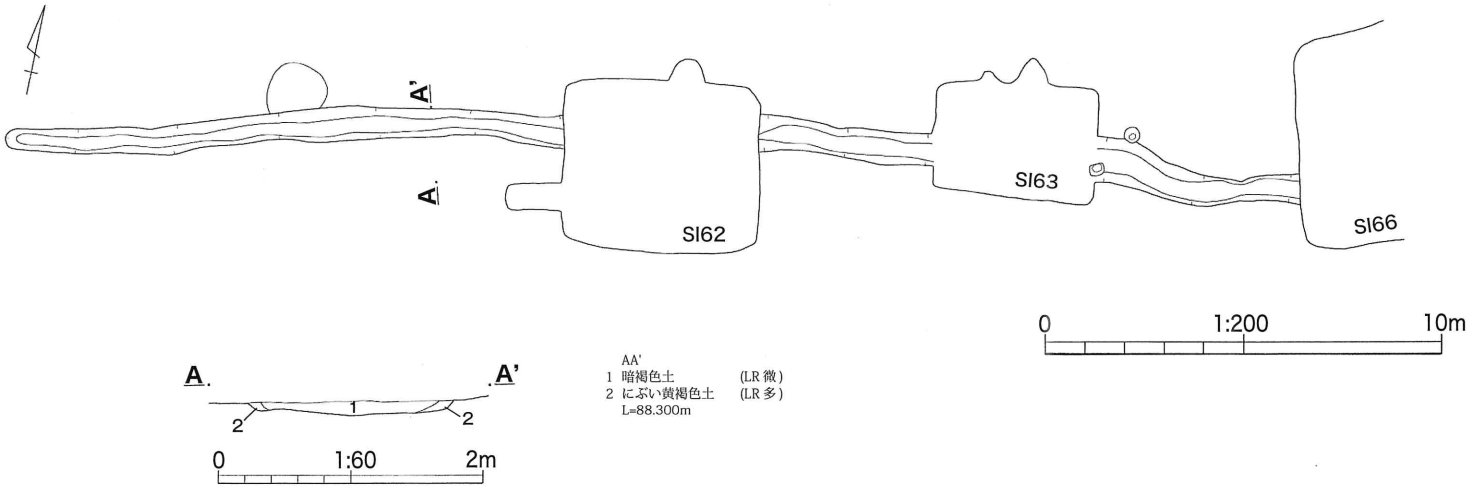
第78図　土坑（2）



AA'
1 黒褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 微)
3 暗褐色土 (LR 少，KP 微)
4 暗褐色土 (LR 少，KP 少)
5 明褐色土 (LR 少，小 LB 少，KP やや多)
6 黄褐色土 (KP 主体)
7 明褐色土 (小 LB 少，KP 多)
8 黄褐色土 (KP 極多)
9 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少，KP やや多)
10 明褐色土 (LR 少，KP 多)
11 暗褐色土 (LR 微，KP 少)
12 暗褐色土 (LR 微，KP 微)
13 明褐色土 (LR 少，小 LB 少，KP 多)
14 明褐色土 (KP 少)
15 にぶい黄褐色土 (LR 少，小 LB 少，KP やや多)
16 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少，KP 少)
17 暗褐色土 (LR 微，KP やや多)
18 明褐色土 (LR 少，KP 少)
L=87.500m

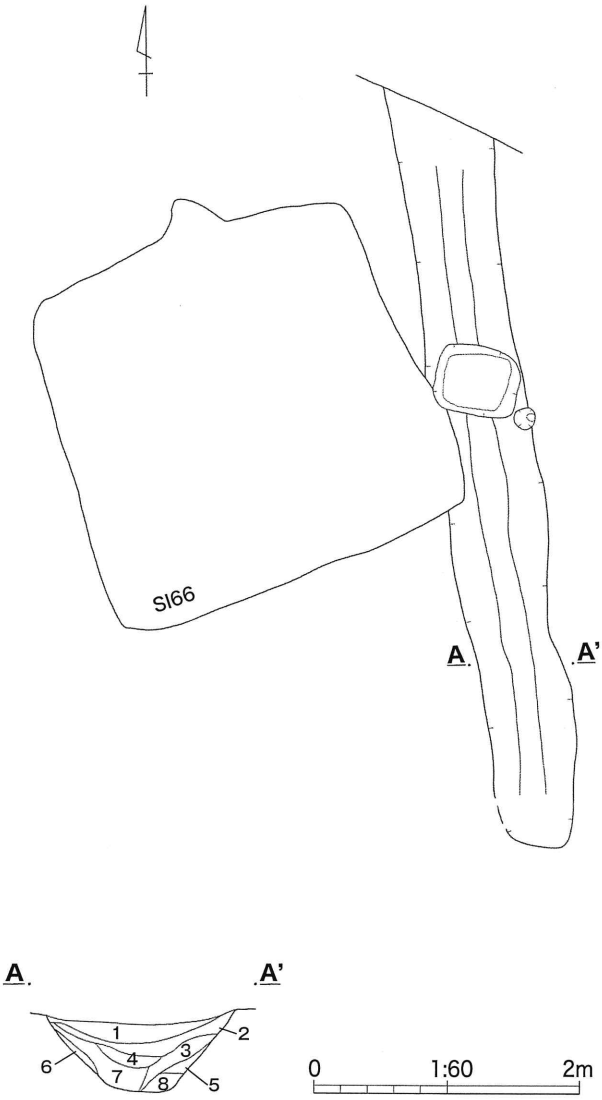
BB'
1 黒褐色土 (LR 少)
2 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
L=87.700m

第79図　SD03・05



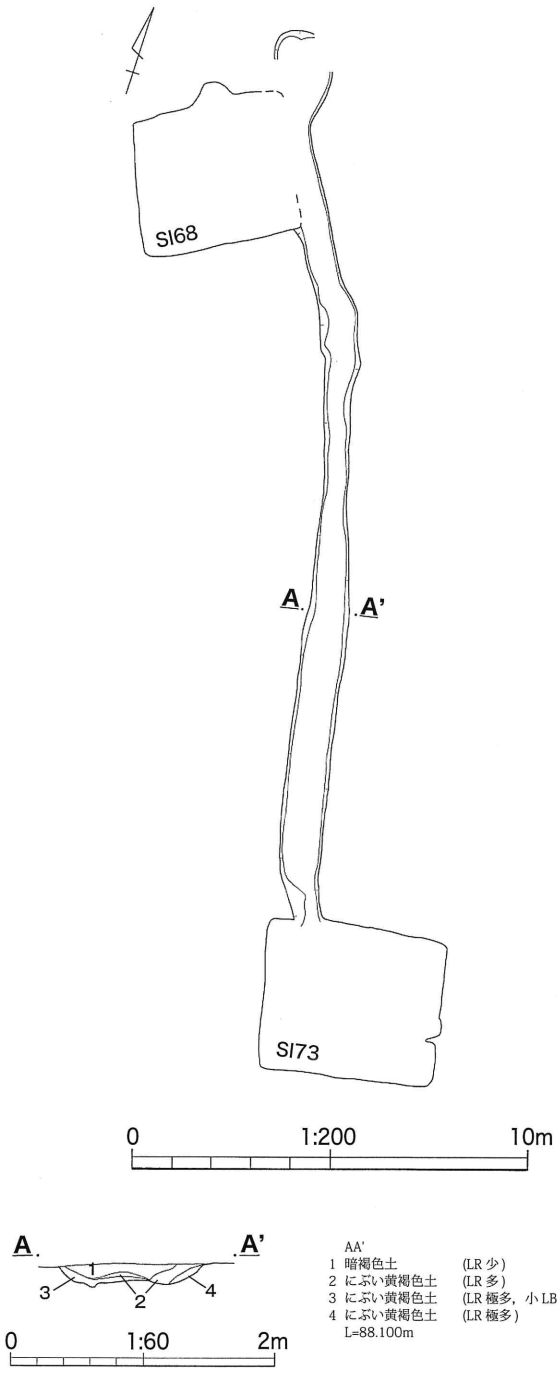
AA'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多)
L=88.300m

第80図　SD40



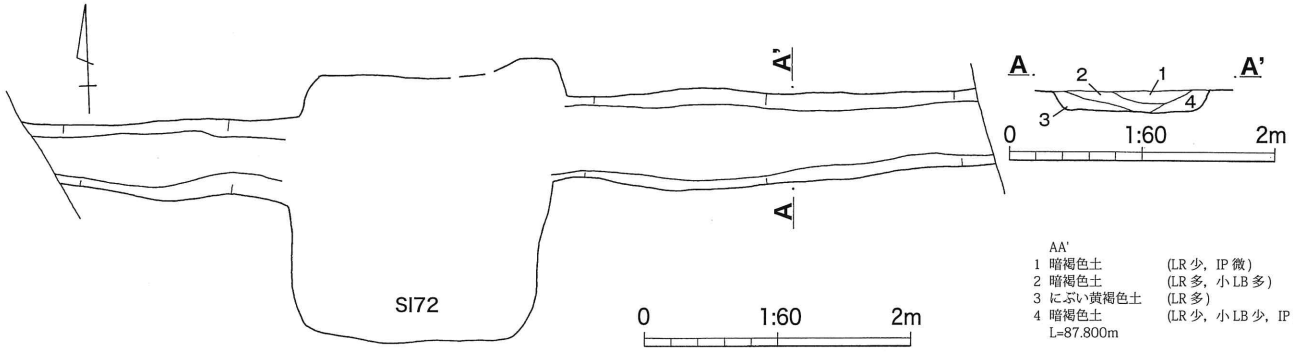
AA'
1 暗褐色土 (LR少，IP微)
2 にぶい黄褐色土 (LR多，小LB多)
3 明褐色土 (LRやや多，小LBやや多)
4 暗褐色土 (LR少，IP微)
5 にぶい黄褐色土 (LR多)
6 暗褐色土 (LRやや多)
7 暗褐色土 (LR微)
8 にぶい黄褐色土 (LR極多)
L=88.300m

第81図　SD41



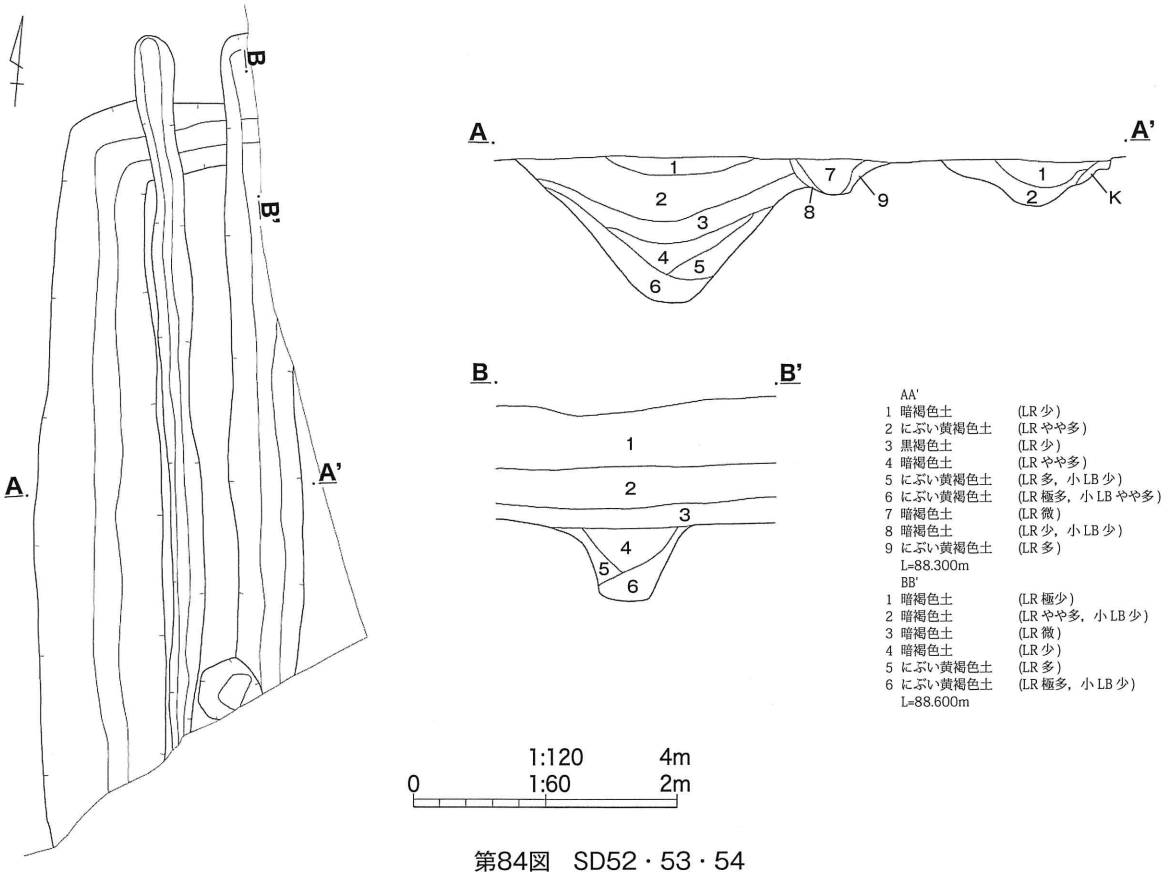
AA'
1 暗褐色土 (LR少)
2 にぶい黄褐色土 (LR多)
3 にぶい黄褐色土 (LR極多，小LB多)
4 にぶい黄褐色土 (LR極多)
L=88.100m

第82図　SD43



AA'
1 暗褐色土 (LR少，IP微)
2 暗褐色土 (LR多，小LB多)
3 にぶい黄褐色土 (LR多)
4 暗褐色土 (LR少，小LB少，IP微)
L=87.800m

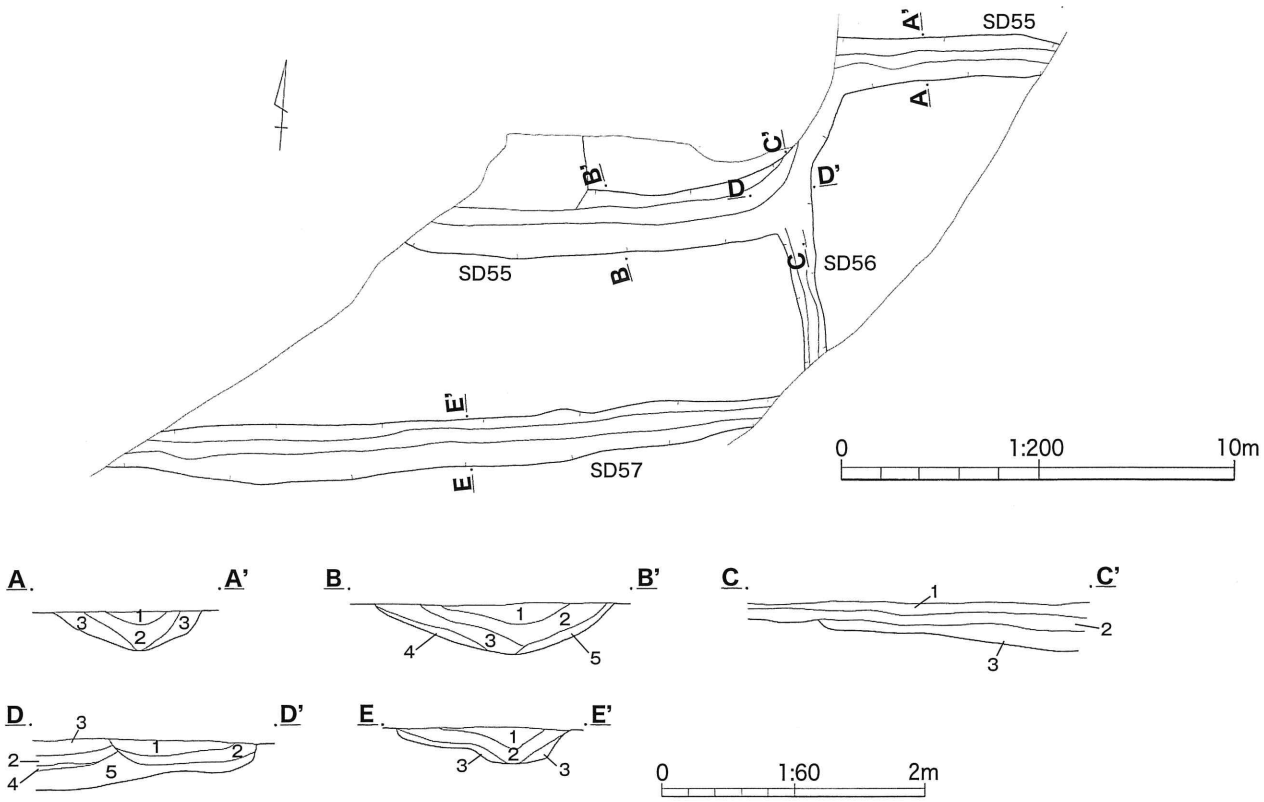
第83図　SD44



AA'
1 暗褐色土 (LR 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
3 黒褐色土 (LR 少)
4 暗褐色土 (LR やや多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
6 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB やや多)
7 暗褐色土 (LR 微)
8 暗褐色土 (LR 少，小 LB 少)
9 にぶい黄褐色土 (LR 多)
L=88.300m

BB'
1 暗褐色土 (LR 極少)
2 暗褐色土 (LR やや多，小 LB 少)
3 暗褐色土 (LR 微)
4 暗褐色土 (LR 少)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多)
6 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 少)
L=88.600m

第84図　SD52・53・54



AA'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
L=88.400m

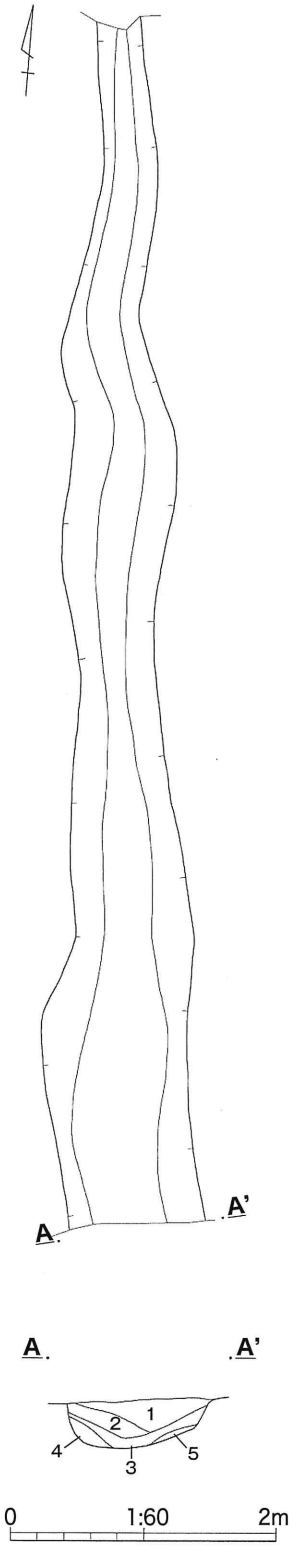
BB'
1 暗褐色土 (LR やや多)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 極多)
L=88.400m

CC'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 にぶい黄褐色土 (LR 極多)
L=88.400m

DD'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 暗褐色土 (LR 少)
3 暗褐色土 (LR やや多)
4 にぶい黄褐色土 (LR 多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 極多)
L=88.400m

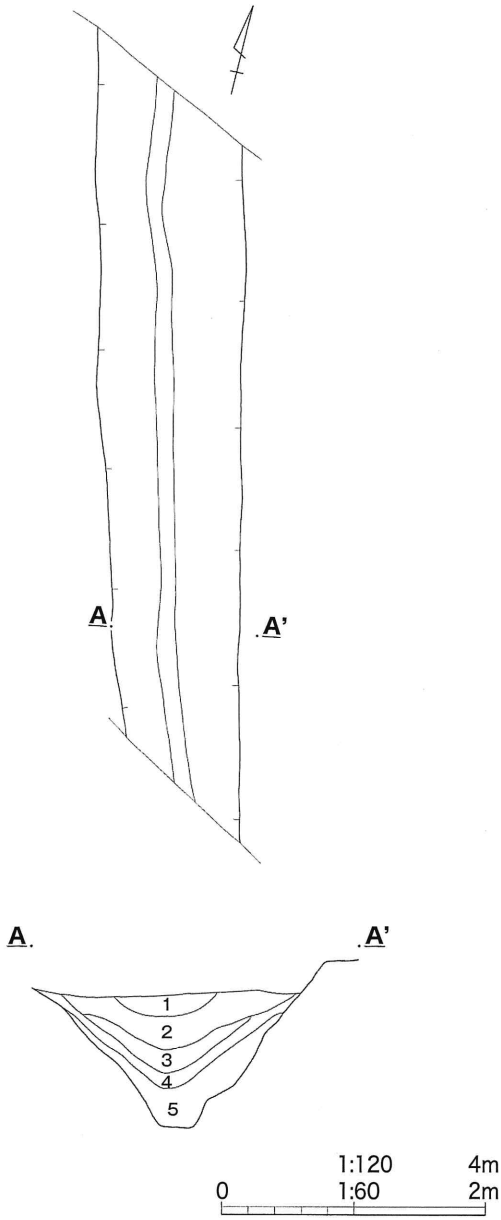
EE'
1 暗褐色土 (LR やや多)
2 にぶい黄褐色土 (LR 多)
3 にぶい黄褐色土 (LR 極多)
L=88.400m

第85図　SD55・56・57



AA'
1 暗褐色土 (LR 少)
2 にぶい黄褐色土 (LR やや多)
3 にぶい黄褐色土 (LR 多)
4 にぶい黄褐色土 (LR 極多，小 LB 多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多，小 LB 少)
L=88.900m

第86図　SD58



AA'
1 暗褐色土 (LR 微)
2 黒褐色土 (LR 微)
3 黒褐色土 (LR 少)
4 黒褐色土 (LR やや多)
5 にぶい黄褐色土 (LR 多)
L=88.000m

第87図　SD59